

文部科学省調査研究事業

「多様性に応じた  
新時代の学び充実支援事業」

～通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信  
及び

横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及～

令和4年度 報告書



神奈川県立横浜修悠館高等学校



## 目次

I	はじめに	2
II	令和4年度事業計画	3
	1 調査研究課題名	
	2 調査研究の目的	
	3 調査研究の内容・方法・実施体制	
	4 効果測定等の方法	
	5 研究概要図・校内体制図	
III	通信制高等学校の学びの仕組みと横浜修悠館高等学校の重層的支援	10
IV	令和4年度調査研究事業の内容及び成果と課題	14
	① 1班（通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信）	
	② 2班（横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及）	
V	学校訪問報告	92

## I はじめに

「令和の日本型学校教育」答申及び令和4年度高等学校新学習指導要領では、変化する社会に対応することのできる人材の育成が目指され、「主体的・対話的で深い学び」の効果的な実践が重要とされています。

本校5期目の文部科学省研究事業2年目においても「全ての生徒たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学び」の実現を目標として、令和4年度18科目のレポート（報告課題）の【思考・判断・表現】の探究的な問いに対するルーブリック評価の検証と令和5年度33科目のレポートの作成を全教科で実施しました。

また、さらなる「深い学び」を意識し、ICTを活用したスクーリングでの自己表現活動、他者との意見の共有と振り返りなど、通信制における新たな学習モデルを構築しています。

5年前20人にひとりだった通信制高校に通う生徒が、13人にひとりとなった今、通信制高校における柔軟な学びのシステムと共に教育の質の確保が求められています。

とりわけ公立通信制高校に通う生徒の特性や家庭環境等の多様化もさらに進んでおり、本校でも学び直し支援から社会とつながるキャリア支援に至るまで、教育活動全体を通じて個別最適な学びが社会的ニーズとして求められています。

本校は、通信教育に対する多様なニーズに対応し、「日曜講座」「IT講座」「平日講座」を科目ごとに選べる新しいタイプの公立通信制単独校（単位制による通信制の課程・普通科）として平成20年4月に開校し15年が経ち、開校以来、文部科学省の研究事業に取り組んできたところです。

平成21-22年：「高等学校における発達障がいのある生徒の支援」

平成24-26年：「高等学校における特別な教育的ニーズを有する生徒の自立及び円滑な社会参加を可能とする教育課程の編成及び指導方法、評価方法の検討」

平成27-29年：「定時制・通信制課程における支援相談体制の構築

—外部機関とのネットワークづくりや重層的支援の充実を通して—

平成30-令和2年：「通信制課程における多様な学習ニーズを支える持続可能な体制の構築」

令和3-5年：「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」

—通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信及び横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及—

今後も横浜修悠館高校だからできる教育活動に挑戦し、本研究成果を全国の高等学校通信制教育に携わる多くの先生方と共有できますよう発信してまいります。

令和5年3月

神奈川県立横浜修悠館高等学校

校長 原口 瑞

## Ⅱ 令和4年度事業計画

### 1 調査研究課題名

「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」

～通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信 及び  
横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及～

### 2 調査研究の目的

多様化する生徒の教育的ニーズに応じるため、次の3点を目的とする。

#### (1) 通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信

通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信について、レポート・スクーリングの改訂という視点での見直しを行う。令和4年度から新学習指導要領が実施されることに伴い、レポート・スクーリングの大幅な改訂が必要となる。その際に、全教科において、深い学びにつながる探究的な問いを設定し、また、生徒が見通しをもってレポート学習やスクーリングに取り組めるようにするために観点別評価「思考・判断・表現」の評価基準《目標の達成度》(ルーブリック評価)を活用して設定するなどスクーリングの見直しも必要となる。また、探究的な問いについては、ICT活用の機会を増やすことにより生徒の学習活動を活性化させ、生徒の学びの変容を見取る。

さらに、探究的な学びを支援するため、新たに電子図書館の開設等を進め、これまで学校全体で進めてきたICT環境のさらなる充実と活用に努めたい。特にスクーリングにおけるICTの有効活用を研究することで、生徒の特性や学習環境の多様化に応える。

#### 【レポート・スクーリングの見直しについての課題】

##### 【課題①】問いの設定について

- ・レポートの「問い」の難易度をどのように設定するか。
- ・数学における正解のない「問い」などのように、深い学びにつながる「問い」をどのように設定するか。

##### 【課題②】わかりやすい評価基準の設定について

- ・「思考・判断・表現」の「問い」に記載する評価基準を、生徒にとって学習の見通しが立てやすく分かりやすいものにするためにはどのような工夫が必要か。

##### 【課題③】日曜講座・IT講座受講生徒への指導体制の構築について

- ・平日講座は、スクーリングの回数が多く、継続的に生徒へのICT活用による情報の収集・活用・表現の指導が可能である。
- ・日曜講座・IT講座は、スクーリングの回数が週1回以下と少ないため、受講者に対してどのように指導しフォローしていくか。

#### (2) 横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及

横浜修悠館高校がこれまで15年かけて構築してきた個別最適な学びを実現するための、外部の教育的人材を活用した協働的な学びの仕組み「学びのコミュニティ」の成果を検証し、改善充実させ全国に普及していく。

## 横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」

- 【トライ教室】小中学校の学びなおし、補習教室
- 【架け橋教室】外国につながるのある生徒の学習相談・生活支援
- 【キャリア・ポート（自校通級・他校通級）】高校通級指導
- 【キャリア活動C】進路体験活動

活用生徒の単位修得率やキャリア意識・進路実績を分析することで、より効果的な運営方法の提案、活動内容の精選や改善ができ、その成果を広く発信する。

### 【「学びのコミュニティ」プログラムについての課題】

自由参加である「トライ教室」「架け橋教室」（外部人材を活用した学び直しコミュニティ）は、短期間での効果検証が難しいが、「キャリア・ポート（高校通級指導）」や「キャリア活動C」は社会参加に向けた明確な目標があり、学習プログラムが豊富で、生徒の変容や学習成果が見取りやすい。

また、これらの定性的指標による柔軟な生徒の成長の見取りは、社会参加を見通した通信制高校の対面による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な事例として大きな意味を持つ。

本校の「学びのコミュニティ」プログラムの改善にあたっては、生徒の変容や学習効果を、どのように見取ってプログラムに反映させるか、定量的指標とともに定性的指標の設定が課題である。

### （3）2つの研究テーマによる学習効果の向上を図り、検証する

通信制における「ICTを活用した『主体的・対話的で深い学び』の実践」に基づくスクーリングでは、多様な背景を持つ生徒が、「問い」に対する他者の意見を得た上で、自分の考えを深めることができる。また、レポートのルーブリック評価を自ら行うことで、学習に見通しと意欲が持てるようになる。

「キャリア・ポート（高校通級指導）」「キャリア活動C」では、生徒が自己理解を深めることによって、自信を持って社会参加できるようになる。

また、自己表現と応答の繰り返しにより、学習意欲が高まり、学習内容が「わかる」ことの楽しさを求めて「トライ教室」「架け橋教室」に通い続けるという好循環が生まれる。まさに「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な学習効果が期待される。

## 3 調査研究の内容・方法・実施体制

### ①調査研究の内容・方法

共通

#### ○実施場所

- ・校内教科会・校内研究チーム会合（毎週木曜日定例ミーティング 16:00～17:00）
- ・校内企画会議・職員会議

#### （1）通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信

#### ○教育課程上の位置付け令和3年度～令和5年度

- ・新学習指導要領新規開講 40 科目のレポートとスクーリング内容改訂。
- ・レポートに提示するための、深い学びにつながる問いや探究的な問いを教科で開発する。

- ・ 探究的な問いに対する学習の見通しが立てやすくなるよう、評価基準《目標の達成度》（ルーブリック評価）を検討し、レポート観点別評価「思考・判断・表現」に入れ込む。
- ・ レポート1冊目の教科試作（7月）、研究チームの検討（7月）、全教科等横断検討会（8月）、企画会議（9月）

○協力機関等との役割分担

- ・ ICTを活用した様々な学習支援体制の整備のために教員3名とICT支援員1名が協働する。

(2) 横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」改善普及

学習コミュニティ	教育課程上の位置づけ	実施場所	協力機関等
【トライ教室】 学びなおし 補習	月水木⑤⑥限 自由参加	本校 UD教室	教員8名 YSKサポーター (学習支援ボランティア)8名
【架け橋教室】 外国につながるの ある生徒への 学習支援・生活支援	火水木 11～14時 教科「国際」 科目「日本語」 2単位	本校 社会学習室	教員3名 多文化教育コーディネーター1名 会計年度任用職員1名 学習支援員3名
【高校通級指導】 自校通級 他校通級	月①木④ 隔週日④⑤ 「自立活動キャリア・ポート」 35時間1単位	本校 UD教室	教員10名 高校教育課2名 総合教育センター1名
【キャリア活動】 進路体験活動	火⑤⑥限 「キャリア活動C」 2単位	本校 UD教室	教員8名 湘南・横浜若者サポートステーション職員2名 キャリアアドバイザー4名

※UD教室：本校学習環境のユニバーサルデザイン集「修悠館スタンダード」にのっとり、天吊りプロジェクターと大きなスクリーンのほか、黒板の周りに掲示物のない、生徒が集中できる教室。

②調査研究の実施体制

本校に在籍している多様な生徒に対し、図1・図2(本書P.8～9)のような実施体制で2つの視点から調査・研究を進める。

(1) 通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信

日々のレポート学習、スクーリングの工夫・実践を積み重ねることにより、卒業後に変化の激しい社会に対応するための力をどのように育成していくのかについて研究する。その際、レポートにおいては新学習指導要領に向けた深い学びにつなげる「問い」の設定や、学びの方向性を示す「ルーブリック評価」の設定など、通信制における「主体的・対話的で深い学び」のあり方について学習モデルを構築していく。スクーリングにおいては、ICTの効果的な活用により生徒の学びを促進させる方策の検討や、通学型の「平日講座」での出席票の工夫により、レポートの補完だけにとどまらないスクーリングのあり方を検討する。また、通信制の特性を活かした「電子図書館」の体制構築・運用方法の検討を行うことにより、いつでも・どこでも図書資料に触れる環境を提供することにつながり、レポートやスクーリングとの連携も期待できる。

## (2) 横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」改善普及

本校の協働的な学びが生徒の学習活動や進路意識に与える影響について定量的・定性的に分析し、効果の検証を行う。その際、学校資源だけでなく、外部の教育資源も有効に活用することで社会につながり、それぞれのニーズに応じた個別最適な支援が実現できるものと考えられる。また、これらの「学びのコミュニティ」プログラムを全国に発信することにより普及を図る。

## 4 効果測定等の方法

### (1) 通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信

#### 《定量的指標》

- ・レポートの提出総数が前年比でどのように推移したか。
- ・スクーリングの出席回数が前年比でどのように推移したか。
- ・試験受験者数が前年比でどれだけ推移したか。
- ・科目による単位修得率が前年比でどれだけ推移したか。
- ・生徒の意識の変容をみるためのアンケートを実施する。

#### 《定性的指標》

- ・県実施 生徒による授業評価（8項目4段階）年2回
- ・教科会での成績単位修得考察 年2回
- ・校内職員意識アンケート
- ・「問い」が生徒の深い学びにどのような影響を与えたか。生徒の学ぶ意欲にどのような効果をもたらしたか。
- ・生徒が、レポートの探究的な問い（「思考・判断・表現」の観点として設定）に取り組むに当たっての見通しが立つルーブリック評価を設定することによって、生徒の学びの質の向上にどのような影響を与えたか。
- ・深い学びにつながる「問い」について、職員の検討を積み重ねた結果、職員の意識にどのような変容が見られたか。

### (2) 横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及

#### 《定量的指標》

- ・全体を通して、アンケートや学習の進み具合を数値的に測ることにより、これらのコミュニティの運営方法について検討し、より効果的な学習プログラムを構築していく。

#### 《定性的指標》

- ・トライ教室（学び直し・補習教室）の活用によって生徒のレポート完成にどのような効果をもたらしたか。
- ・架け橋教室（外国につながる生徒支援）の活用によって生徒の日本語能力、レポート完成にどのような影響を与えたか。
- ・キャリアポート（通級指導）において生徒の自立に向けたスキルや意識はどのように変容したか。
- ・キャリア活動C（進路講座）において生徒の職業観や就労に対する意識はどのように変容したか。



(3) 2つの研究テーマによる学習効果の向上を図り、検証する

《定量的指標》

・上記(1)の実活動生徒に対する単位修得率の向上等と、上記(2)に参加する生徒の学習の進捗状況等、実際の数値がどのように推移したか。

《定性的指標》

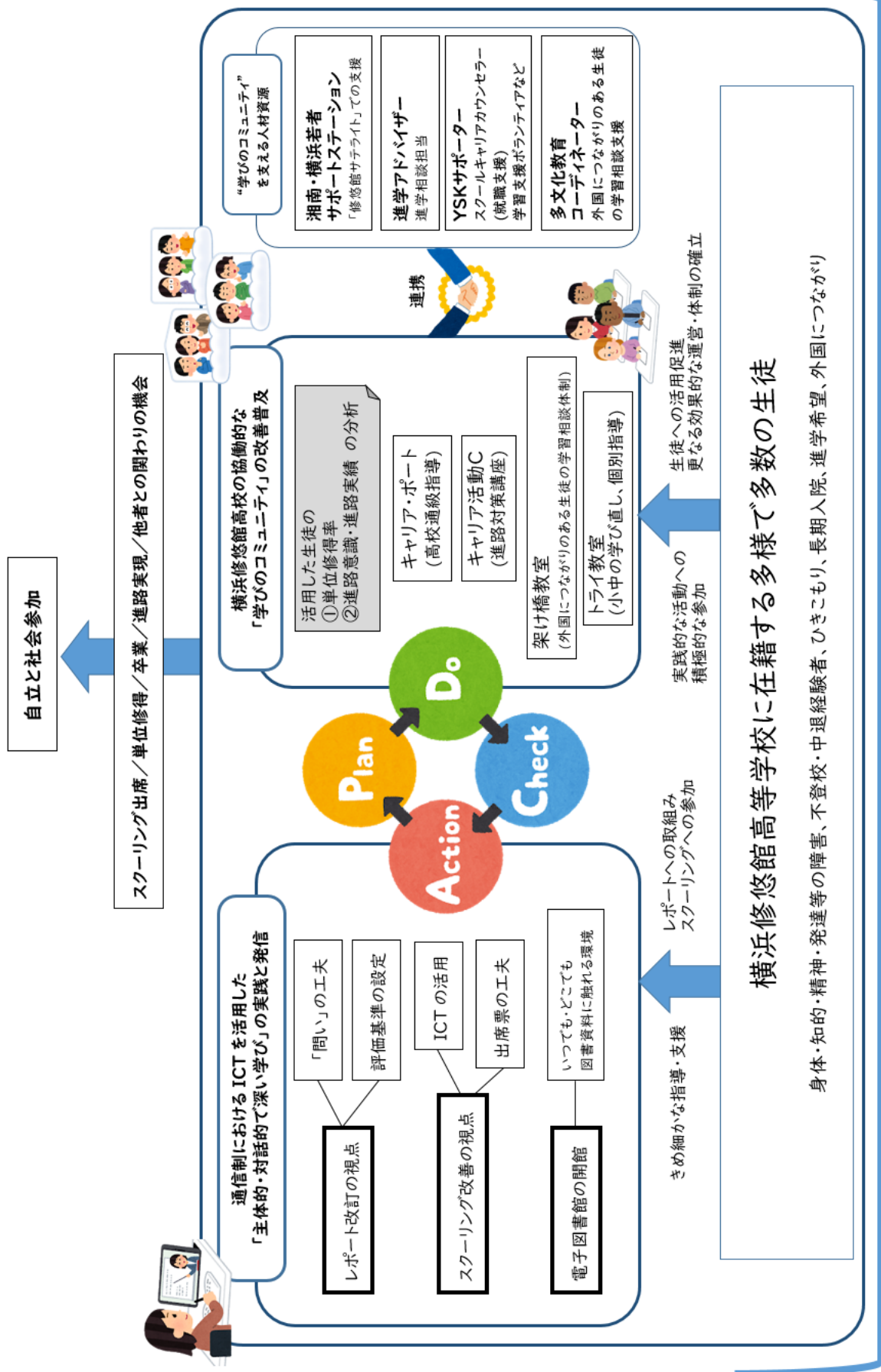
・上記(1)の実活動生徒全体と、上記(2)に参加する生徒の学習に対する意欲がどのように変容したか。また指導する教員及び連携する学習支援者の意識がどのように変容したか。



【1班「通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信」会合の様子】



【2班「横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及」会合の様子】



ICT活用環境(全教室プロジェクター・スクリーン完備、Chromebook 常設ルーム、BYOD)

図1 研究概要図

表の見方
氏名
教科
グループ
着任年数

通信制におけるICTを活用した  
「主体的・対話的で深い学び」の  
実践と発信

リーダー

深田
地歴公民
教育相談
5年目

スクーリング・レポートの  
改訂検討

吉見	大澤	川瀬	坂井	金子
国語	地歴公民	数学	保健体育	芸術
生徒活動	学校運営	学務	キャリア	キャリア
3年目	2年目	4年目	2年目	6年目

橋本	加藤早	中野	大城	山口
外国語	家庭	情報/理科	保健体育	保健体育
生徒活動	生徒活動	学務	経営企画	学校運営
2年目	8年目	6年目	4年目	4年目

副団長 佐藤美由紀 ICT推進  
事務部長 ステンダード

主任

真島
地歴公民
教育相談
4年目

横浜修悠館高校の協働的な  
「学びのコミュニティ」の改善普及

リーダー

筏
理科
経営企画
5年目

トライ教室/架け橋教室

竹田	深田
数学	地歴公民
教育相談	教育相談
3年目	5年目

トライ教室  
架け橋教室

キャリア・ポート(高校通級指導)  
キャリア活動C(進路体験活動)

結城	小倉
保健体育	国語
経営企画	キャリア
2年目	4年目

キャリア・ポート  
キャリア活動C

図2 校内体制図

### Ⅲ 通信制高等学校の学びの仕組みと横浜修悠館高等学校の重層的支援

#### 1 通信制高等学校の学びの仕組み

全日制高等学校・定時制高等学校の授業に相当するのは添削指導（レポート）、面接指導（スクーリング）で、教科ごとにそれぞれ標準数が定められている。

【例】

「地理総合」（2単位）： 添削指導回数 6、面接指導時数 2

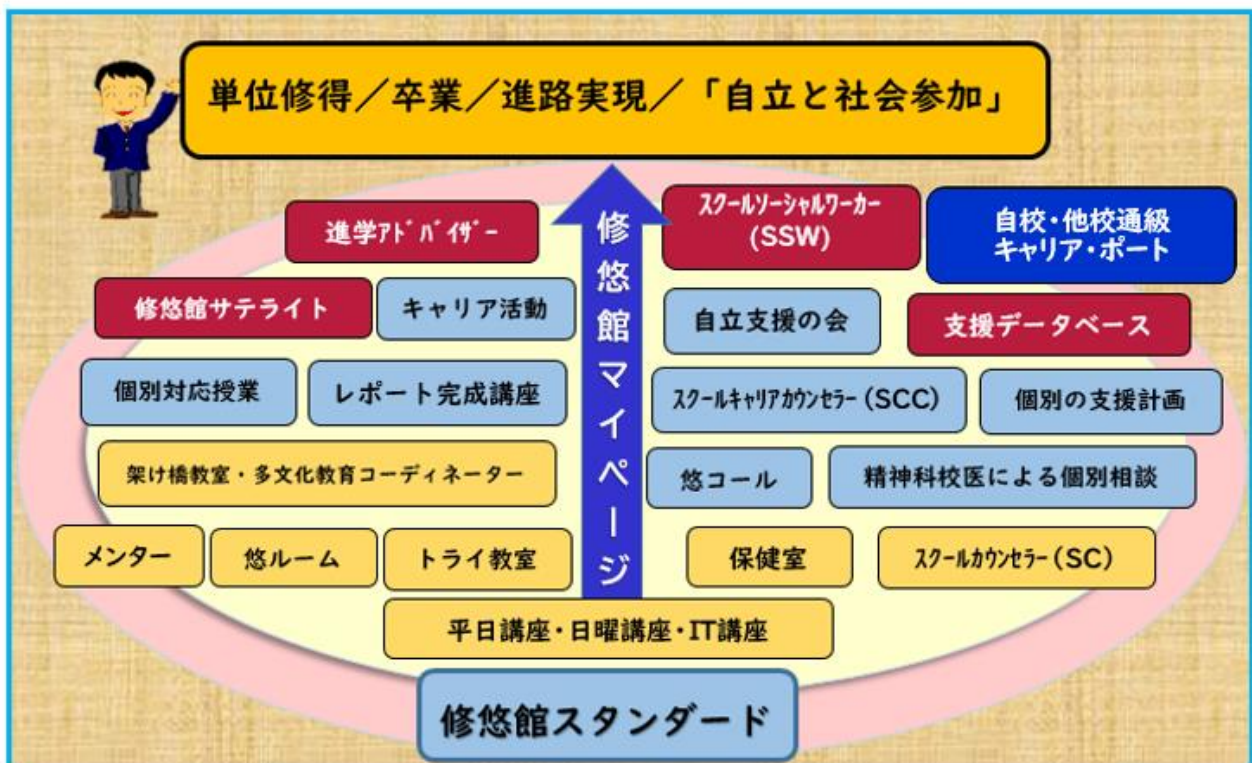
「数学Ⅰ」（4単位）： 添削指導回数 12、面接指導時数 4

通信制高等学校では、添削指導、面接指導及び試験の実施により教育活動が行われているが、「自学自習」を基本とする従来の通信制高等学校の仕組みの中で74単位以上を修得して卒業を目指すには、あきらめずに粘り強く勉強を続ける、強い気持ちが必要となる。

#### 2 横浜修悠館高等学校の重層的支援

本校は通信制教育の特性を生かしつつ、様々な課題を有する生徒にきめ細かな指導を行い、社会的自立と円滑な社会参加を図るため、「日曜講座」に加え、「平日講座」と「IT講座」も展開し、生徒を支援する様々なシステム・資源を活用している。

#### 横浜修悠館高校の重層的支援（イメージ）令和4年5月現在



### 3 横浜修悠館高等学校の重層的支援（解説）

重層的支援とは、様々な支援プログラムが少しずつ横にずれながら階段状の階層構造をなし、各支援担当者が情報を共有する中で、プログラムにつながった生徒が自ら行動できるようになることを目指す本校の支援システムを示す。



本校開校時からの支援システム



平成 21～22 年度の文部科学省「特別支援教育総合推進事業」、及び、平成 24 年度～26 年度文部科学省指定研究開発学校への取組みを通して構築された支援システム



平成 27～29 年度の文部科学省「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」において構築、充実された支援システム



平成 30～令和 2 年度の文部科学省「通信制課程における多様な学習ニーズを支える持続可能な体制の構築」において構築、充実された支援システム

#### (1) 本校開校時からの支援システム

##### ①平日講座・日曜講座・I T 講座

平日講座は、公立の通信制高等学校では類例のない、平日に登校する機会を増やし、丁寧でよりきめ細かな面接指導を行う講座。スクーリング設定回数が多い。日曜講座は、従来の通信制の面接指導にあたる講座。I T 講座は、インターネットを活用して、自宅を中心に学習を進める講座。入院や引きこもり状態にある生徒にも学習の機会を提供する。

##### ②メンター

担任以外で相談したい教職員を生徒が指名し、登録する制度。第 1 回目の相談は、メンターから生徒へ連絡をすることになっている。

##### ③悠ルーム

集団が苦手な生徒の空き時間の居場所として常設。教職員が交代で常駐している。

##### ④トライ教室

補習教室。月・水・木の 5、6 校時に実施。「レポート完成講座」に出席する（教室に入る）こと自体がハードルとして高い生徒等が、Y S K サポーター（学習支援ボランティア）や教職員からマンツーマンのアドバイスや支援を受けることができる。

##### ⑤保健室

養護教諭 1 名と非常勤養護教諭（29 時間／週）とで運営されている。生徒にとって、よろず相談の場所、心を落ち着かせる場所、学校に来たらまず立ち寄る場所となっている。また、必要に応じて各支援へとつなげる役割を担っている。生徒の時間割が様々なため、すべての時間帯において利用生徒がいる。例として、令和 4 年 5 月の利用者数は 885 名（内訳：内科 38、外科 48、こころ 513、その他 286）。

##### ⑥スクールカウンセラー（S C）

開校時より、拠点校としての配置を受け、週に 1 日来校している。

⑦架け橋教室・多文化教育コーディネーター

外国につながるのある生徒の総合的な相談支援に対応している。

(2) 平成 21～26 年度に構築された支援システム

⑧悠コール

生徒、保護者の悩みに対する専用電話。教職員が電話相談に対応する。

⑨精神科校医による個別相談

本校精神科校医が、個別の相談に対応する。

⑩個別対応授業

スクーリングに参加しているが、なかなかレポートが進まない生徒について、本人・保護者・学校・相談機関等が連携し、本人と保護者の承諾の基に、「個別の指導計画」を立てて指導を行う。

⑪レポート完成講座

平日の補習講座。月・木の 5 校時に実施。レポートでつまずいた時や平日講座に出席できなかったときに、個々に教員からの指導を受けることができる。

⑫スクールキャリアカウンセラー（S C C）

令和元年度から、キャリアアドバイザーからスクールキャリアカウンセラーと名称を変更し、産業カウンセラー有資格者が、Y S K サポーターとして、キャリアガイダンスルーム A に複数名常駐し、就職支援を行う。

⑬個別の支援計画

校内での支援体制づくりと関係機関と連携した支援実施のため、生徒、保護者の了解を得て支援シートを作成し、就業体験や卒業後の就労等へ結びつける。

⑭自立支援の会

参加希望の保護者の勉強会。学習会や見学会を通して、特別な支援を要する生徒の自立と社会参加を視野に、各種支援制度や相談機関、福祉サービス活用の仕方等について保護者に情報提供を行う。

⑮キャリア活動

学校設定教科「キャリア」における学校設定科目。希望者を募り実施している。

- ・キャリア活動 C：一般就労支援のための講座
- ・キャリア活動 K：特別な支援を要する生徒の自立と社会参加を目指した通級的指導講座  
(令和 3 年度よりキャリア・ポート開講に伴い廃止)
- ・キャリア活動 J：外国につながるのある生徒の総合支援としての講座

⑯修悠館スタンダード

「発達障がいのある生徒にとってない困る支援は、すべての生徒にとって、あると便利な支援となる」をコンセプトに、スクーリング、レポートのユニバーサルデザイン化、環境調整を行い、学校生活におけるすべての生徒が困難に感じていることを取り除く試み。

(3) 平成 27～29 年度において構築、充実された支援システム

⑰修悠館サテライト

「湘南・横浜若者サポートステーション」との連携で設置した相談室。若者支援専門の相談員

が、働くことやコミュニケーション等に自信のない生徒の相談に対応し、各種セミナーを実施。

### ⑱進学アドバイザー

キャリアガイダンスルームBで、進学に関する相談等を担当している。

### ⑲スクールソーシャルワーカー（SSW）

困難を抱える生徒に対して、「環境への働きかけ」や「関係機関とのネットワークの構築」などを行い、問題行動の未然防止や早期解決に向け、週2回程来校し対応している。

### ⑳支援データベース（DB）

生徒の状況を的確に把握することによって、より適切な支援へとつなげるために、入学時に提出された情報や入学後の本校支援システム利用状況に基づく情報等を、一元化することを目的としたシステム。

## （4）平成30～令和2年度において構築、充実された支援システム

### ㉑修悠館マイページ

スマートフォンやパソコンで「時間割」「出席・レポート提出状況」「レポート解説教材」を見ることのできるシステム。教員に個別相談することもできる。また、Classi(株)の約3万本の学習動画を繰り返し利用できる。基礎固めから大学受験まで対応できる。

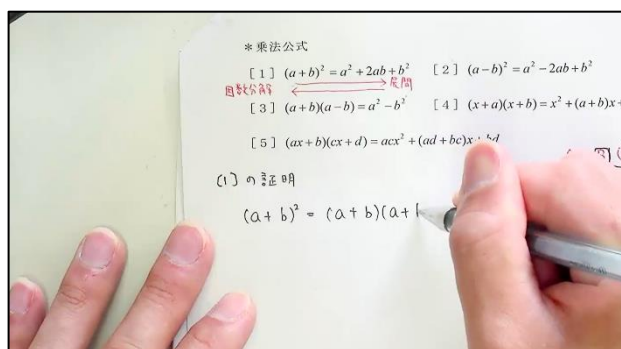
### ㉒キャリア・ポート

通級による指導。自校通級と他校通級に分けられる。学習上または生活上の困難を改善・克服するため「自立活動」に相当する特別の指導を行っている。本校では、生徒個々の実態に応じ、教室で行う学習活動と校外におけるさまざまな体験活動を行っている。

### 《修悠館マイページに掲載されている動画の一例》



【レポート解説動画 生物基礎】



【レポート解説動画 数学 I】



【部活動紹介 バスケットボール部】



【IT講座の学習方法解説動画】

## IV 令和4年度調査研究事業の内容及び成果と課題

### 1 班 通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信

#### 1 全体概要

新学習指導要領に基づく科目の実施とそれに伴う3観点での統一した観点別評価が導入されることを受け、通信制のレポート学習やスクーリングにおいても、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた改善を進め、その成果を発信していくことを目的に研究を行っている。一昨年まで、第4期文科省研究事業の中の「ICTを活用した多様な学習指導」を中心として本校のICT環境の整備と利活用が進められてきた。それを土台として、今回の第5期文科省研究事業の1班では、生徒が主体的に取り組むことができるレポート、スクーリングおよびICT環境の充実を目的として、昨年度を「準備」、今年度を「実践」、最終年度を「改善とまとめ」という計画のもと、研究を進めた。

##### (1) スクーリングの改善

昨年度の成果と課題を踏まえ、スクーリング内での深い学びにつながる問いや探究的な問いへの取り組みを、教科の特性を踏まえながら学校全体で実施した。

また、組織的な取り組みの一環として、職員間のスクーリング見学の活性化や、職員への本研究に対する意見集約のため、アンケートを実施した。

##### (2) レポートの改善

今年度から開講した新課程科目のレポートの実施と成果・課題の分析を行った。また、次年度開講される新課程科目のレポート作成に向けた検討を進めた。

探究的な問いに対して通信制の生徒が学習に見通しと意欲をもって取り組めることを目的とした評価基準について、内容の検討と改善を行った。

##### (3) 電子図書館の開設

昨年度より導入した電子図書館の充実化を目指し、環境整備と利用状況の分析を進めた。

#### 《今年度スケジュール》

月	主な内容
5月	本年度の企画・立案と全体周知
6月	前期スクーリング見学週間および研究協議
7月	新学習指導要領に基づくレポート1通目素案の作成、生徒による授業アンケート、第一回検討会議
8月	新学習指導要領に基づくレポート1通目素案の作成の検討会
9月	1通目素案の修正と2通目以降の作成(～令和5年1月22日まで) 本研究に関する職員対象アンケート実施
10月	文科省研究事業担当者打合せ
11月	文科省研究事業担当者打合せ、後期スクーリング見学週間および研究協議
12月	文科省研究事業担当者打合せ
1月	令和5年度レポート案の完成、文科省研究事業担当者打合せ
2月	文科省研究事業担当者打合せ
3月	文科省研究事業担当者打合せ、第二回検討会議



## 2 各研究の成果と課題

### 本校の授業改善にかかる学校全体での取組み

#### (1) 修悠館スタンダードについて

「修悠館スタンダード」は、通信制高校のユニバーサルデザインを基にした学習支援の方法を教職員全体に呼びかけるものであり、単位修得率向上を目指してスタートしたユニバーサルデザイン化が様々な面での変化をもたらしている。「修悠館スタンダード」の重要なコンセプトは「(発達障がいの生徒に対する)ないと困る支援」が、「(すべての生徒にとって)あると便利な支援」になることである。また、教育技術の改善、レポートの体裁や添削の工夫、学習形態や支援体制の工夫、教職員の意識改革にもつながるものであるが、強制力はなく、提案されたものをどこまで実践するかは各担当に委ねられている。そして、「修悠館スタンダード」は、教職員が日々の実践と相互のスクーリング見学の積み重ねの中で気がついたことや改善したことを反映させてバージョンアップを図ってきた。

#### (2) スクーリング見学週間（教員同士の教科等横断的な授業改善）

本校では年に2回、教員の授業改善の一環としてスクーリング見学週間を設けている。これは、自教科・他教科に関わらず学校全体として授業改善を目指すもので、「スクーリング見学シート」を用いて見学する視点の共通化を図り、前述した「修悠館スタンダード」の改訂に反映している。前期は自教科のスクーリングを中心に、特に新着任教員の修悠館スタンダードの把握と、ICTの活用手段を全体で共有することを目的に実施している。後期は他教科のスクーリングを中心に、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、スクーリング中の「問い」に対し生徒の反応も確認してもらいながら見学を実施している。この「主体的・対話的で深い学び」の視点は特に重要である。学習指導要領の改訂に合わせて、レポートの中に探究的な問いを入れている。またこれに伴い、スクーリングの中で「問い」を探究する授業デザインが各教員に求められている。下記は、実際のスクーリング見学の様子である。次年度、バージョン13になる修悠館スタンダードは、スクーリングの改善や重層的な支援を教員側からボトムアップすることで築き上げてきた。

また、次頁は、実際のスクーリング見学で記述されたスクーリング見学シートである。



【スクーリング見学の様子】教員は教科等横断で積極的に見学をおこなっている。

令和4年度 第2回(後期) スクーリング見学シート

※見学シートは2部コピーし、スクーリング担当者と教科代表者に渡し、原本は大城机上のボックスに提出してください。

見学者： \_\_\_\_\_

令和4年 10月 3日(月) / 校時(教室： 202 )

科目名： 日本史B 担当者： \_\_\_\_\_ 先生 \_\_\_\_\_

Check Point!!	記述欄
スクーリング 準備・開始段階で参考になった点	復習：富国強兵 → 殖産興業 導入のアンケートフォームを使って生徒の反応を把握
特に参考になった点	生徒と教科書ページ、レポートの問題と見比べている 生徒の周りと同じで進捗具合のチェック スライド見せ方の相対性 資料の確保
まとめ・終了時で参考になった点	次回に質問ある事項に 項目ごせ、予告
主体的・対話的で深い学び	<p>※ 該当箇所がある場合に記入してください</p> <p>スクーリングでの「問い」をできるだけピックアップして下さい。</p> <p>Q. 近代的な産業と技術は? → 画面に単語が出る Q. 知識を得るためには? → ユーザー名+文が出る</p> <p>「問い」に対する生徒たちの反応(様子、記述内容等)</p> <p>A. 生徒の名から 12~13個の解答が出た。 A. 1人の複数の解答を入力することが出来る。</p> <p>対話的な学びの工夫(自己対話・ICTを介した対話など)</p> <p>生徒の回答に対して、生徒と対等に解説していた。 生徒に手を挙げてさせ、確認</p>
修習館スタンダード	<p>※ 参考になったことを記述してください。</p> <p>ICTの活用手段(該当するものに○をつける)</p> <p>Power Point 映像資料 アンケートフォーム その他 (Googleスライド) slide</p> <p>修習館スタンダードとして採用できそうな点</p> <p>アンケートフォームの活用</p>
教科	<p>○ 全体・教科で共有すると思う事項や自分にとって参考になった点、など</p> <p>教科書、レポートの文の読み上げと簡単な言葉で言い換え</p> <p>わい、あ、例で解説</p> <p>ポスト517号 2009/109 + 1200/109 松坂牛 2009/109</p>

本校は教員がスクーリング開始 10 分前には教室に行きスクーリング準備を行う。それだけ、開始前の環境整備は重要であり、全教員の共通認識が図られている。

学習指導要領の改訂に向けレポート改善によって、教員側も「問い」を意識するようになり、スクーリングにおいても深い学びに繋がる「問い」の質を考えるようになった。

本校では対話的な学びに対し ICT を活用する動きがある。「意見を言わない=意見がない」のではなく、教員の導き方が重要である。ICTの活用は今後も重点項目になる。

【主体的・対話的で深い学びの拡大シート】

主体的・対話的で深い学び	※ 該当箇所がある場合に記入してください	
	スクーリングでの「問い」をできるだけピックアップして下さい。	Q. 近代的な産業と技術は? → 画面に単語が出る Q. 知識を得るためには? → ユーザー名+文が出る
	「問い」に対する生徒たちの反応(様子、記述内容等)	A. 生徒の名から 12~13個の解答が出た。 A. 1人の複数の解答を入力することが出来る。
	対話的な学びの工夫(自己対話・ICTを介した対話など)	生徒の回答に対して、生徒と対等に解説していた。 生徒に手を挙げてさせ、確認

学習指導要領の改訂に向けて、レポートの中に探究的な問いを取り入れる際に課題となるのは主に2点ある。1点目は、探究的な問いをスクーリングにどのように導入していくか。2点目は、本校の研究委員だけではなく、職員全体でスクーリング及びレポートの改善を行うという意識づけをどのように持つかである。これらの課題に取り組むにあたり、「スクーリング見学」は非常に有効な手段となる。教科等横断的に実践することで、職員全体の意識が向上し、組織的授業改善につながっていくと考えている。

### (3) 新学習指導要領に基づく令和5年度新教育課程科目レポート1通目素案の検討会

学習指導要領の改訂に伴い、今年度の新教育課程のレポートには「探究的な問い」と、学習の見通しを立てやすくするための「評価基準（目標の達成度）」を導入することになった。導入に際し全教科の共通事項を検討するため、各教科が「探究的な問い」のレポート課題を持ち寄り検討した。

#### 決定項目

- ・評価基準の文章は評価項目（ABC）ごとに比較できるように体裁を整える。
- ・生徒、教員の共通認識を図るために、評価基準がある問題には共通のマークを作成し掲載する。

#### 今後の検討項目

- ・文字の大きさを評価基準に合わせて各自変更しても良いか。  
(各教科、評価基準を工夫していく中で、レポート作成のルールに柔軟性が必要だと考えられる。)
- ・評価基準表を設問のどこに記載するかについての議論

評価基準表を設問の末尾に記載するレポートでは、生徒が評価基準表見落とすことが懸念された。レポート検討会では「設問冒頭」に記載することが提唱された。



今回の検討会は、校内の研究委員だけではなく、多くの職員が参加し教科の垣根を越えた活発な議論が行われた。日頃から研究委員の定例ミーティング、または教科等横断的に実施されているスクーリング見学の蓄積もあり、学校全体でレポートの改善に取り組んでいる成果の表れだと考えられる。

【レポート検討会の様子】

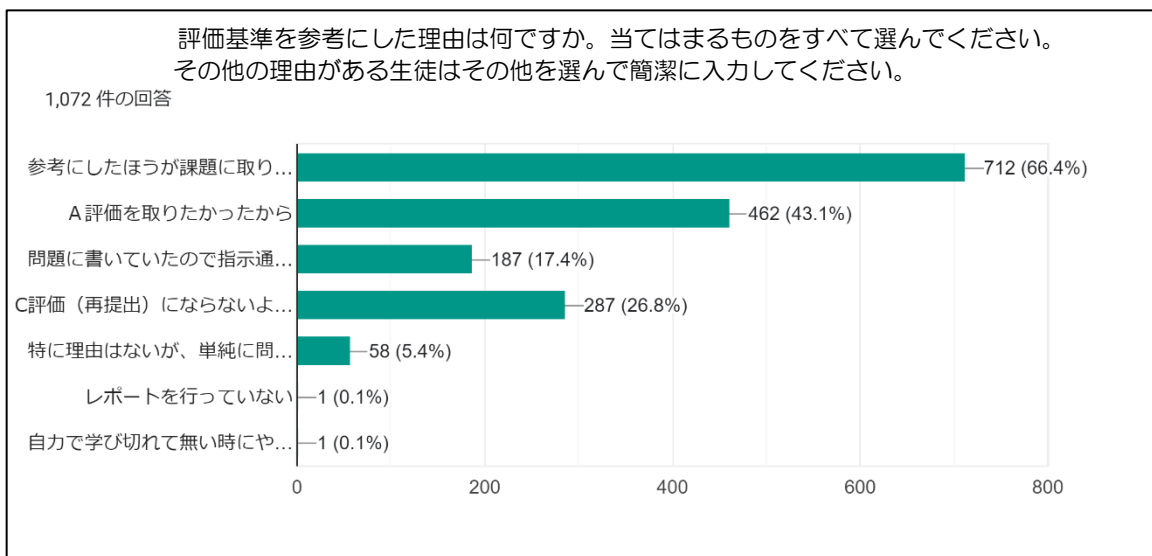
### (4) 新教育課程科目のレポートの探究的な問いに対する生徒アンケート

令和3年度に新教育課程科目のレポートに「探究的な問い」を導入することを決定し、令和4年度から実施してきたが、実際に生徒がどのように活用しているのか調査が必要であった。そこで、神奈川県立高校「生徒による授業評価」の学校独自質問として「探究的な問い」に対する質問項目（具体的な質問内容と結果は次ページに記載）を設けた。

生徒によるアンケートの結果、評価基準を参考にした理由として多かった二項目は、「参考にしたほうが課題に取り組みやすかったから」「A評価を取りたかったから」である。このことから、生徒は評価基準を基に課題に取り組む、更にはA評価を求めて評価基準を使用していることが分かった。また、評価基準を参考にしてみたの感想としても「どのように課題に取り組めば良いのか分かりやすかった」「A評価を目指すうえで参考になった」という項目に回答する生徒が多かった。通信制において「探究的な問い」をレポートにどのように取り入れるかは大きな課題であり、学習内容として質の高いものにするためには、問いの設定が重要である。この点を踏まえると、評価基準を用いて課題に取り組んだ生徒には一定の成果が得られたのではないかと考える。

次に評価基準を参考にしなかった理由、又は評価基準を用いての消極的な回答であるが、特筆すべき回答は「評価基準を使って課題に取り組むことを知らなかったから」「評価基準があることで、課題に取り組みにくかった」であろう。この回答に対しては校内の研究委員でも検討を重ね、「評価基準を用いて課題に取り組んでもらうために、評価基準の配置を課題の直下に記載することで利用促進を図る」「次年度に向け評価基準をより分かりやすく生徒に利用してもらうように精選していく」という結論に至った。

## 生徒による授業評価「レポートにある評価基準を用いた課題について」のアンケート結果

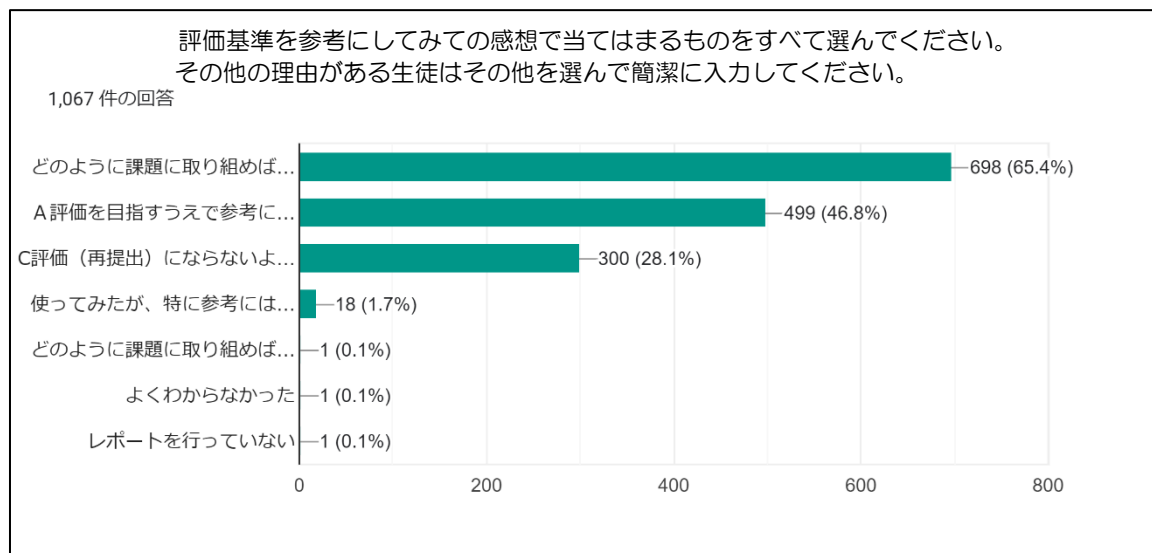


### 【設定項目】

- 参考にしたほうが課題に取り組みやすかったから
- A評価を取りたかったから
- 問題に書いていたので指示通りにおこなった
- C評価（再提出）にならないようにするため
- 特に理由はないが、単純に問題に書いていたので指示通りにおこなった

### 【その他の回答】

- レポートを行っていない
- 自力で学び切れてない時にやくにたった



### 【設定項目】

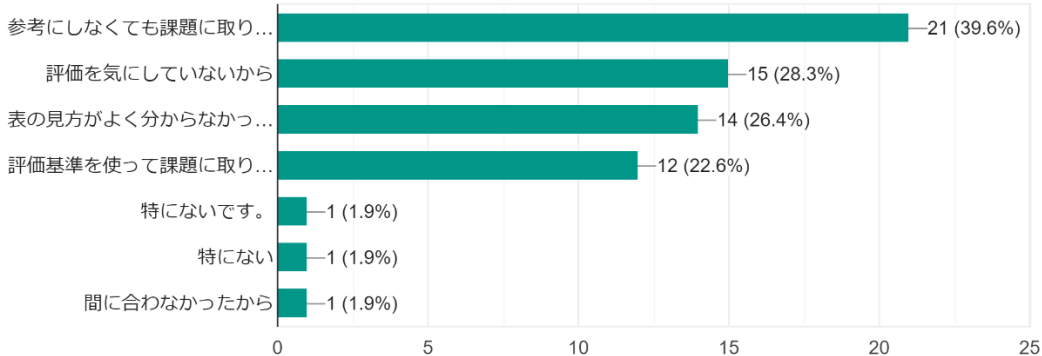
- どのように課題に取り組めば良いのか分かりやすかった
- A評価を目指すうえで参考になった
- C評価（再提出）にならないようにするうえで参考になった
- 使ってみたが、特に参考にはならなかった

### 【その他の回答】

- よくわからなかった
- レポートを行っていない

評価基準を参考にしなかった理由は何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。  
その他の理由がある生徒はその他を選んで簡潔に入力してください。

53件の回答



【設定項目】

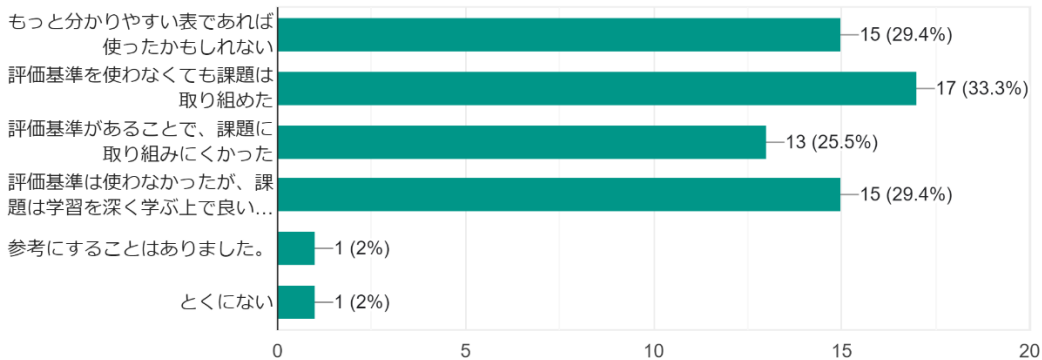
- 参考にしなくても課題に取り組めたから
- 評価を気にしていないから
- 表の見方がよく分からなかったから
- 評価基準を使って課題に取り組むことを知らなかったから

【その他の回答】

- 特にないです
- 特にない
- 間に合わなかったから

評価基準を用いた課題の感想で当てはまるものをすべて選んでください。  
その他の理由がある生徒はその他を選んで簡潔に入力してください。

51件の回答



【設定項目】

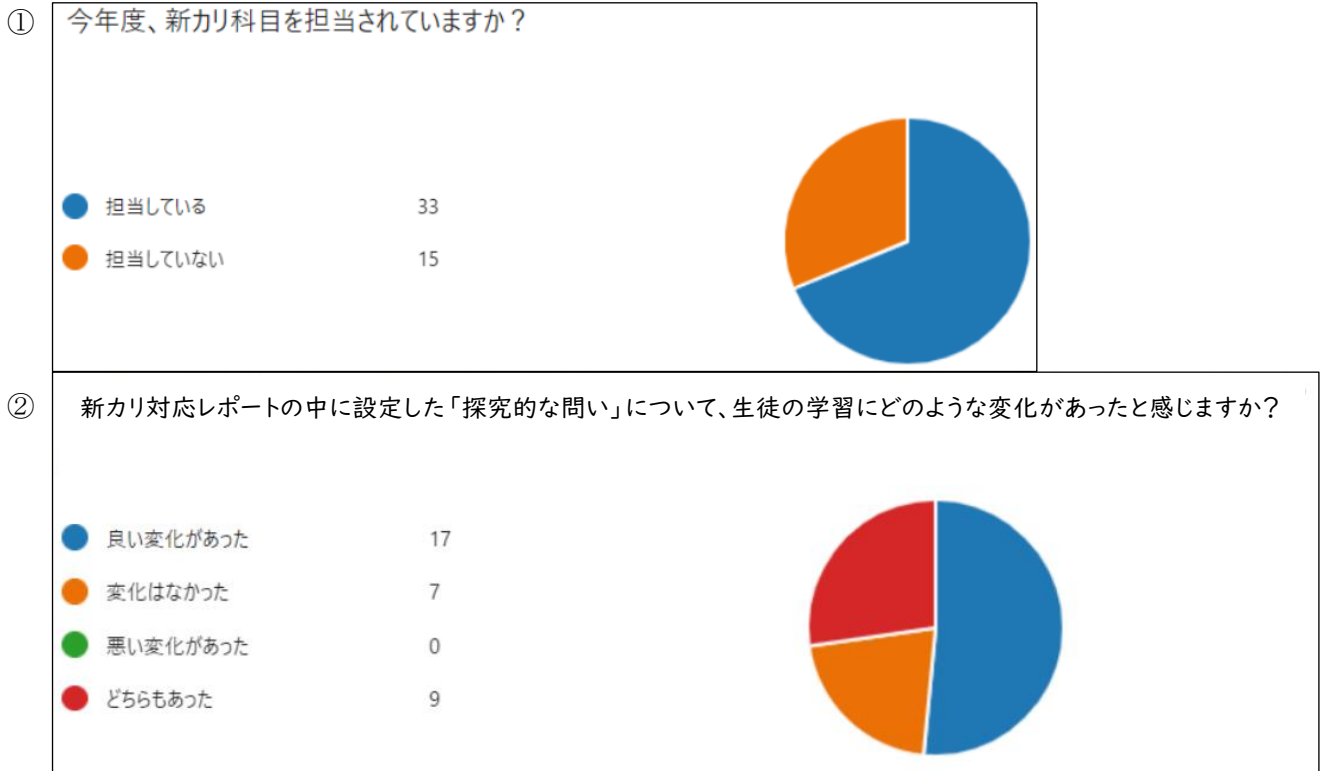
- もっと分かりやすい表であれば使ったかもしれない
- 評価基準を使わなくても課題は取り組めた
- 評価基準があることで、課題に取り組みにくかった
- 評価基準は使わなかったが、課題は学習を深く学ぶ上で良い機会だと思った

【その他の回答】

- 参考にすることはありました
- とくにない

(5) 本研究に関する職員アンケートの実施

昨年度の準備、および今年度前半までの実践状況について、下記の項目で職員へのアンケートを実施した。なお、それぞれの質問について理由等を含めて多くの回答があったが、紙幅の都合上、記述回答については一部を抜粋して掲載する。

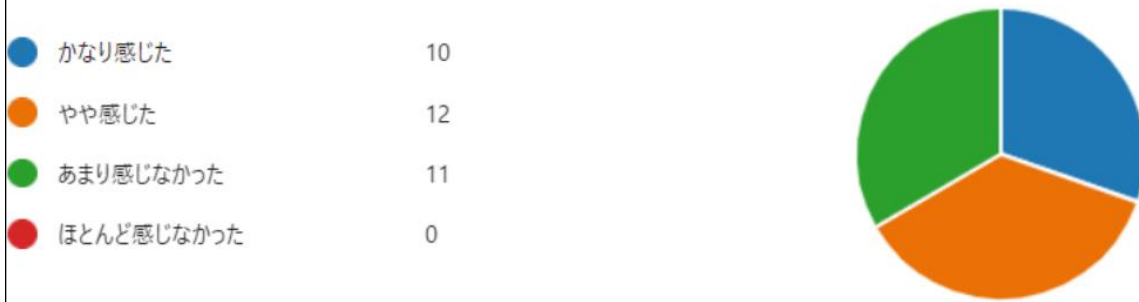


【一部掲載】 回答者：新教育課程科目の担当者 33 名

良い変化があった	変化はなかった	どちらもあった
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 探究的な問いを答えるにあたって、生徒が科学的な知識を自分の身の回りと関連付けて考察している様子が以前より見受けられる。</li> <li>● 複数の抽出生徒の解答を継続して追った結果、顕著に記載内容が充実した例がいくつかみられたから。</li> <li>● 人数は少ないが、教員の想像以上に、多角的に又は深く考えている解答を得ることがあった。</li> <li>● 「個別の問いによって」という視点とは別に、添削の励ましや解答方式への慣れによって、レポートの1、2、3を通して、段階を踏んで成長を感じられるものもあった。</li> <li>● 英作文を回答するにあたって、例文を写すのではなく、自分のことを表現しようとしている生徒が多く見られたため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ある生徒の成長を追いかけられるわけではないので、答えられない。教員が望ましいと思う答えを書いたとして、それが変化（成長）したのか、既にもともとその答えを書ける生徒だったのか、判断がつかない。</li> <li>● 今年度は「練習問題」的な要素が強いから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「考えが深まった」「自分で問題を作ることがなかったので、面白かった」等の意見がある一方で、難しいらしくその問いだけできない生徒が多くおり、レポート完成講座での質問が非常に多く、教員がかなりサポート（ほぼ答え）しないとできない。</li> <li>● 探究的な問いについて、考察を深めた生徒もいたが、トライやレポート完成講座で教員に聞いて書いただけの生徒もいた。</li> <li>● 文章表現の方法を全く知らない生徒や、自分の考えや内面について記述することを嫌う生徒がいる一方で、文章表現に慣れている生徒や、文章の読み方、学び方がある程度理解している生徒もいる。前者には難しく、後者には効果的であると思ったため。</li> </ul>

探究的な問いの導入について、今年度新教育課程の科目を担当する 33 名のうち、約半分の職員が良い変化があり、また、どちらの変化もあったという回答が 9 件あった。良い変化については、通数を追うごとに自己表現の幅が広がったり、身近なことと学習内容を関連付けられるようになっていたりしたことが挙げられていた。一方で、変化なしについては、判断のための比較材料が乏しいとの見方があった。

③ 「探究的な問い」に生徒が取組む上で、新たに設けた評価基準が、活用されていると感じましたか？



【一部掲載】 回答者：新教育課程科目の担当者 33 名

かなり感じた	やや感じた	あまり感じなかった
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内容や字数を把握した上で取組んだことが見て取れた。</li> <li>● 定期的に行っているアンケートで「頑張ろうと思った」「目標がわかり取り組みやすかった」という回答が多いから。</li> <li>● 独自に行ったアンケートで評価基準を学びの方向性の指標にしたり、A評価を取るためのモチベーションにしている生徒が多く見られ、学びの深まりにプラスの効果があったと考えられるから。</li> <li>● 添削の際、赤サインペンで評価基準に下線を引き、ハッキリと評価方法を見せている。そのおかげか、例文を写すのではなく、自分のことを表現しようとしている生徒が多く見られたため。</li> <li>● 実際に生徒が質問に来た時に基準についても聞かれることがあった。 解答からも評価基準を参考にしているとみられるものがあった。</li> <li>● 具体的に書いてきたり、こちらが想定していない面白い事柄が書かれていることもあった。</li> <li>● 評価基準を意識して解答を行なっている生徒が多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● A評価になるための記述があった。</li> <li>● 授業で取っているアンケートで、生徒からの好意的な意見が 6割以上を占めていたため。</li> <li>● 具体的にどのように、どの程度書けば良いか、わかりやすいという声があった。また、教員側としても個別指導や声掛けで活用できた。</li> <li>● おそらく再提出や再々提出など 2～3回のやり取りを通してこちらの意図が理解されていく側面があるのではないかと。生徒側も、ほかの教科やいくつかの設問で「もまれて」くると、評価基準を参考に思考回路ができてくるのかも。</li> <li>● 添削の際に評価基準をもとに改善例を示したりすると、次ではそのポイントをおさえて記述した生徒が多数いたから。ただし、評価基準がなかったらできなかったかという、そこは比較できない。</li> <li>● これができればA評価というのが具体的に示されているので取り組みやすいと感じていると思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● これまでの課題と同様に取組んでいるように見える。すべての生徒が、評価基準があるから到達を目指そうとするようには感じられなかった。やらない子はやらない。</li> <li>● 生徒の解答に対して評価基準がうまく当てはめられないことも多かった。</li> <li>● 合格だけを目指している生徒も多いから。また、本人的にあまり努力していないのに、「A」が付くことで、達成感が得られないように感じた。</li> <li>● 国語の場合、文字数を解答の判断基準の一つとして設けているが、生徒の方はまず文字数をクリアすることに意識を置く傾向があった。</li> <li>● 評価基準が抽象的な文言だからなのか、問題の意味を理解できていないのか、こちらの意図と異なる記述を多く見受けたからです。</li> <li>● 問題の内容を理解している生徒が少ないため評価基準が活用されていないと感じた。</li> </ul>

評価基準の活用について、生徒が参考にしている様子や、参考にすることで学習成果につながったと考えられる例もかなりあった。特に、講座内で独自の振り返りアンケートを行っている科目では、評価基準がモチベーションとなっているという生徒からの反応が見られたということは、評価基準が有効に活用された例として参考となるものであった。

一方で、評価基準と探究的な問いの両方を含めた課題について、厳しい指摘もいくつかあった。例えば、評価基準や問題の意図を理解できていないといった例もあったことは、評価基準やレポートの作問を含めた、今後改善すべき重大な課題であると思う。

④ 通信制において、「主体的・対話的で深い学び」に向けた取り組みがどの程度重要だと考えているか、教えてください。



【一部掲載】 回答者：全職員

「かなり重要だと思う」「重要だと思う」と答えた方にお聞きします。生徒のどのような姿勢や成果が見られたら、「主体的・対話的で深い学び」を実現できている状態であると思いますか。

- スクーリングに関する、生徒からの深い内容についての質問（問い）が出る。スクーリングやレポートの内容に関することについて、自分の考えを表現できる。
- レポートの課題の他に、自分で目標や内容を決めて学習に取り組むようになる。相手の考えを受け入れつつ、自分の考えを主張する過程で、学習を深めることができる。
- 他者の考えを踏まえて自らも考えることができる、表現することができる。
- 自己表現が苦手な生徒が多く在籍しているからこそ、自己の考えをより深めていく必要がある。「表現が苦手だからやらない」のではなく、「どう表現する方法を提供するか」考えていきたい。具体的には、言葉だけに限らず、文章として自己を表現する方法を提供する。
- ドラマ、小説などプライベートな時間で歴史関係の分野に自ら触れようとする姿勢（スクーリング後の雑談などで表現してくれると見えやすい）。
- 学習内容や取り組みに対する見通し、学習成果の表現、振り返りと展望のサイクルができている状態。
- 他者の意見に対して、質問や意見等が出せるようになったら、実現できている状態ではないかと思えます。
- 他人の考えをきちんと聞くことができたうえで、自分の意見を自分の言葉で表現できていれば、「主体的・対話的で深い学び」が実現できている状態なのではないかと思う。
- 自らテーマを設定して考察することが一つ一つの問題で出来たら実現できている状態であると思う。
- 自ら学ぶ姿勢（振り返りをして次の学習に活かす）。自分の意見を持つこと。他者の意見にも興味を持つ姿勢。
- 出席が強制されない通信制において、「学びたい」「もっと知りたい」と生徒自身が感じ、スクーリングに参加する頻度が高くなること。限られた時間で多くのことを学ぶために最低限のことは自宅で予習をしてスクーリングではその成果の共有や他者の意見を聞く様子が見受けられること。
- ペアワークやグループ活動を通して意見交換をする。自ら調べる。積極的に質問する。
- 自分の意志を伝えることが苦手な生徒が多く在籍する本校では、まずは、自分の作品をどのように表現したいかを考え活動に取り組む姿勢であると考えます。
- 生徒がいま自分は何を学んでいるのか、認識と見通しをもって進めることができているなら、それは一つの姿勢ではないでしょうか。公共でいえば、訳も分からないまま教科書の穴埋めをするだけなのは、不毛な時間となりかねない。
- 自らが行動（ネットで検索する、家庭や友達からの情報をヒアリングする、など）した結果がレポートや課題作品などに反映されていれば実現できている状態であると思います。
- スクーリングと自分の生活を結び付けて考え、自分から学びを深めようとする姿勢や、ICTなども活用しながら他者と意見交換しようとする姿勢。
- 主体的な取り組みで制作しているなかで作品の愛着やこだわり、大切につかう心がうかがえる。



- 実習をしたときに自分から主体的に動いているかどうかは観察ポイント（本校では成績への反映はできませんが…）。回を重ねるごとに「これやるよ」でスイッチが入る感じに育てていきたいと思ってスクーリングしています。
- レポートに答えを書くだけでなく、説明の中のポイントだとか、メモなどを書けるようになっていると、学びを深めようとしているんだなと思って見えています。
- 学習内容について、内発的な動機によって調べる・書く・説明する・聞く・やってみる・触ってみるといったことにつながり、最終的にはそれらを通じて「楽しいな」と思えること。しかし、「楽しいな」と思っているかどうかを外面的に測ることは難しいので、様々な形での表現活動が重要になると思う。
- 数学に関しては「自らの知的好奇心」に基づいて解答がされていけば好ましいです。
- 自身やその周りの課題を考えられるような姿勢が見えたら。

【一部掲載】回答者：全職員

「あまり重要だと思わない」「まったく重要だと思わない」と答えた方にお聞きします。そのように考える理由を教えてください。

- 取り組み自体は良いと思うが、一般的に考えることが難しい生徒、それにより解くことがそもそもできない生徒が大勢いる中、レベル別にするのであれば良いが、一律にすることでセーフティネットの役割を果たせるのか疑問に思う。
- 通信制では、まず躓いた過去を持つ生徒を受容し「わかる喜び」を全ての教科・科目で与えられるスクーリングをするべきである。レポートの「探究的な問い」には躓いた生徒・スクーリングに出られない生徒を切り捨てる刃を感じる。
- 学校全体のバランスを考えて、新しい取り組みは進めていくべきと考えるから。
- 自らの意思表示をすることが、非常に難しい生徒が多いので、そこに注視されてしまうと生徒の学びが進まなくなるのではないかと危惧するから。もちろん、個別に時間をかけて丁寧に対応すれば生徒の意見を引き出すことは可能だろうが、現実的ではないから。
- 個人的には主体的・対話的で深い学びに、向けた授業づくりを進めていきたいですが、通信制という様々な事情をもって高校卒業の資格を取りに来る学校において、このような取り組みが押し付けになってしまうことを危惧しています。レポートに組み込んで必須化すべきこと、ある程度オプション制にすることなど、生徒のモチベーションに応じて取り組み具合を調整できるようにできたらいいなと思っています。
- どのような学習対象者にとっても「知識」が最重要だとは思わないが、「主体的・対話的」な学びには一定程度の知識が必要であり、その知識を身につけることが必要であると考えから。
- 基礎学力が一定程度ある生徒には効果的と思うが、「名前が書けない。足し算が出来ない。」生徒には、反復練習主体の基礎学力の定着の方が重要と思う。

通信制における「主体的・対話的で深い学び」に向けた取り組みの重要性について、全職員に意識調査を行った。その結果、8割以上の職員が重要であると述べた。重要ではないと考えた職員にもその理由を調査したところ、上記のように、通信制に通う生徒の学習状況にマッチしていないのではないかと指摘も一部あった。また、重要であると答えた8割の職員を対象に、「主体的・対話的で深い学び」という抽象的なテーマをどのようにとらえているか調査したところ、非常に多様な意見が得られ、各職員が「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」のどこに重点を置いているかにかなり差が見られた。

【一部掲載】回答者：全員

「通信制における主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたスクーリングづくりに向けて、どのようなことをとくに意識しながら実践されていますか。

- 新規レポート内に、自分の考えを表現できる問題を載せるようにしていく。
- 毎回のスクーリングの振り返りとして、問いを立てさせ、他の生徒と共有している。
- 考えの表現、他者の意見を知る場をつくる→それを踏まえ次の問をなげかける(Google フォーム Slido)
- 生徒がスクーリング中に発言しないこと=意見がないとせず、表現する場を作るように意識している。
- 1コマや1通に対する見通しを立てさせること。「面白い」と思ってもらえるようなネタを提供すること。
- 実験の考察等において(理科)、答えはこうであると提示し過ぎずに、生徒が考える余地を与える。生徒が自分で考えて答えることを止めない雰囲気作り。(理数系は答えが決まっていることが多いが、それでも)
- 考えの共有。レポートに取り組む前に、レポート最後に設定されている「探究的な問い」について説明。
- 社会に出ることを考え、意思表示や、周囲の人との調和を意識して、質問、対話をするようにしている。
- テーマを説明し、スクーリングの開始と終了で意見がどのように変化したか意識している。
- 他人とのコミュニケーションの苦手なことを、長所として捉えるようにしている。実物の教材と対話する機会を作ることが一番と考える。スクーリング中の教員の一番の仕事はその教科・科目を好きにさせることだと思っている。決して教員の思った方向に生徒を導くことではなく、目の前の教材から何かを感じてもらい、それをきっかけに一步を踏み出してもらおうスクーリングを用意したいと日々教材研究をしている。
- 自分の意見を持つこと、他者の意見にも興味を持つ姿勢をもつため、意見共有の時間を作るように意識。
- レポートの完成は大前提であるが、完成のプロセスは教師主導の「教える」学びではなく、生徒自身または生徒同士による「自らつかみ取る」学びにしていくようスクーリングを構築している。
- 自分のことを表現させる(ペアワーク、グループワーク、英作文)。答え合わせをするだけにしない。
- スクーリング内では、相互鑑賞を行う時間がないため、書画カメラで他者の作品を提示したり、廊下に作品を展示することで、少しでも見方・考え方を高め深い学びにつなげていきたいと考えている。
- スクーリング出席で設問に解答しやすくなったり、ヒントや解答のきっかけを得られるようにしている。
- レポートを完成するためのスクーリングではなく、レポート、教材を通して、学ぶことの楽しさ、方向性や展望を与えられるようなスクーリングになればいいと思う。
- 現実のたとえ話や、教科書、ニュースなど、すでに生徒が知っているだろう知識からつながりを発見したり、「ああ!そういうことか」と思うことができる内容に努めた。
- 基礎の定着。英語に懂れる、身近に感じられるようなスクーリング(ALTとの授業)
- 扱う素材をよく理解することで工芸品の価値を認識してもらおうようにスクーリングをしている。
- 生徒に考える時間を与える。声が返ってこなくとも問いを与える。生徒の作品制作中の声かけを増やす。
- 実習科目は自宅でも必ず課題を実施することができるようなものにする。 (本当に学校に来られない子の学びの保障) その上で、《生徒が覚えておいたら今後の人生に役立つ簡単な実習》はないかいつも探している。今年度のレポートは試しに「自宅でやって完成する」「スクーリングに来てくれたら応用で面白いことに発展する」レポートを考えてみました。スクーリングに来てくれた生徒には毎回何かをつかんで帰って行ってほしい。
- スクーリングで全てを教えるのではなく、生徒が考える余地を残しておくように心がけています。
- レポートの解説とレポートの内容+αのバランス。史料やデータを正しく読むことと、そこから感じた自由な表現活動をすること。そして、ほかの生徒の表現を全員で共有してお互いに参考にすること。
- 生徒の解答に対して肯定的に読み取り、良い所を探して考えを表現しやすい環境を作ればと思います。
- 生徒が、レポートの問題・課題の解答に直結しない疑問・意見が出た場合に、その場で評価する。ただし、スクーリングでこの進め方をすると、無関係な質問をする生徒も多いため、抑制的に実践せざるを得ない。

スクーリングでの「通信制における主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、職員が意識していることを調査したところ、上記の回答が得られた。それぞれの教科の特性に応じた形で、時にはICTも活用しながら工夫が重ねられていることもわかる。一方で、「特になし」という回答も、一定数見られた。本校では、スクーリングに参加することでレポートが完成に近づくので、レポートを軸にしたスクーリングの展開は今後も変わらず、レポート+αを意識したスクーリングにするかどうかは教員に任されていることを考えると、「特になし」があることは問題ではなく、数としてはむしろ少ない印象である。したがって、今後は本研究を始まりとしてレポートが新学習指導要領に応じた形で工夫されていき工夫され

たレポートにのっとしてスクリーングが行われていくことで、少しずつスクリーングも学校全体で「通信制における主体的・対話的で深い学び」の実現に向かって変化していくのではないかと考える。

### (6) 全教科での新しい統一事項

昨年度の研究を踏まえて、今年度の新教育課程のレポートには「**探究的な問い**」と、学習の見通しを立てやすくするための「**評価基準（目標の達成度）**」を導入した。そして、実際に今年度より運用をする中で生じたいくつかの課題に対応するため、以下の改訂を行った。

#### ① 「評価基準（目標の達成度）」の位置について

設問と評価基準を一体化させ、学びの方向性を確認させた上で、問題に取組ませるために評価基準を上方へ移動させる。これにより、上(右)から**設問 → 評価基準 → 解答欄**の順となる。ただし、教科によって、もともとの位置でないとどうしても不都合がある場合には、教科の都合を優先することとした。

**目的** 教科によって配置の統一がされておらず、生徒が解答する過程で目を通しにくい場所（ページの末尾など）にある科目では、あまり活用されなかったことを改善するため。

設問7 1 通目のレポート(教科書P.5~26)の学びを振り返りましょう。その際、次の点に注意して書きましょう。《思考・判断・表現》

① 設問1で立てた「問い」に対する自分なりの答えを書いてみましょう。

② 5行以上目指して書いてみましょう。(未記入は評価Cで再提出です。)

③ 参考にした本やインターネットサイトがあったら、記入しましょう。

設問1で立てた「問い」をここに記入しましょう。  
学習していくなかで新たな「問い」ができたら変更した「問い」をここに記入しよう。

..... 1

..... 2

..... 3

..... 4

書ききれなかったら次のページの【メモ】に記入してください。

【設問7の評価基準】	A	B	C(再提出)
書いた量	5行目終わり～	1行～5行目途中	未記入
「問い」に対する答え	「問い」に対する答えを自分の考えや意見を交えて書かれている。	「問い」に対する答えが書かれている。	「問い」に対する自分なりの答えが書かれていない。

評価に「C」が一つでもあったら「再提出」になります。上の表で自分の位置を確認し、一つでも上の評価を目指して記述してみましょう！

設問7 1 通目のレポート(教科書P.5~31)の内容に関する「問い」を一つ立て、自分なりの解答を作成しましょう！下に記載されているポイントを意識してください。 《思考・判断・表現》

ポイント①：インターネットで調べたことを書き写すだけでなく、自分の考えや意見・理由も交えて書いてみよう！

ポイント②：答えは一つでなかったり、そもそも答えがないものもあります。大切にしてほしいのは様々な知識を活用して答えのない問いについて考え続けることです。

ポイント③：下に評価基準を設定しています。自分の記入状況を確認し、一つでも上の評価を目指して記述してみよう！

【設問7の評価基準(目標の達成度)】

A	B	C(再提出)
「問い」に対する答えに自分の考えや意見・理由を交えて5行(黒線)を超える分量で書いている。	「問い」に対する答えが書かれている。	未記入 または、明らかに問いに対する答えになっていない。

1 通目の内容を学んだうえで設定した「問い」

..... 1

..... 2

..... 3

..... 4

..... 5

#### ② 探究的な問いに対する共通マークについて

探究的な問いに対する共通マークについて**深める**を共通マークとして設定する。表記の位置は、設問番号の前にする。

**目的** 生徒に分かりやすい形で探究的な問いの存在を伝えるため。また、アンケートなどの機会において生徒が探究的な問いについて質問をされていることを分かりやすくするため。

レポート中の表記例：

<b>深める</b>	<b>深める</b> 設問	<b>深める</b> 【1】	<b>深める</b> 	<b>深める</b> 問 	<b>深める</b> 【 
------------	---------------	----------------	----------------	---------------------	---------------------

## 各教科の今年度および次年度に向けた取組みの成果と課題

### 国語科

#### (1) 今年度の取組み

##### ①スクーリングでのICT機器の活用

毎回のスクーリングが固定メンバーではない環境での発話は、元々発言を苦手と感じる生徒にとってさらに難しいものである。生徒たちが自分の意見や考えを気兼ねなく表出できる手段として、今年度は「Google Forms」を多用した。同じ教室にいる生徒たちと「主体的・対話的」に学ぶために、その場で入力した意見を基にしたスクーリングを展開した。

履修科目を中心に、昨年度と同じレポートの「現代文A」でも生徒の意見を集約し、共有することができた。

【生徒の意見を集約した例 小説】※レポートにはないが、様々な意見が出てきそうな問いを投げかけた。

寿々の「寂しさ」に共感できましたか。  
9件の回答

回答内容	割合
とても共感できる。	44.4%
共感できる。	11.1%
あまり共感できない。	44.4%
全く共感できない。	0%

寿々が「やっと出口に立てた気がする」のはなぜだと思いますか。  
5件の回答

- 長い間悩んでいた、仕事への向き合い方や高校時代の友人関係について自分なりの考えが見つかったから。
- 高校時代を経験に変え、消防士としての自覚を持ち始めたから。
- 自分も新しい職場の人に声をかけてもらって高校時代の友達ばかりを引きずらないでがんばろうと思ったから
- 友香に3人でご飯のお誘いをもらったり、えりや友香以外に私にも新しい友達が出来るとかもしれないという希望が見えたからだと思う。
- 友香とえりの事をあまり考えなくなり仕事先でも交友関係を築ける可能性が出てきて今までの自分から変われると思ったから。

寿々の「それなら男の子と出かけてくれたほうがまだよかった。」についてどう思いますか。  
9件の回答

- 異性と出かけた方がショックが薄れるという気持ちはとても共感できる。
- 寂しいんだなっていうのがとても伝わってきた。
- 高校の時は仲良くしていたのに、違う新しい女友達と遊んでいて、寿々は少し寂しい気持ちになったと思う。
- 自分の代わりにする様な友人が出来ていることにショックを受けた。
- 寿々の気持ちがよく分かる。
- 自分も同じ立場だとそう思う
- なぜそう思うのか分からない
- 自分もそう思う。自分が除け者ばく扱われるならダブルデートとかの形で出かけて欲しかったと思う。
- 寿々の友香への嫉妬があると思った。

「卒業」で印象に残ったところや、感想があればどうぞ。  
4件の回答

- 自立していくスズの様子を感じられた。
- まだ半月だが半月だからと甘えず中隊長に言われたことをしっかりと受け止めもつと上の目標をめざして自分のできることを精一杯やり成果を少しでもだして褒められるまでいけたのが流石消防士だなと思った
- 電話を切ったあとからショックでずっとぼんやりしていたところが印象に残った。私も同じような体験をしたことがあり、ものすごく共感できたから。
- 題名の「卒業」が、最初は学生時代を卒業してからの話という意味だと思っていたが最後は、高校時代からの卒業と言う意味だと分かりとても面白いと思った。登場人物全員に人間味がとてもあり実在するのでは無いかと思うほどだった。

##### ②レポートについてのアンケート

「現代の国語」「言語文化」のスクーリングに出席した生徒を対象に、1通が終わるタイミングでレポートの取組みに対するアンケートを行った。「Google Forms」を使い、スマートフォンなどを持っている生徒には自分の端末から、そうでない生徒には学校の貸出用Chromebookから、あるいは紙のアンケートを渡して教員が回答を入力した。

「言語文化」はレポートの構成上、前半はスクーリングで扱うが、後半は自学自習が中心の設問となっている。そのため、「現代の国語」と「言語文化」の前半では「最も難しかった問い」を、「言語文化」後半では「最も取組みにくかった問い」をそれぞれ質問した。さらに、その理由も尋ねた。(右図参照)

その理由を教えてください。\*

何を解答してよいのかわからなかったから。

記述問題が苦手だから。

選択肢をしぼれなかったから。

その他...

【アンケート画面 (一部抜粋)】

③新教育課程のレポートにおける評価基準

必履修科目であった「国語総合」が、「現代の国語」及び「言語文化」となり、レポートでは「探究的な問い」や「印象に残った点」を書かせる設問に対し「評価基準」を明記した。

従来のレポートでは、本文の主題について穴埋めをさせていたり、感想を書かせていたりしていたが、「評価基準」を設けることによって、記述でも解答の道筋をつけやすくなり、印象に残った点も何に重きを置いて書けばよいか以前より明確になった。

【「現代の国語」レポート5通目 問12 評価基準】 (※レポートは縦書き)

A	先生が少年芥川龍之介を叱った理由を書いたうえで、自分の考えを、四十五字以上書くことができています。
B	自分の考えを、四十五字以上書くことができています。
C	自分の考えを、四十五字以上書くことができていない。

(2) 成果と課題

①スクーリングでのICT機器の活用

スマートフォンの操作に慣れている生徒が多いので、自分の端末からのフォーム入力は素早く、「書く」よりも情報量が多くなる生徒も見受けられた。スマートフォンを持っていない生徒にはアンケートと同様に回答させた。

レポートの4択問題では、どの選択肢を選んだのか、その根拠は何かを入力させた。誤答が目立つ問題は、生徒がどこに躓いているのかが可視化され、その場での解説に繋げることができた。

リアルタイムで自分が書いたものが反映され、また他の生徒の意見も見ることができるので、「スクーリングに参加する」ことに少しではあるが付加価値を見出したようである。また、同一科目のスクーリングで他クラスの生徒の考えも知ることができた。

【生徒の意見を集約した例 評論】 ※同一講座2クラス分の回答。

<p>どういう人物が「大人」と言えると考えますか。 その理由もあれば教えてください。</p> <p>ある程度の事が自分で出来ていて、心をコントロール出来ていなくても自分の中で気持ちを完結させられる人。自分の意思は持っているけど他人の意思も受け入れる人。</p> <p>周りを見て行動できる人は大人だと思います。 理由は、他の人ができないことを周りを見て手伝えたり、行動できたらいいことだと思うからです。</p> <p>物事を多角的に見れる人</p> <p>自ら進んで学びを得ようとし、他者からの問いに対する答えを真剣に考えることができる人。</p> <p>自立している人</p> <p>心の広い人、自分の意志をしっかりと持っている人。</p> <p>他人からの相談に対して、解決策やアドバイスなどを的確に出来る人。正解が分からなくても一緒に考えたりして助けてくれる人。</p> <p>親の手を借りずに自分で稼いだお金で生活できる人、頼れる人</p>	<p>あなたが考える「自立」とは何ですか。</p> <p>依存先を沢山作ること</p> <p>何事にも1人でも率先して行動し、出来ないことは周りに頼れる人</p> <p>自分の言動の責任を取ること</p> <p>他者から学び、他者に教える。このサイクルが行える状態のこと。</p> <p>身の回りの事を1人で出来て、自分で物事を考えれること</p> <p>自分で仕事をして、そのお金で日々を生活していくこと。</p> <p>自分で様々な決断が出来るようになること。</p> <p>他の人に頼ることなく様々な面で自分で考えて行動できること</p> <p>経済的に自分の収入だけで社会を生きていけること。</p>
--	--

②レポートについてのアンケート

「難しかった問い」に対して「特になし」の回答が全ての回を通じて多く、生徒は概ね無理なく取組めたようである。アンケートの回答者はスクーリングに出席した生徒なので、出席することによって苦手意識が薄れたり、解説を聞いて理解を深めたりしたのではないかと推察する。

「難しかった問い」の理由で「探究的な問い」を挙げ、「記述問題が苦手だから」を理由に選んだ生徒も一定数いた。知識問題以外では、抜き出しや選択、穴埋めといった問題が多いので、やはり記述に対する苦手意識が少なくないようである。

また、教科書本文に出てくる事柄に関する知識問題（例 評論のなかで紹介されていた俳句の季語や季節を問う問題）など、少し観点をずらした問題にもやりにくさを感じる生徒がいた。

最初のうちのレポートでは「(レポートに取り組むのが)楽しかった」と自由記述する生徒も多かったが、回が進むにつれあまり見られなくなってしまう。回答者が減ったことに起因するのか、年度初めのモチベーションが下がっていったのか、「楽しい」を持続させるための仕掛けも検討していきたい。

どちらも全18回のスクーリングに継続して出席する生徒は多くなく、家庭で自学自習を行う生徒の意見を汲み取れなかったのが反省点である。

③新教育課程のレポートにおける評価基準

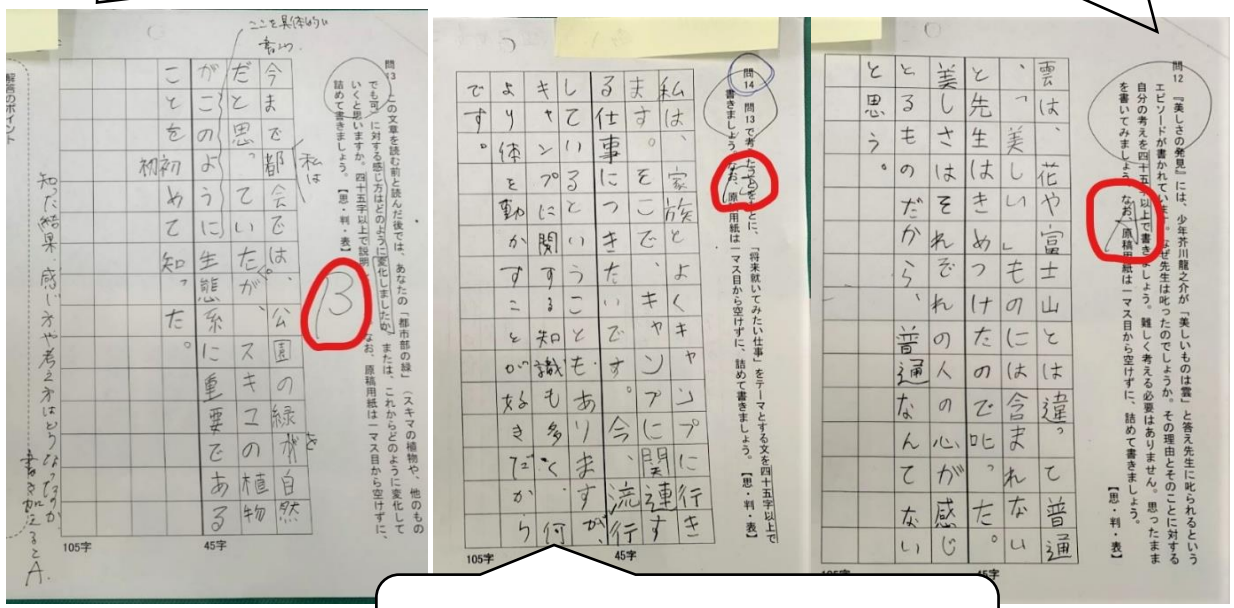
②のアンケートによると、「探究的な問い」の記述に難しさを感じる一方で、「何を解答してよいのかわからなかったから」を難しさの理由に選ぶ生徒は少なかった。「評価基準」が解答する際の一助になっていたと推察される。

生徒が書いたレポートがB評価の場合、添削ではどのように書けばA評価になるのかというアドバイスをを行った。学習を重ねるごとに記述量も増え、求められていることを具体的に記述できるようになった生徒もいた。

【同一生徒の「現代の国語」レポート 左から 前期3通目・後期4通目・5通目】

「知った結果、感じ方や考え方はどうなったのか、書き加えるとA」とアドバイスしている。

5通目はA評価となった。



生徒は「...あります」で終わっていたが、それまでの解答を踏まえ、教員が具体的に補足した。

(3) 次年度に向けて

①スクーリングでのICT機器の活用

スマートフォンなどを活用できる生徒がいる一方で、自分の端末を持たない生徒もいる。その場にいる生徒全員に Chromebook を貸し出して入力する方法を検討する。

今年度は、生徒がその場で入力したものを使ったり、共有するところまでは行ったが、次年度は更にその先の「交流」を目指したい。「自分が書いたものを、他の生徒はどう感じているのか。」「自分はこの人の意見に対して、こう考える。」など、一步踏み込んだところまで進めたいと考える。そのため、他教科のスクーリングなどを参考にしながら、使いやすいアプリを模索し、国語科として共有する。

②レポートについてのアンケート


今年度は「現代の国語」「言語文化」の平日スクーリングに出席した生徒を対象にしたので、自宅でレポートを解いて出すことが多い生徒や、時間の関係から日曜生にはアンケートを実施できなかった。次年度は、生徒がインターネット上で閲覧可能な補助資料(スクーリングでは配付)にアンケートの二次元コードを掲載するなど、幅広い生徒を対象に行うようにする。

③新教育課程のレポートにおける評価基準

次年度は、「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」の新教育課程が始まる。それに伴い、それぞれのレポートの「探究的な問い」にも「評価基準」を設けた。スクーリングでの反応や、レポートに書かれた解答から、「評価基準」の文言も精査していきたいと考える。

また、「国語表現A」(本校では「国語表現」を2年にわたり履修していく)には「自分が書いたものを他者に見せ、コメントをもらう。」という課題を入れた。従来の「生徒と教科担当者だけで完結するレポート」ではない問いの仕掛けに、生徒たちがどのように取り組むのか期待している。

令和5 国語表現A 5 6/7



◆コメント(必ず、相手の方の名前でもらうこと。)

( 修悠館生徒 修悠館教員 家族 友人 その他 )

問10 問9で書き上げた紹介文を、教員・家族・友人などのうち誰か一人に聞いてもらいなさい。また、聞いてくれた人には、次の欄に自筆でコメントを記入してもらいなさい。「進」※レポートの欄の数が同じでも、担当者が判断した場合は、再提出となる場合があります。

C	B	B	A
指定字数、内容共に不十分であり、本の紹介文を書くことができていない。	指定字数が満たせなかったものの、問7・問8の記述を用いながら、聴衆が読みたくなるような本の紹介文を書くことができています。	指定字数を満たしたうえで、問7・問8の記述を用いながら、本の紹介文を書くことができています。	指定字数を満たしたうえで、問7・問8の記述を用いながら、聴衆が読みたくなるような本の紹介文を書くことができています。

**【問9 評価基準】**

**【問9 評価基準】**

問9 問7と問8で記入したことを参考にしながら、次のページの欄に本の紹介文を三言三語以上、四百字以内で完成しなさい。  
※紹介文には必ず段組を設けなさい。段組のないものは再提出となる場合があります。  
【思・判・表】

## 地理歴史・公民科

### (1) 今年度の取組み

「年度を通じてのスクーリング中の取組み」と「今年度から開始した新教育課程対応レポートの報告」、「来年度から開始する新教育課程対応レポートの作成とその課題」の3点について述べる。

#### ① 今年度のスクーリングでの取組み

##### ●地理歴史

Chromebook を常設している教室では、生徒各自の Google アカウントによりログインさせ、Google Classroom 上で「アンケート」や「画面の共有」などを用いるスクーリング実践例等が多数積み上げられている。右の写真は地理総合で調べ学習に Chromebook を使用しワークを行う生徒の机上である。



【5月24日（火）地理総合・生徒の机上】

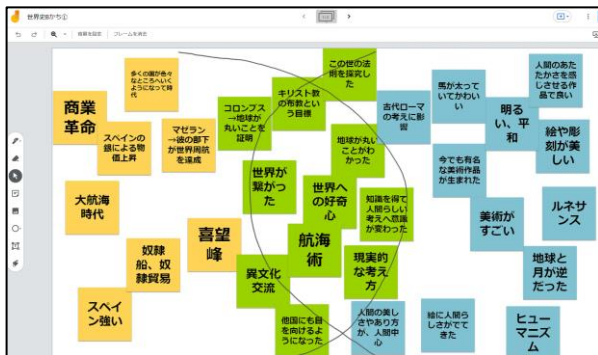
右の写真は、生徒各自が机上の Chromebook で共有されたスプレッドシートに調べたことなどを入力し、1つの表を完成するワークの様子である。



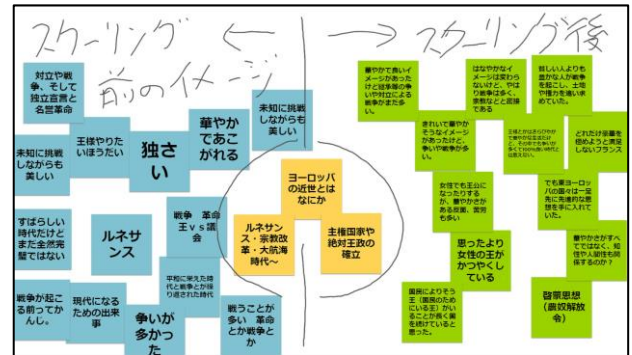
【11月2日（水）地理総合・生徒の机上】

発電の種類について、「火力」、「水力」、「原子力」、「再生可能エネルギー」、「バイオマス」それぞれのメリット・デメリットを、教科書またはスマートフォンで調べて打ち込んだ表に、教員がコメントした。

このように、生徒同士がスプレッドシート、Jamboard (アプリ)、slido (アプリ)、Kahoot! (アプリ) などを通じて意見を共有したり、共同作業を進めた事例が複数報告された。



↑「大航海時代」と「ルネサンス」の共通項を見出すワーク



↑スクーリング前後のイメージの変容

【世界史Bのスクーリング中に Jamboard を用いた、生徒の共同作業の例】



17の目標の中で「1 貧困をなくそう」を考えてもらいました。  
他の人の意見を見て、自分の意見が変わったり、視野が広がったりするかもしれません。  
いろんな意見を参考に、自分の考えを深めていきましょう。

**原因**

- 仕事がない
- 国の技術が進展してないから
- 文字の読み書きができないから
- 生活に差があるから
- 最近で言えば、コロナでなくなってから仕事がないから
- お金がまわらない

**解決策**

- 学校を作る
- 農場に行かなくても働ける環境を作る
- 売れるものをつくる
- 技術をわたす
- 国が補助金を出す？
- 他国が助けてあげる
- 技術者を育てる
- 給料を上げる
- その人にあった仕事を探そう
- 手伝ってくれるボランティア？
- の人に助けを求めよう

ロゴを重要だと思う順番に並び替えよう！

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	生徒氏名		



健康状態に配慮することが最も大切だと思うし、人間にとって健全な水が必須だと考えたから。また、労働環境を整えることで食べ物の廃棄による死も削減できると思うから、健全な環境づくりが大切だ。

↑順位付けの理由

17の目標の中で「2 飢餓をゼロに」を考えてもらいました。  
他の人の意見を見て、自分の意見が変わったり、視野が広がったりするかもしれません。  
いろんな意見を参考に、自分の考えを深めていきましょう。

**原因**

- 食べ物を作ることができない土地があるから
- 働き口がないから
- 子育てで忙しい
- 食べ物が作れないから
- 職場が遠い
- 税金が高い
- 作物を作る土地がないから
- 働いている人が少なくて儲けが少ない

**解決策**

- 地域の方と力を合わせて働く
- 食料品は輸入に頼り、技術は輸出する
- 農業のある土地や水を雇う
- 遠い職場を雇って、通勤手当を支払う
- 性別関係なく、女性も働ける環境にする
- 性別関係なく、女性も働ける環境にする

ロゴを重要だと思う順番に並び替えよう！

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	生徒氏名		



TOP3に選んだ理由をここに書こう！  
世界全体の教育発展をすれば経済も成長するので、それなら色々な問題も解決できると思う。そのためには男女平等、女性の活躍の場を増やしたほうがいいと思う。

【10月26日（水）地理総合 SDGsを題材に生徒各自が価値判断した例】

掲載したものは、Jamboardを用い、Chromebookに生徒が意見を入力したものを次のスクーリング時にフィードバックするために、再構成した一例である。生徒それぞれの意見が可視化され、手が止まっていた生徒も他者の意見や教員のコメントを受け、スクーリング後半に参加（自分の意見を提出）できるようになる様子が見られた。教室内の生徒と直接意見を交わすことが難しい本校の生徒にとって、オンライン上で意見を共有できるツールは有効であることを示した。

●公民

右の写真は公共レポート5通目（全6通）の正規雇用と非正規雇用のメリットとデメリットを生徒が考え、黒板上で意見を共有したあと、教員がまとめるスクーリング展開の一場面である。どのような形でも、生徒が他の生徒や教員との意見の差異に気づくことにより、社会の多様性と公共の利益とは何かについて考える機会になったといえる。

また、このスクーリングではNHK高校講座「公共」の映像も取り扱った。そこでは、生徒が他者の意見を聞き、自分の意見を構築する様子が見られた。



【10月20日（木）公共（担当教員：東）】

②今年度から開始した新教育課程対応レポートの報告

●地理歴史

右の解答は今年度開講科目「地理総合」1通目レポートの最後に掲載した問いに、生徒が答えたものである。

評価基準では、「A」の欄に「自分の考えや意見・理由を交えて」書くように指示されているが、この解答例では、「日本の世界遺産のなかでも特にオススメできる場所を理由とともに挙げる」という問いに対して「調べた言葉の羅列」で終わってしまったことが分かる。

こうした生徒をどのように導くか、より良い文章にするためのアドバイスを添削担当者が具体的にできるようになったことがレポート改善ポイントである。

【地理総合における「典型的なB」解答の例】

ー：インターネットで調べたことを書き写すだけでなく、自分の考えや意見・理由も交えて書いてみよう！  
 二：答えは一つでなかったり、そもそも答えがないものもあります。大切にしてほしいのは様々な知識を活用して答えのない問いについて考え続けることです。  
 三：下に評価基準を設定しています。自分の記入状況を確認し、一つでも上の評価を目指して記述してみよう！

日本人の精神性の象徴と書かれてる富士山 (ほか2つ程度に)  
 日本のお城の中で一番きれいな姫路城 テーブル伊弉、  
 戦争の怖さを伝えてくれる原爆ドーム 「なぜあつたのか」  
 と具体的に書く  
 観光旅行で行くべきだと思ってた日光の社寺 3  
 自然が美しい白神山 4  
 古都京都の文化財 5  
 書ききれなかったら次のページの【メモ】に記入してください。 6

7の評価基準(目標の達成度)

A	B	C(再提出)
「問い」に対する答えに自分の考え・理由を交えて5行(黒線)を分量で書いている。	「問い」に対する答えが書かれている。	未記入 または、明らかに問いに対する答えになっていない。

●公民

右の解答は今年度開講科目「公共」1通目レポートに掲載した問いに、生徒が答えたものである。

このレポートの問いの例からも分かる通り、「公共」レポートにおける文章で答える問いは生徒にとって簡単なものではない。この解答例の生徒も、調べた内容の書き写しのような文章で終わってしまっている。

この解答は1通目のレポート課題だが、問いが難しく、文章を書く練習回数が少ない生徒の多くが困惑したと考えられる。明確なテーマの提示や出来事の主語、時系列を明らかにする書き方について添削担当がコメントをすることで、生徒が「良い評価(A)を得る文章をどのように書いたら良いか」について考える。こうした仕組みがしっかりと機能することが、今後のレポート改善のポイントになっている。今年度は、これまでの生徒が「答えて終わり」「提出したら終わり」のレポートへの解答姿勢を変えるきっかけの年になったと実感した。次年度、レポート内容をより良く改善していく手応えを得ている。

【公共における「典型的なB」解答の例】

現在世界で起こっている紛争やテロについて書籍やインターネットを活用して調べ、  
 ①宗教的対立が背景にあると思われるものを一つ示さない。また、②その紛争やテロの宗教的対立以外の要因も調べて答えなさい。解答は、①②あわせて3行以上で答えなさい。  
 ②テロとテロの何が違うのか、その違いを明確に明記するといふこと

1978年の政権であるアッカンスタン人民民主党に対する  
 武力蜂起の政権に対する武力抵抗が国中に広がり、人民民主党  
 が当時のソビエトに軍事介入を要請した。そしてソビエトの介入があり、  
 大統領が殺害され、政権争いと武力衝突は激化して  
 いった

B “現在”はどのような状況が起っているのか、具体的な宗教名や勢力を出して  
 対立構図を明確にするよう文章が組み立てやすくありますよ。  
 (EYEKTR)

(解答例) 1947年、英領インド解消に伴いはじまったインドとパキスタンの紛争は、ヒンドゥー教徒とムスリムの対立によるものとされている。ほかにも紛争には、領土(カシミール地方)の帰属や政治的対立、核兵器開発をめぐる対立など複雑な要因が絡んで、現在まで続いている。旧植民地の独立後の紛争は、当事者間だけではなく要因も多く、周辺諸国や旧宗主国の関与も大きいと感じる。

評価の基準

A	B	C
記述量が5行以上である。テロや紛争について、その要因を調べ、新たな疑問や発見をしたことが読み取れる。	記述量が3行以上である。テロや紛争について、その要因を調べたことが読み取れる。	記述量が3行未満である。テロや紛争について、その要因を調べたことが読み取れない。

●生徒の「探究的な問い」における取組みの変容例（添削担当が記録をとって変容を追った生徒の例）

今年度より導入した「探究的な問い」と評価基準が、生徒の学習にどのような変化をもたらしたかを把握する目的で、無作為に抽出した15名の学習を一年間記録した。その中から一例を紹介する。

地理総合（探究的な問いの部分に掲載）新入生

・レポート1通目

選んだ問い：時差が私たちの生活に与える影響は何か。

生徒の答え：(原文ママ)

- ・海外旅行するとき、日本は明るかったのに旅行先は夜だったりする。
- ・海外で仕事をしている家族と連絡を取りたいときにタイミングが分からなくなる。

添削担当の評価：B

- ・家族のことを想起し、生徒自身の経験を交えて書けたが、事実や困り感を書いただけに留まっている。解決の視点や、「時差を把握しておく」、「時差アプリケーションを使う」などの解決策を考えるに至らなかった。具体例を調べることなどで、学習が深まると考えられる。

・レポート2通目

選んだ問い：東南アジアでは季節風や熱帯の気候の特徴を活かしてどのような生活の工夫をしてきたか。

生徒の答え：(原文ママ)

- ・東南アジアでは、さとうきび、天然ゴム、油やし、バナナなどの作物を栽培している。食べものは米やキャッサバ、タロイモなどの穀物が多いから、これらの食べものは熱さに強いのかないかと思いましたが。住居の床は高床になっていて、家の中に熱気がこもらないように工夫されている。

添削担当の評価：B

- ・東南アジアの作物、食べ物を具体的に挙げ、問いに対する考えを書けた。一方、スクーリングで触れた事項の羅列であったことと、指定分量ではなかったため、Bとした。問いの中の季節風と暮らしにも着目できるようになると、地理的な見方が広がると考えられる。

【1通目（時差が私たちに与える影響について：B）】

1通目のレポート(教科書P.5~42)に関する①~③の問いから一つ選び、自分なりの答えを書いてみましょう! <<思考・判断・表現>>

あなたの選んだ問い

① 時差が私たちの生活に与える影響は何か?  
② あなたはGISをどのように活用していくか?  
③ 外国人観光客におすすめする日本の世界遺産はどこか?

記入する上での注意点・ポイント

その一：インターネットで調べたことを書き写すだけでなく、自分の考えや意見・理由も交えて書いてみよう!  
その二：答えは一つでなくても、そもそも答えがないものもあります。大切にしたいのは様々な知識を活用して答えのない問いについて考え続けることです。  
その三：下に評価基準を設定しています。自分の記入状況を確認し、一つでも上の評価を目指して記述してみよう!

海外旅行するとき、日本は明るかったのに旅行先は夜だったりする。 1  
海外で仕事している家族と連絡を取りたいときにタイミングが分からなくなる。 2  
旅行で仕事でも、時間を合わせて、平日管理などの影響がありそうだな! 3  
次はさらに、自分だけの対策を考えてみよう! 4

書ききれなかったら次のページの【メモ】に記入してください。

【設問7の評価基準(目標の達成度)】		
A	B	C(再提出)
「問い」に対する答えに「自分の考え」や「意見・理由」を交えて5行(黒線)を超える分量で書いている。	「問い」に対する答えが書かれている。	未記入 または、明らかに問いに対する答えになっていない。

設問8 1通目のレポートやスクーリングでの学びを「広げたり」「深めたり」するためにどのようなことに取り組みましたか? 具体的な行動を下に記入しましょう。《主体的に学習に取り組む態度》

例: 他人の意見や考えを聞いて、自分にはない考えや意見を得るようになった。  
また、自分の考えや意見を書き、それを意識した。

この手順、とても大切です!

【2通目（東南アジアでは気候の特徴をどう活かしてきたか：B）】

2通目のレポート(教科書P.43~85)に関する①~③の問いから一つ選び、自分なりの答えを書いてみましょう! <<思考・判断・表現>>

あなたの選んだ問い

① 変動帯の地形は、人々の生活にどのような影響を与えているか?  
② 日較差の大きい国に旅行する際、気を付けなければならないことは何か?  
③ 東南アジアでは季節風や熱帯の気候の特徴を活かしてどのような生活の工夫をしてきたか?

記入する上での注意点・ポイント

その一：インターネットで調べたことを書き写すだけでなく、自分の考えや意見・理由も交えて書いてみよう!  
その二：答えは一つでなくても、そもそも答えがないものもあります。大切にしたいのは様々な知識を活用して答えのない問いについて考え続けることです。  
その三：下に評価基準を設定しています。自分の記入状況を確認し、一つでも上の評価を目指して記述してみよう!

東南アジアでは、さとうきび、天然ゴム、油やし、バナナなどの作物を栽培している。食べものは米やキャッサバ、タロイモなどの穀物が多いから、これらの食べものは熱さに強いのかないかと思いましたが。住居の床は高床になっていて、家の中に熱気がこもらないように工夫されている。 1  
季節風を用いた農業と生活の一部です。この農業が食糧の確保に役立ちます。 2  
天然ゴムや油やしの使われ方を調べて、その活用方法を、さらに活かしたいと思います。 3  
季節風とさとうきびの栽培方法です。 4

書ききれなかったら次のページの【メモ】に記入してください。

【設問7の評価基準(目標の達成度)】		
A	B	C(再提出)
「問い」に対する答えに「自分の考え」や「意見・理由」を交えて5行(黒線)を超える分量で書いている。	「問い」に対する答えが書かれている。	未記入 または、明らかに問いに対する答えになっていない。

設問8 2通目のレポートやスクーリングでの学びを「広げたり」「深めたり」するためにどのようなことに取り組みましたか? 具体的な行動を下に記入しましょう。《主体的に学習に取り組む態度》

1通目の行動より成長したいですね!  
例: 他人の意見や考えを聞いて、自分にはない考えや意見を得るようになった。  
1通目のときよりも、自分で考えるようになりました。手紙がもらえるから、とにかく書いてみるのが大切だと感じました。

文章が読者の思考の流れをわかりやすく読み取れるように工夫しています。

・レポート3通目

選んだ問い：あなたが一番関心を持つサハラ以南アフリカの国とその理由は何か。

生徒の答え：(原文ママ)

- ・ガーナはカカオが盛んでさかえている国かと思っていたので一番驚きました。どんどん貧困になっていく理由が日本も含めた先進国だと聞き、人事ではないと思いましたが、私たちがチョコレートを買ったとしても何の解決にもならないと知り、この事についてしっかり考えるべきだと思いました。

添削担当の評価：A

- ・問いに対して、スクリーングで学んだことや調べたことを交えて、考えを述べられている。内容的にはやや正しいとは言えない部分があり、解決策について具体的な取組みが調べられていない部分も見られる。フェアトレードなどの用語を調べて関連付けられるようになると、理解がより深まっていく。

【3通目 (あなたが一番関心のあるサハラ以南の国とその理由：A)】

設問7 3通目のレポート(教科書P.86~119)に関する①~③の問いから一つ選び、自分なりの答えを書いてみましょう! <思考・判断・表現>

あなたの選んだ問い

①世界的にスペイン語を第一言語とする人口が多いのはなぜか?  
②西アジアのイスラム諸国は、新たにどのような課題に直面しているか?  
③あなたが一番関心を持つサハラ以南アフリカの国とその理由は何か?

記入する上での注意・ポイント

その一：インターネットで調べたことを書き写すだけでなく、自分の考えや意見・理由も交えて書いてみよう!  
その二：答えは一つでなかったり、そもそも答えがないものもあります。大切にしたいのは様々な知識を活用して答えない問いについて考え続けることです。  
その三：下に評価基準を設定しています。自分の記入状況を確認し、一つでも上の評価を目指して記述しよう!

【設問7の評価基準(目標の達成度)】

A	B	C(再提出)
「問い」に対する答えに「自分の考え」や「意見・理由」を交えて「行(黒線)」を超える分量で書いている。	「問い」に対する答えが書かれている。	未記入 または、明らかに問いに対する答えになっていない。

設問8 3通目のレポートやスクリーングでの学びを「広げたり」「深めたり」するためにどのようなことに取り組みましたか?具体的な行動を下に記入しましょう。《主体的に学習に取り組む態度》

例:他人の意見や考えを聞いて、自分にはない考えや意見を得るようにした。  
前回の設問7が書けるようになりました。しっかり考えるようにしました。中間試験もがんばります。  
リス(勉強)を覚えるより楽しんでやることにしました。

・前期中間試験の問い

前期のレポート内でヒントはあったが、生徒にとって比較的難易度の高い記述式問題であった。

問い：イスラームの文化はオアシス都市に住む人々の生活習慣や価値観にどのように反映されていますか。「異文化」、「もてなし」という語句を両方使い、解答欄に続くように答えましょう。

生徒の答え：(原文ママ)

- ・異文化の価値感や文化を大切にし、他国の人々へのもてなしを忘れないこと (が根づいている。)

添削担当の評価：A

- ・試験でまったく書けない生徒もいるなか、当該生徒は良く書けており、記録として残した。文章力の向上が感じられる。

【中間試験の一部 (「オアシス都市の文化について」：A)】

④ イスラームの文化が栄えた地域では、オアシス都市として交易を軸に都市が発展してきました。このことからその生活習慣や価値観にどのように反映されていますか。「異文化」、「もてなし」という語句を両方必ず用いて解答欄に続くように答えましょう。なお、文字数は25字以上35字以内とし、読点(、)や句点(.)は1字とします。また、下の評価基準を参考にして答えてください。 《思考・判断・表現》

異文化の価値感や文化	10
を大切にし、他国の	20
々へのもてなしを忘れ	30
ないこと	35

【④の評価基準】

A	B	C
指定語句を2つも用いている。 ・25字以上35字以内で記述している。 ・内容が合っている。	Aの評価基準を満たしていない項目がある。	未記入。

・レポート4通目

選んだ問い：①②③

生徒の答え：(原文ママ)

- ①気温が比較的温暖だから。地価が安いから。アメリカは世界でもっとも留学生の多い国で労働力が豊富だから。
- ②日本に旅行に来た中国人が日本の経済の支えになっている。日本の文化に興味がある人が多い。
- ③両替の必要が無かったり、パスポートを提示しなくても自由に国境を行き来できる。

添削担当の評価：B

問いを一つに絞れていないことに加え、それぞれの解答が単文的で自分の考えも見受けられない。このように、問いの指示が正しく伝わらなかったりする例は他の生徒にもみられるので、きめ細やかな支援が必要である。

【4通目 (どれか1つを選ぶことができなかつた：B)】

令和4 地理総合 4 7/7

設問7 4通目のレポート(教科書P.120~144)に関する①~③の問いから一つ選び、**自分なりの答え**を書いてみましょう! 《思考・判断・表現》

あなたの選んだ問い

①なぜアメリカの知識産業は北緯37度以南の特定の地域で盛んになったのだろうか?  
②巨大市場を持つ中国の存在は国際関係にどんな影響をもたらすか?  
③シengen協定やユーロの採用はヨーロッパへの旅行者にとってどんなメリットがあるか?

記入する上での注意点・ポイント

その一：インターネットで調べたことを書き写すだけでなく、自分の考えや意見、理由も交えて書いてみよう!  
その二：答えは一つでなかったり、そもそも答えがないものもあります。大切にしたいのは様々な知識を活用して答えのない問いについて考え続けることです。  
その三：下に評価基準を設定しています。自分の記入状況を確認し、一つでも上の評価を目指して記述してみよう!

①気温が比較的温暖だから。地価が安いから。アメリカは世界でもっとも留学生の多い国で労働力が豊富だから。日本に旅行に来た中国人が日本の経済の支えになっている。日本の文化に興味がある人が多い。  
②両替の必要が無かったり、パスポートを提示しなくても自由に国境を行き来できる。

【設問7の評価基準(目標の達成度)】

A	B	C(再提出)
「問い」に対する答えに自分の考えや意見・理由を交えて5行(黒線)を超える分量で書いている。	「問い」に対する答えが書かれていない。	未記入 または、明らかに問いに対する答えになっていない。

設問8 4通目のレポートやスクリーングでの学びを“広げたり”“深めたり”するためにどのようなことに取り組みましたか?具体的な行動を下に記入しましょう。《主体的に学習に取り組む態度》

例:他人の意見や考えを聞いて、自分にはない考えや意見を得るようになった。  
・他人事ではなく自分の国にも大きく関係していると考えようになった。  
・5.6日目がかなり多い。

・レポート5通目

選んだ問い：少子高齢化が進む日本のこれからの対応はどうあるべきか。

生徒の答え：(原文ママ)

これからどんどんお年寄りの人も増えてきて、子どももどんどん減っていくと、今の子どもや若い人たちに負担がいくことになりそう。一人一人のお年寄りを大事にしていきたいけど、お金や労力にも限りがあるからある程度見切りをつけて、若い人たち優先していく方向に変えていった方が良いと思う。できれば、外国人を入れて働き手を増やすのではなく日本人の人口をどうにかして働き手を増やす方向に変えてほしい。

添削担当の評価：A

具体的な課題を把握し、問いに対する自分の意見も交えて文章が書けている。また、人口問題と労働を関連付けられるなど、多角的に物事を考察できるようになり始めている。「若い人たちに優先する」「お年寄りに見切りをつける」「日本人の人口を増やす」など、具体性に欠けたり、語弊のある表現もみられるが、学習による変化が感じられる文章といえる。

【5通目 (少子高齢化が進む日本がとるべき対応：A)】

令和4 地理総合 4 7/7

設問7 5通目のレポート(教科書P.145~179)に関する①~③の問いから一つ選び、**自分なりの答え**を書いてみましょう! 《思考・判断・表現》

あなたの選んだ問い

①食料輸入の比重の大きい日本は、今後この問題にどう対応すべきか?  
②地球環境も含めて、これからの原子力発電をどうすべきか?  
③少子高齢化が進む日本のこれからの対応はどうあるべきか?

記入する上での注意点・ポイント

その一：インターネットで調べたことを書き写すだけでなく、自分の考えや意見、理由も交えて書いてみよう!  
その二：答えは一つでなかったり、そもそも答えがないものもあります。大切にしたいのは様々な知識を活用して答えのない問いについて考え続けることです。  
その三：下に評価基準を設定しています。自分の記入状況を確認し、一つでも上の評価を目指して記述してみよう!

これからどんどんお年寄りの人も増えてきて子どももどんどん減っていくと、今の子どもや若い人たちに負担がいくことになりそう。一人一人のお年寄りを大事にしていきたいけど、お金や労力にも限りがあるからある程度見切りをつけて、若い人たち優先していく方向に変えていった方が良いと思う。できれば、外国人を入れて働き手を増やすのではなく日本人の人口をどうにかして働き手を増やす方向に変えてほしい。

【設問7の評価基準(目標の達成度)】

A	B	C(再提出)
「問い」に対する答えに自分の考えや意見・理由を交えて5行(黒線)を超える分量で書いている。	「問い」に対する答えが書かれていない。	未記入 または、明らかに問いに対する答えになっていない。

設問8 5通目のレポートやスクリーングでの学びを“広げたり”“深めたり”するためにどのようなことに取り組みましたか?具体的な行動を下に記入しましょう。《主体的に学習に取り組む態度》

例:他人の意見や考えを聞いて、自分にはない考えや意見を得るようになった。  
・国内に工場を移す企業が増え、円安も影響が出ている。

・レポート6通目

生徒自身が立てた問い：

物価は上がるけど給料は下がるこの社会でどのように生きていく？

生徒の答え：(原文ママ)

最近、スーパーの品だったり、エアコンなどの電気代などが上がっていると聞いているので、なるべく無くても良いものは買わない、使わない方向で暮らしていくべきだと思います。暖ぼうではなくガスボンベ、ストーブなどで暖める、寒かったら暖ぼうをつけるのではなくなるべく着る。など、これからはしっかり工夫して生きていかないと考えます。

【6通目(生徒自身が立てた問いとその答え方：A)】

設問7 地理総合では1〜5通目のレポートで問いについて考え、自分なりの答えを導き出すトレーニングを積んできました。6通目では、皆さん自身が問いを立て、それについて自分なりの答えを記入しましょう。《思考・判断・表現》

《地理総合全体を学んだうえで立てた問いをここに記入しましょう。》

物価は上がるけど給料は下がるこの社会でどのように生きていく？

記入する上での注意点・ポイント

その一：インターネット調べたことを書き写すだけでなく、自分の考えや意見・理由も交えて書いてみよう！  
 その二：答えは一つでなかったり、そもそも答えがないものもあります。大切にしてほしいのは様々な知識を活用して答えのない問いについて考え続けることです。  
 その三：下に評価基準を設定しています。自分の記入状況を確認し、一つも上の評価を目指して記述してみよう！

最近 スーパーの品だったり、エアコンなどの電気代などが上がっていると聞いているので、なるべく無くても良いものは買わない、使わない方向で暮らしていくべきだと思います。暖ぼうではなくガスボンベ、ストーブなどで暖める、寒かったら暖ぼうをつけるのではなくなるべく着る。など、これからはしっかり工夫して生きていかないと考えます。

【設問7の評価基準(目標の達成度)】

A	B	C(再提出)
「問い」に対する答えに自分の考えや意見・理由を交えて5行(黒線)を超える分量で書いている。	「問い」に対する答えが書かれている。	未記入 1〜5通目で扱った「問い」を書いている。

添削担当の評価：A

最終回では生徒自身が問いを立てる学習において、身近な暮らしの課題に着目し、その解決策を書くことができています。解決策は「我慢する」「なるべく着る」等にとどまっているが、本人が記すとおり、レポートで学んだ地理的な視点をもとに、様々な課題を自分自身とつなげて考えられる力が身に付いたことは明らかである。

【6通目(最後の所で、自身が身に付けた力は何かをきいた)】

生徒の答え：(原文)

今起こっている問題を自分のこととして考えて答えを出す力。

教員のコメント：レポートを通じて、最も身に付けてほしい力を書いたくれた。

設問8 「地理総合」のレポートが終わるにあたって学びを振り返りましょう。次のA〜Cについて記入しましょう。(主体的に学習に取り組む態度)

A 1年間「地理総合」のレポート・スクーリングに取り組んできてどのような力が身についたと感じますか？文末が「〜力」で終わるように記入しましょう。

今起こっている問題を自分のこととして考えて答えを出す力

当該生徒のスクーリングおよびレポート添削を担当し、記録をとった教員のコメント：

この生徒は、抽出生徒(15名)の中でも特に変容の見られた生徒であった。この生徒は、初めから「A」評価の条件を満たす文章が書けた生徒ではなかったが、スクーリングを受ける姿勢に徐々に変化が見られて、それがレポートの取組みにも成果として表れてきた。解答に不十分な点はあっても、通数を経るとともに地理的な見方・考え方が身に付き、自分の生活と結び付けて身近な諸課題をとらえられるようになった。6通目からも分かる通り、生徒自身も学習の仕方が変わっていったことを振り返っている。このように全通の内容を記録してきたこと自体が初の試みであった。

③来年度から開始する新教育課程対応レポートの作成とその課題

新たな知識を身に付けた上で、その知識を活用して取り組む「探究的な問い」が新規のレポート内でも増えている。学習指導要領の改訂や教科書の内容をふまえると必要な変化と思われるが、生徒にとっては「難化」もしくは「やや難化」と受け止められる面もあり、教員のサポートは一層大事になってくる。「探究的な問い」を苦手とする生徒が多くいる中で、教員の寄り添いが、地道にレポートと向かい合っていく生徒の単位修得につながるようにしなければならない。

#### ④体験学習の重視（2年目の報告）

昨年度に引き続き、校内の様々な資源を活用し（図書室や美術室、校内栽培の綿花）、生徒に実物に触れる機会や、フィールドワークの機会を通信制高校でも設けるという体験学習を行った。

綿花は栽培するだけでなく、収穫し、綿を取り出す実際の難しさを体験する機会を設けることができた（※右は世界史Bでの様子）。

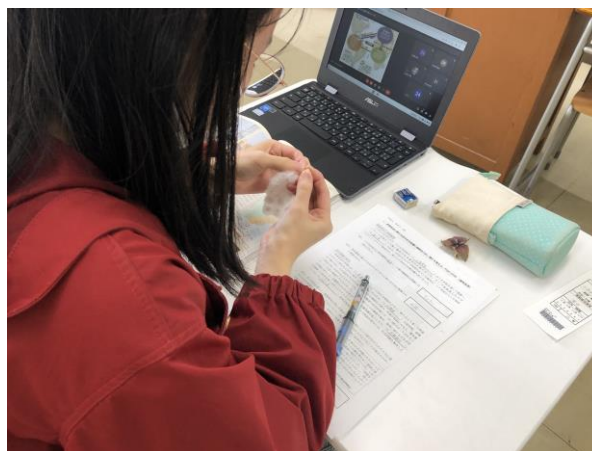
綿花の葉や綿は、虫や汚れがつきやすく、栽培は手間のかかるものであった。しかし、生徒の反応は、とてもよく、年間を通して生徒の記憶に残るのであればという思いで2年目も担当者が取組んだ。

今後も、綿花の栽培は継続予定であり、次年度は亜麻（リネン）の栽培も検討している。

他にも、実物教材（例：クルアーン、キブラコンパス、旅行のお土産品、ほか多数）を生徒に見せて触れられる機会をつくる。また、生徒は毎回のスクーリングに出席するわけではないので、毎時の体験活動の充実を図る。



【栽培した綿花の様子】



【綿花からの種子の分離に挑戦する生徒】

#### (2) 成果

特に「地理総合」、「公共」において、「探究的な問い」と評価基準に一定の効果を生徒と教員が感じたこと、「探究的な問い」を掲載しても生徒の単位修得率（約6割）を維持した一年間であった。

【今年度の新規科目と「単位の実質修得率」の表】 ※ ★マークは新教育課程対応レポート科目。

	通年		通年
地理総合★	63.6%	公共★	58.3%
地理B	86.7%	倫理	64.5%
世界史A	53.3%	政治・経済	73.0%
世界史B	74.5%		
日本史A	66.5%	日本史B	75.7%

※ 単位を修得した生徒/活動者数（スクーリングに一回以上出席またはレポートを一通以上提出した生徒）の割合（平日講座のみの数字）

#### (3) 次年度に向けて

新しい開講科目「歴史総合」、「世界史探究」、「日本史探究」、「地理探究」、「政治経済」、「倫理」があり、そのいずれも評価基準を掲載した探究的な問いが載っている。教員による、そのような「自分の考えを書く」課題を難しいと感じる生徒への適切なサポートと、諸事情があり、通学回数のない生徒に対し、修悠館マイページ内の動画コンテンツの充実などがこれまで以上に求められている。

## 数学科

### (1) 今年度の取組み

通信制数学科における Google Classroom の効果的な活用と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「スクーリングでの ICT を活用した取組みと成果」と「新教育課程対応レポートの報告」、「来年度から開始する新教育課程対応レポートの作成」について述べる。

#### ①スクーリングでの ICT を活用した取組み（数学 I）

Chromebook を常備している教室でスクーリングを行い、スクーリング開始前に生徒各自でログインさせ、学習の準備をさせた。

②年間通しての Google Classroom を使ったレポート学習設計として、「本日の振り返り」「学習資料」「レポートの確認問題と解説動画のリンク付け」を配置した。

出席票	数学 I レポート10通目
講座名	ログイン
出席者名	PC : [REDACTED]
川瀬	スマホ : [REDACTED]
日付 所属	@ [REDACTED]
Rd#11月17日(本)	
1 2 3 4 5 6 7	
HR	
ここにバーコードを貼ってください	パスワード : [REDACTED]
	例)

【Chromebook のログイン設定画面】

レポート5 第2回 (7月14日)

本日の振り返り 最終授業: 10月20日

【7】～【9】資料 投稿日: 7月13日

《7》～《9》資料.pdf PDF

授業プリント.pdf PDF

演習プリント【応用】.pdf PDF

資料を表示

レポート5《6》確認 投稿日: 7月13日

レポート5《7》確認 投稿日: 7月13日

レポート5《8》確認 投稿日: 7月13日

レポート5《9》確認 投稿日: 7月13日

【Google Classroom レポート学習設計】

レポート9 第2回 (11月10日)

本日の振り返り 投稿日: 11月9日

《6》～《8》資料 投稿日: 11月9日

レポート9《6》確認 投稿日: 11月8日

レポート9《7》確認 投稿日: 11月8日

レポート9《8》確認 最終授業: 11月10日

期間なし

0 提出済み 47 割り当て済み

レポート9《8》確認 Google フォーム

考える問題.pdf PDF

【高校 数学 I】 三角... YouTube 動画 8分

課題を表示

【Google Classroom レポート学習設計】

学習資料は、本時で扱うレポート問題の補助プリント、スクーリング中に例題として解く授業プリント（スクーリング時に配付するもの）、多くの類題と応用問題をいれた演習プリント【応用】の構成とした。

確認問題では、Google Forms を用いてレポートと同じ問題を設置して、解答を半角の数値で入力したり、選択したりして、生徒自身で解答が正しいか判断できるようにした。解答を間違えた場合は、正解は表示させず、再度数値を入力できるように設定しており、何度でも学び直しができるようにした。

レポート5《4》確認

【4】 2次関数  $y = x^2 - 4x + 5$  のグラフを下の図のように描く。このグラフの頂点の座標を求めよ。

$x = \square$   $y = \square$

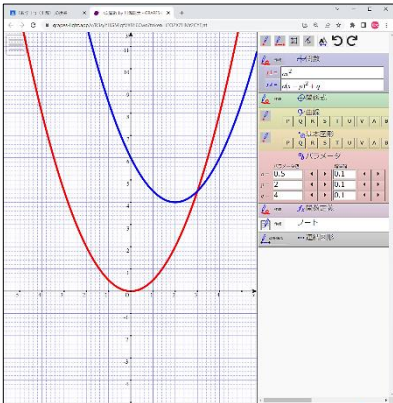
○ 選択問題

○ 数値問題

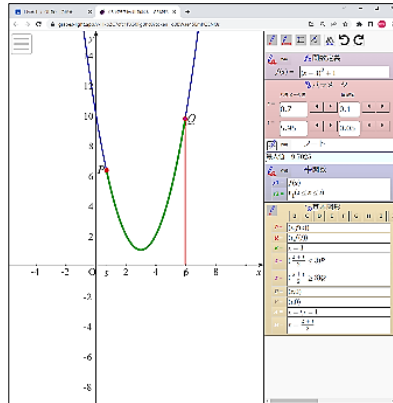
【レポート確認問題の設置】



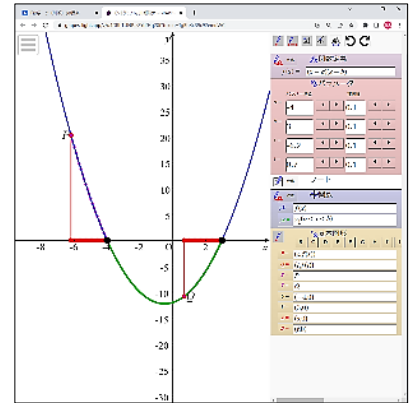
2次関数の単元では、Google Classroom から関数グラフソフト Grapes にアクセスさせ、グラフの平行移動の考察、最大値・最小値の考察、2次不等式の考察を行わせた。



【平行移動の考察】



【最大値・最小値の考察】



【2次不等式の考察】



【平行移動の考察】



【平行移動の振り返り】



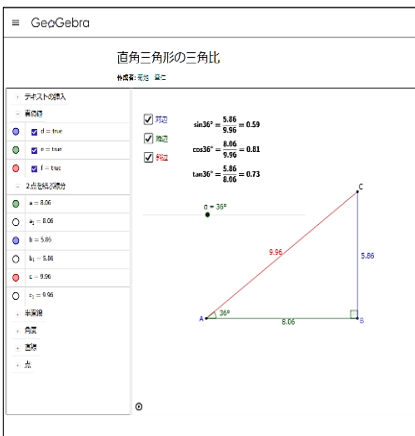
【最大値・最小値の考察】

三角比の単元では、Google Classroom から関数グラフソフト GeoGebra にアクセスさせ、三角比の値が角の大きさによって決まること、任意の三角形で正弦定理が成り立つこと、余弦定理の証明を生徒自身が画面上で図形を動かし考察させた。

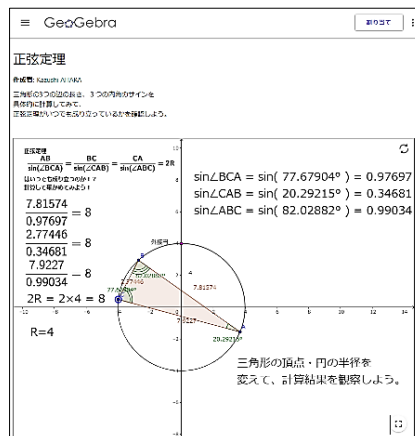
※GeoGebra の内容は、インターネット上に公開されている作品を使用している。



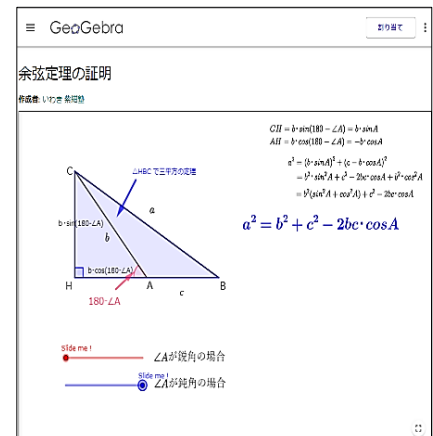
【正弦定理の証明】



【三角比の値】

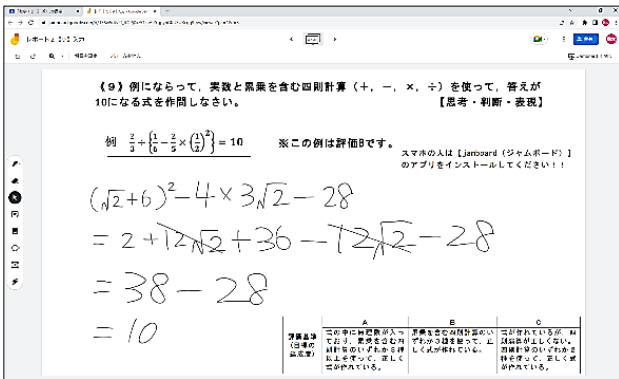


【正弦定理の証明】

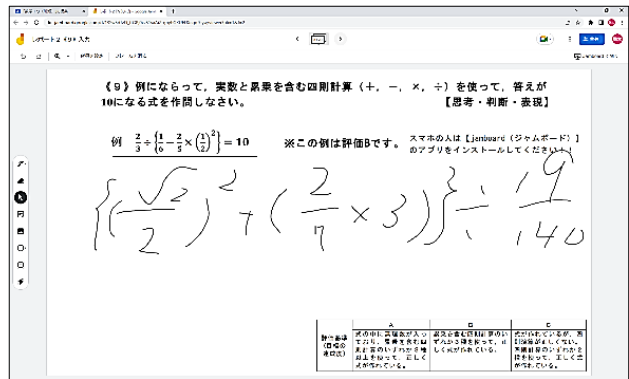


【余弦定理の証明】

レポートの問題の中で、生徒に立式を考えさせる問いを入れており、それを生徒間で共有するため、Jamboard を用いて、画面上で記載してもらった。これらを参考にさせることで、手が止まっていた生徒も立式をする様子が見られた。



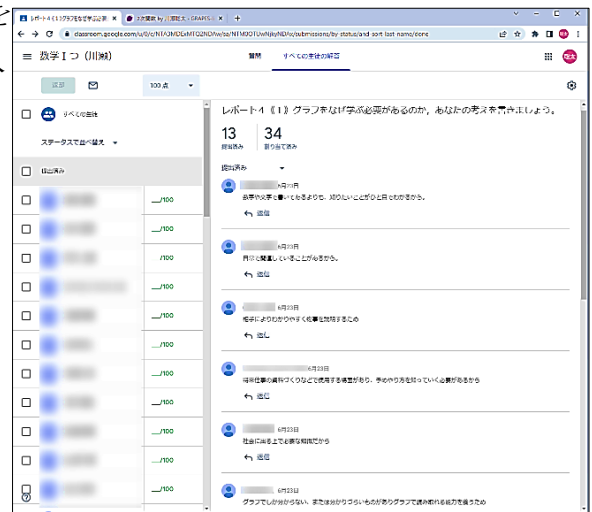
【Jamboard で有理数を含む四則演算の共有】



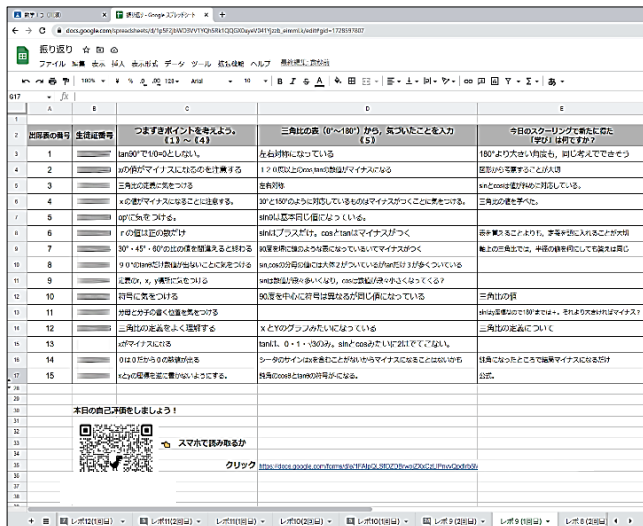
【Jamboard で有理数を含む四則演算の共有】

生徒同士の意見の共有として、Classroom の質問機能を利用して、「グラフをなぜ学ぶ必要があるのか」などを入力して生徒全体で問題意識の共有を図った。

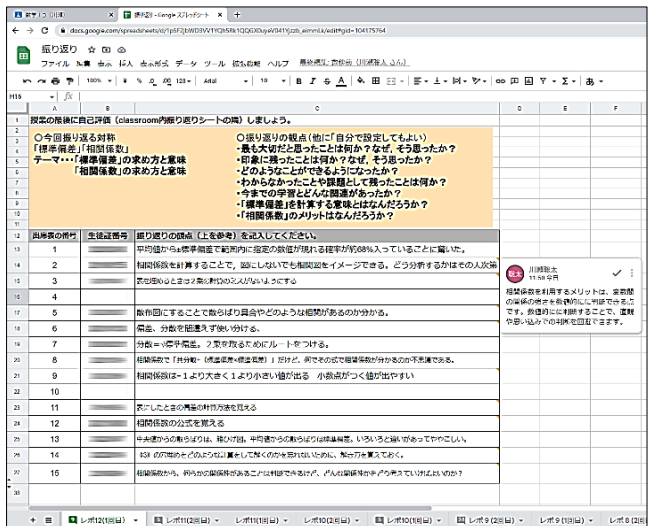
本日の振り返りでは、Google スプレッドシートを利用した。各問題でのつまずきポイントや気づいたことは何か、スクーリングで新たに得た学びは何かを入力させたり、振り返りの観点を提示して、それに対して振り返りを入力させて、意見の共有を図った。入力された文言には、毎回教師からコメントを入力した。生徒が記入したものを返すとき、経験上教師のコメントがあるかないかで、その後の取組みに大きな影響を与えるからである。教師のコメントの確認は、次のスクーリング開始前に振り返りシートを開かせ、内容を紹介するなどをして、スクーリングのフィードバックを行った。振り返りシートに関しては、同じスプレッドシートを用いて、タブをクリックすればいつでも共有内容を確認できるようにしている。



【Classroom の質問機能】

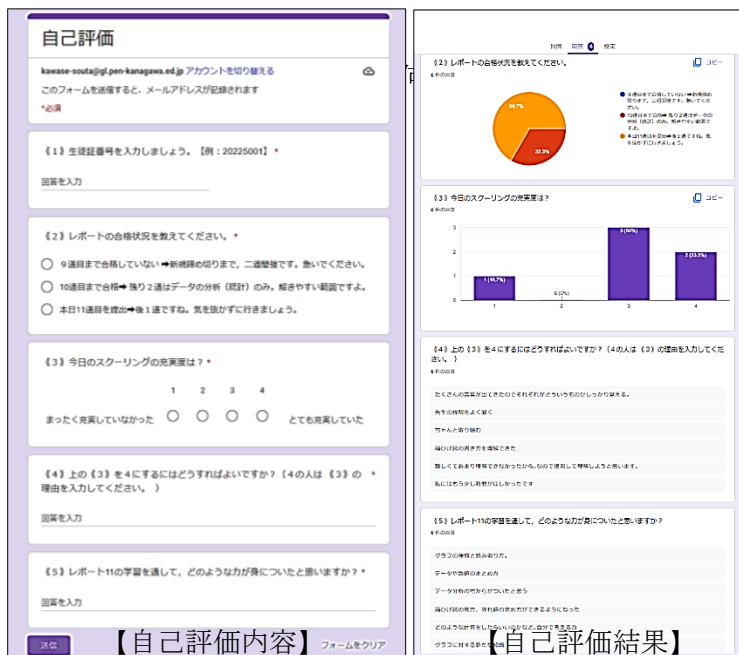


【本日の振り返り（三角比の拡張）】



【本日の振り返り（データの分析）】

そしてスクーリングの最後には、Google Forms を用いて自己評価活動を取り入れた。きるようになったか、何が身についたかを振り返るものとした。数学のスクーリングでは、生徒は問題が解けた、解けないという結果だけで満足している面がある。それでは、自分自身を的確に振り返る能力やその振り返りを認知する能力が育たない。日常の中でも目標を立て、意識して振り返ることは必要となる。生徒には自己評価の意義を説明して、スクーリング開始前に振り返りシートと自己評価を開かせ、その内容から、本日の振り返る目標を考えさせたい。そこで自己評価を習慣化することを目指した。



## (2) 成果と課題

年間を通してICTを活用した中で、レポート学習設計は生徒からは

誤答、正答の確認がこれでできるのは便利な機能だなと思った。  
 自分の計算ミスや、間違っているところを見直せてとても良かった。  
 正しかったものを確認でき、間違いがあるときはミスに気づいたので助かりました。  
 間違えたときに修正できるから再提出が減った。

など肯定的な意見が多かった。通信制高校では数学に苦手意識をもつ生徒が多いため、安心して問題に取り組める環境設定は非常に大切になる。生徒への意識の向上を高める方法としては有効性が認められたのではないだろうか。今年度は数学 I の 1 講座のみの試験的運用であったが、次年度は数学 I すべての講座で運用と利用の呼びかけをして、さらなる効果があるか検証していきたい。

Chromebook を利用した Grapes や GeoGebra では、生徒自身が操作して、関数の係数がどう関係しているか、視覚的に最大値と最小値の判断や不等式の解の範囲を捉えることができたと感じた。また、三角比で相似な図形と角との関係性や正弦定理・余弦定理の関係性なども感覚的にも捉えることができたと思う。さらに、Jamboard を利用することで、リアルタイムに数式の共有から生徒の学習への取り組み向上に繋げることができたのも大きな成果だと感じる。

振り返りシートと自己評価では、

みんなの考えを振り返りで知ることができてよかった。  
 振り返りはやった方が得かなと思えた。  
 最初に、振り返りの観点や自己評価を意識することで、問題を単純に解くだけでなく、何で解くのかななどを考えるようになった。  
 授業を通して、何ができるようになったかを気にするようになった。

などの意見があり、スクーリング参加率が高い生徒は徐々に意見を記入できるよう変化していった。学ぶ視点を考えることで深い学びに繋げることができたのではないかと。ただ、スクーリング参加率の低い生徒は継続した取り組みとならないため、記入も淡泊で効果があったかどうかは定かではない。

② 新教育課程対応レポートの報告

評価基準を用いた探究的な問いについて、生徒に実施したアンケートでは、「評価基準があることで、A評価を取れるよう努力した」「自分で作った問題で答えの数字が大きくなってしまつて計算に時間がかかったけれど、今まで自分で数式を作って解くということはやったことがなかったで面白かった」「自分なりに考える力がついた」など肯定的な意見も見られたが、「スクーリングに毎回出席をする人は、説明が聞けるからいいけど、なかなか来れない人には難しい課題だと感じた」などの意見もある。実際、生徒が質問に来る問いは評価基準がある問いが多く苦戦している様子が見て取れた。今後も「思考力・判断力・表現力」を身につけさせていくために、サポートをしっかりとしていきたい。

式  $\frac{7}{100} - \left\{ \left(-\frac{9}{10}\right)^2 + \frac{1}{25} \times \frac{3}{4} \right\} + \frac{177}{100}$

誤答  $\frac{7}{100} - \left\{ \left(-\frac{9}{10}\right)^2 + \frac{1}{25} \times \frac{3}{4} \right\} + \frac{177}{100}$   
 $= \frac{7}{100} - \left( \frac{81}{100} + \frac{1}{25} \times \frac{3}{4} \right) + \frac{177}{100}$   
 $= \frac{7}{100} - \left( \frac{81}{100} + \frac{3}{100} \right) + \frac{177}{100}$   
 $= \frac{7}{100} - \frac{84}{100} + \frac{177}{100}$   
 $= \frac{7-84+177}{100}$   
 $= \frac{100}{100}$   
 $= 1$

誤答のポイント ( )の中の計算でも×、÷を先に計算しなければいけない。

正答  $\frac{7}{100} - \left\{ \left(-\frac{9}{10}\right)^2 + \frac{1}{25} \times \frac{3}{4} \right\} + \frac{177}{100}$   
 $= \frac{7}{100} - \left( \frac{81}{100} + \frac{3}{100} \right) + \frac{177}{100}$   
 $= \frac{7}{100} - \frac{84}{100} + \frac{177}{100}$   
 $= 1$

評価基準 (目標の達成度)	評定項目	すべて満たす A	2つ以上満たす B	C
	立式	( )の中の計算と乗算を含む四則計算(+、-、×、÷)のいずれかが2種以上使われて、立式できている。	乗算を含む四則計算(+、-、×、÷)のいずれかが1種使われて、立式できている。	乗算を含む四則計算(+、-、×、÷)のいずれかが1種使われて、立式していない。
	誤答	誤答のポイントを明確に記述できている。	誤答のポイントを明確に記述できている。	誤答のポイントを記述できていない。
	正答	正しい答えを求めることができた。	正しい答えを求めることができた。	正しい答えを求められていない。

【正負の数の探究的な問い】

【B】例を参考に、不等式  $ax > b$  を解きなさい。ただし、 $a, b$  は実数とする。

【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】

例) 方程式  $ax = b$  を解け。ただし、 $a, b$  は実数とする。  
 (i)  $a \neq 0$  のとき、 $(-a \neq 0$  ではない)  
 $ax = b$  より  $x = \frac{b}{a}$   $x > \frac{b}{a}$   
 (ii)  $a = 0$  のとき、  
 $0 \times x = b$  より  
 (ア)  $b \neq 0$  のとき、 $0 \times x \neq 0$  なので  $x$  は解なし  $x < \frac{b}{a}$   
 (イ)  $b = 0$  のとき、 $0 \times x = 0$  なので  $x$  はすべての実数

$a$  の値によって、方程式の解が変わる。そのため、(変数の値に応じて)いくつかの場合に分けて考えるのがよい。これを「場合分け」というのじゃ！  
 教科書には載っていない「区間」じゃ！心してかまろのや！

(i)  $a > 0$   $ax > b$   $x > \frac{b}{a}$   
 (ii)  $a < 0$   $ax > b$   $x < \frac{b}{a}$   
 (iii)  $a = 0$  のとき、 $0 \times x = b$  より  
 (ア)  $b \neq 0$  のときは解なし  
 (イ)  $b = 0$  のときはすべての実数

Good!!

評価基準 (目標の達成度)	A	場合分けで、「 $a > 0$ 」「 $a < 0$ 」「 $a = 0$ 」のときの解のうち、2個以上正解している。	B	場合分けで、「 $a > 0$ 」「 $a < 0$ 」「 $a = 0$ 」のときの解のうち、1個正解している。	C	場合分けで、「 $a > 0$ 」「 $a < 0$ 」「 $a = 0$ 」のときの解のうち、1個も求められていない。

【1次不等式の探究的な問い】

【B】2次関数  $y = (x-3)^2 + 1$  について次の問題を解きなさい。

【主体的に学習に取り組む態度】

(1) 定義域が次の3つの場合についてそれぞれ最大値を調べよ。

1 区間  $x \in [4, 6]$   $y$  は  $x = 5$  のとき最大値「5」をとる。  
 2 区間  $x \in [1, 5]$   $y$  は  $x = 3$  のとき最大値「5」をとる。  
 3 区間  $x \in [0, 4]$   $y$  は  $x = 4$  のとき最大値「10」をとる。

(2) 1. 区間の定義域と最大値の関係について、「放物線の論」という単語を用い説明しなさい。

下: 「この時、定義域の中に放物線の頂点がある場合は、最小値は頂点と重なる。最大値は区間の中心から離れた方の区間の端点にある。定義域の中心から離れた方の区間の端点から離れた方の区間の端点にある。定義域の中心から離れた方の区間の端点から離れた方の区間の端点にある。」

評価基準 (目標の達成度)	A	すべての場合の定義域で最大値が求められており、定義域と最大値の関係も正しく説明されている。	B	最大値が求められていない定義域が2つ以上ある。	C	最大値が求められていない定義域が1つ以下である。

【2次関数の探究的な問い】

で測定してください。

【B】レポート6通目とレポート7通目で三角比の基礎を学びました。その中で用いた公式や定義、図形の性質で大車だと思ふのをできる限り書き出しましょう。その際に、図の値を用いてよい。

【主体的に学習に取り組む態度】

この三角比の値は...

A	30°	45°	60°
sin	$\frac{1}{2}$	$\frac{\sqrt{2}}{2}$	$\frac{\sqrt{3}}{2}$
cos	$\frac{\sqrt{3}}{2}$	$\frac{\sqrt{2}}{2}$	$\frac{1}{2}$
tan	$\frac{1}{\sqrt{3}}$	1	$\sqrt{3}$

評価の基準 (目標の達成度)	A	レポート6・7で用いる公式や定義、図形の性質が5つ以上正しく記述されている。	B	レポート6・7で用いる公式や定義、図形の性質が3つ以上正しく記述されている。	C	レポート6・7で用いる公式や定義、図形の性質が2つまでしか正しく記述されていない。

【三角比の探究的な問い】

- 1次不等式では、場合分けを考察
- 2次関数では、定義域と最大値の関係を考察
- 三角比では、三角比の性質の振り返り
- 図形の性質では、三角形の性質を利用した考察

(12) P88 星の図形の角の和

(1) 円周上に5つの点をとってつづつた右のような図形について、先鋒部分の5つの角の和  $\angle a + \angle b + \angle c + \angle d + \angle e$  を求めよ。下の解答の横書きを書き、解答を完成させなさい。

【思考・判断・表現】

解答

図のように、角  $p, q, r, s, t$  をとると、  
 $\angle p + \angle q + \angle r + \angle s + \angle t = 360^\circ$   
 ここで、円周角の定理から  
 $\angle p = 2\angle a, \angle q = 2\angle b$   
 $\angle r = 2\angle c, \angle s = 2\angle d, \angle t = 2\angle e$   
 $2\angle a + 2\angle b + 2\angle c + 2\angle d + 2\angle e = 360^\circ$   
 $\angle a + \angle b + \angle c + \angle d + \angle e = 180^\circ$

(2) 5つの点が円周上にない場合は、先鋒部分の5つの角の和は上でも似たような図形と比べて、どうなると思うか。自分の考えを書きなさい。

頂点と円の内側に移動すると角は小さくなるので、同じ分だけ他の角が小さくなるので5つの角の和は180°のままです。

評価基準 (目標の達成度)	A	両方の問題に対して、数学的に正しく書くことができています。	B	両方の問題に対して、数学的に正しく書くことができています。	C	両方の問題に対して、数学的に正しく書くことができていない。

【図形の性質の探究的な問い】

(3) 次年度に向けて

来年度から開始する新教育課程対応科目は「数学Ⅱ」「数学B」「数学C」である。これらは選択科目講座でかつ上級科目であるため、探究的な問いの難易度をどの学力層に設定するのかを検討した結果、「(生徒の実力の)少し上の難易度設定」を多めにした。問いの内容も現実世界に直結したものを取り入れることで、事象を数学的に考察し、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する力を身につけることができるレポートを目指した。そして「思考・判断・表現」が深まったかどうかを検証していきたいと考える。

**深める (8) 下の表は、ある株式会社の上高と前年度からの成長率を示している。**

	2019年12月期	2020年12月期	2021年12月期	2022年12月期
売上高(百万円)	100.0	130.0	130.0	219.7
売上高の増減		30.0	0	89.7
前年度からの成長率		1.30	1.00	1.69

**【思考・判断・表現】**  
 論吉くん和美世くんは、2019年から2022年までで、1年間あたりで平均して何倍ずつ売上高が成長しているのかを考えることにした。(電卓を使用して計算してもよい)

論吉: 売上高の増減の平均を計算すると、 $\frac{30}{100}$  だね。毎年の増減の平均が  $\frac{30}{100}$  だから、(2019年の売上高) +  $\frac{30}{100}$  +  $\frac{30}{100}$  +  $\frac{30}{100}$  = (2022年の売上高) になるね。この  $\frac{30}{100}$  は、相加平均(算術平均)で、よく計算される平均値だね。

英世: ジャあ、前年度からの成長率の平均値(相加平均)を計算すると  $\frac{1.30+1.00+1.69}{3}$  になるね。でも、2019年から平均して  $\frac{1.30+1.00+1.69}{3}$  倍ずつ成長しているということは、(2019年の売上高)  $\times$   $\frac{1.30+1.00+1.69}{3}$   $\times$   $\frac{1.30+1.00+1.69}{3}$  = (2022年の売上高) が成り立つはずだけど、計算すると  $\frac{100 \times 1.30 \times 1.00 \times 1.69}{3^3}$  で、実際の売上高と合わないし、数値が高いよ。論吉: なんでだろう? うーん、「2022年の売上高」を「2019年の売上高」と「前年度からの成長率」で表すと、どうなるかな?

英世: 成長率は、2019年から2020年で1.3倍、2020年から2021年で1倍(横ばい)だから、(2019年の売上高)  $\times$  1.3  $\times$  1.0  $\times$  1.69 = (2022年の売上高) …… ① になるはず。

論吉: 次に、 $x$  は0以上として、1年間あたりで平均して  $x$  倍ずつ伸びているとすると、(2019年の売上高)  $\times x \times x \times x$  = (2022年の売上高) …… ② の式が成り立つね。

英世: ①、②から、 $x^3 = \frac{1.3 \times 1.0 \times 1.69}{3}$  より、 $x = \sqrt[3]{\frac{1.3 \times 1.0 \times 1.69}{3}}$  だとわかるね。

論吉: おー!!  $x = \sqrt[3]{\frac{1.3 \times 1.0 \times 1.69}{3}}$  を②に代入して計算すると、2022年の売上高になる!! これで、1年間あたりで平均  $\sqrt[3]{\frac{1.3 \times 1.0 \times 1.69}{3}}$  の成長をしているって書えるね!!

英世: この  $\sqrt[3]{\frac{1.3 \times 1.0 \times 1.69}{3}}$  が、相乗平均(幾何平均)と呼ばれる平均値だね。

(1)  $\frac{1.3 \times 1.0 \times 1.69}{3}$  に入る数値を求めなさい。

ア	イ	ウ	エ	オ
---	---	---	---	---

Hint:  $12^2 = 1728$   
 $13^2 = 2197$   
 $14^2 = 2744$

(2) 相加平均と相乗平均はどのようなときに使い分けると良いでしょうか? あなたの考えを書きましよう。

	A	B	C
評価基準(目標の達成度)	(1)がすべて正解で、(2)で相加平均と相乗平均の使い分けを説明できている。	(1)のうち、3問以上正解している。	(1)のうち、1問以上正解している。または、すべて未記入。

**【数学Ⅱ 相加平均と相乗平均の探究的な問い】**

**深める (8) 次の2つのくじA, Bについて次の問いに答えなさい。**

**【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】**

くじA

X	300	200	100	0
P	20	30	40	10
	100	100	100	100

くじB

X	5000	500	100	0
P	2	5	33	60
	100	100	100	100

(1) くじAの期待値  $E(X)$  を求めなさい。

(2) くじBの期待値  $E(X)$  を求めなさい。

(3) あなたが1本だけ、AかBどちらかくじを引けるとしたらどちらのくじを引きますか。選んだくじとその理由を答えなさい。(どちらのくじを選んだとしても理由が書いてあれば正解の解答とします。)

選んだくじ	
理由	
由	

	A	B	C
評価基準(目標の達成度)	期待値が2つとも正しく求められており、くじを選んだ理由がかけられている。	期待値がひとつ以上正しく求めることができている。	期待値がひとつも正しく求められていない。

**【数学B 期待値の探究的な問い】**

**深める (11) 論吉くん和美世くんが、資産形成についての会話をしています。次の問いに答えよ。(2)については、常用対数表と電卓を用いてよい。**

**【思考・判断・表現】**  
 論吉: 日本の平均賃金が上昇しないことに加えて、今後も物価上昇が続くことを考えると、若いうちから資産形成をして将来の生活に備えた方がいいよね。そこで米国のS&P500に連動する投資信託の平均的な利回りは、年利6%と書いてあるのだけれど、どういうことかな?

英世: 年利6%が続くなら、毎年投資している額の6%の利回りがあるんだよ。例えば、100万円購入すると、1年後の評価額は、 $1000000 \times 1.06 = 1060000$  (円) になり、2年後には、この額に6%の利回りがつくよ。

論吉: ジャあ、2年後には、 $(1000000 \times 1.06) \times 1.06 = 1000000 \times 1.06^2 = 1123600$  (円) になるのかな。あくまでも、平均で考えればだけだね。

英世: 同じように考えると、 $x$  年後の評価額はどのように表せるかな?

論吉:  $1000000 \times \frac{1.06^x}{100}$  (円) と表すことができるね。

英世: 評価額が初めて200万円以上になるのはいつかな?

論吉:  $2000000 \leq 1000000 \times \frac{1.06^x}{100}$  を解けたいんじゃない?

英世: 常用対数表を使おうと、 $\log_{10} 2000000 \leq \log_{10} (1000000 \times \frac{1.06^x}{100})$  となり、常用対数表を使って、 $x$ の値が求められそうだね!!

(1)  $\frac{1.06^x}{100}$  に当てはまる数式を、 $x$  を用いて答えよ。

(2) 下線の不等式を解き、購入した100万円が初めて200万円以上になるのは何年後か答えなさい。

(3) 運用で得た収益を当初の元本にプラスして再び投資することを「複利」といいます。物理学者のアインシュタインは、「複利は人類による最大の発明だ。知っている人は複利で稼ぎ、知らない人は利息を払う。」という名言を残しています。(2)の結果を踏まえて、感じたことを自由に書いてみよう。

	A	B	C
評価基準(目標の達成度)	(1)を累乗の形で数式を表し、対数の性質を用いて(2)を正しく計算し、(3)に自分の考えを書くことができる。	(1)を累乗の形で数式を表すことができている。または(1)(2)に正しく記入できているが、(3)に自分の考えを書くことができている。	(1)(2)に正しく記入できておらず、かつ(3)に自分の考えを書くことができていない。

**【数学Ⅱ 対数の性質の探究的な問い】**

**深める (11) 静水中を6m/sで進む船が、3m/sの速さで流れる幅18mの川を横切るため、船首を川岸に対して直角に向けてスタートした。**

**【思考・判断・表現】**

(1) 対岸に到達するまでの時間を求めよ。

(2) 船は、出発地点の真向かいの対岸地点から、何m下流の地点に到達するかを求めよ。

(3) 真つす対岸に到達するためには、船を対岸から何度上流に向けてスタートすればよいかを求めよ。

	A	B	C
評価基準(目標の達成度)	ベクトルの演算について十分な理解と考察力があり、すべての問いに正解している。	ベクトルの演算について理解しているが、1問以上正解していない。	ベクトルの演算について理解が不十分で正解がない。

**【数学C ベクトルの探究的な問い】**

## 理科

### (1) 今年度の取組み

#### ①出席票の活用

地学基礎のスクーリングにおいて、毎時の最後に以下の2点を出席票に記入する時間を設定した。

- ・ 本時の取組みに対する振り返り
- ・ 本時の「学習を深めるための問い」の設定

#### ②ICTを活用した生徒同士の意見共有

地学基礎のレポートにある、自分の考えを記入する課題において、スクーリング内でGoogle FormsやPadletを活用し、他者の考えを共有したうえで、改めて自分の考えをまとめる時間を設定した。

#### ③上位科目（物理、化学、生物、地学）の新教育課程版レポート作成

新教育課程に対応したレポートを作成する中で、学びを深めるための探究的な問いを検討した。

### (2) 成果

#### ①出席票の活用

【資料1】のような出席票を配付した。本時の取組みに対する振り返りの回答は【資料2】のようになった。この回答から、教員の指示に従って活動することはできるが、「自分で考えること」や「自分の言葉で表現すること」に苦手意識をもつ生徒がいることが読み取れる。

学習した内容に疑問をもち、「学習を深めるための問い」を立てることができるようになるために、以下の2つの取組みを実践した。

- ・ 提出された「学習を深めるための問い」を1～2個、次回のスクーリング時に共有
- ・ 共感できる問いに投票（【資料3】）

出席票	
講座名	
地学基礎<	
新規 継続	
平日 日曜・IT	
添削担当者名	
筏	
日付 時限	
年 月 日 ( )	
1 2 3 4 5 6 7	
HR	組
ここにバーコードを貼ってください	

(1)今日の目標を振り返りましょう。選択肢からひとつに○をしてください。

①先生の話を集中して聞く。  
あまりできなかった ・ まあまあできた ・ よくできた

②レポートに主体的に取り組む。  
あまりできなかった ・ まあまあできた ・ よくできた

③学習した内容に対して疑問をもち。  
あまりできなかった ・ まあまあできた ・ よくできた

(2)今日の学習を深めるために、どんな問いを立てますか。

例) 学習した内容 一部の陸上の哺乳類は再び海に生活の場を戻した。  
学習を深める問い なぜ、鯨類は生活の場を海に戻したのか。

学習した内容

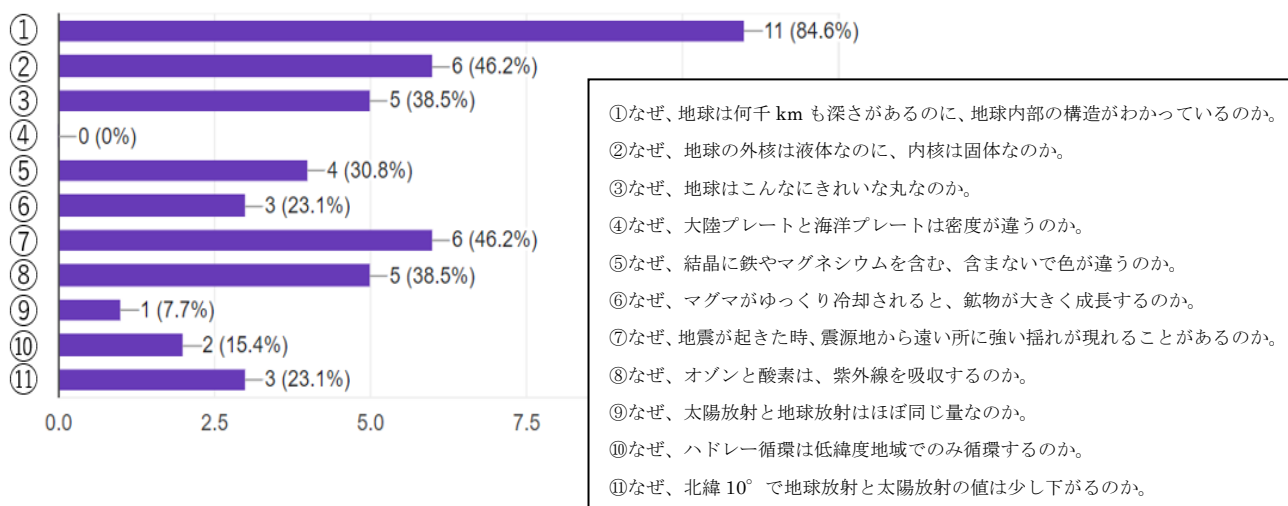
学習を深める問い

【資料1】スクーリングで配付する出席票

ICTを活用して生徒同士の意見共有を行う日はQRコードを添付

	あまりできなかった	まあまあできた	よくできた
①先生の話を中心して聞く	4 %	46 %	50 %
②レポートに主体的に取り組む	0 %	47 %	53 %
③学習した内容に対して疑問をもつ	15 %	57 %	28 %

【資料2】出席票による、本時の取組みに対する振り返りの生徒回答割合（年間）

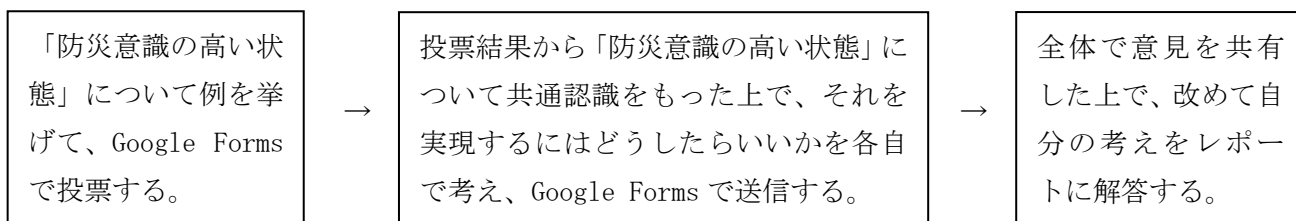


【資料3】「学習を深めるための問い」の中で共感できる問いの投票結果

これらの実践を通して、生徒の振り返りの回答は、年間を通じて大きな変化はなかったが、生徒個々が生み出す問いの質の向上を感じることができた。

## ② ICTを活用した生徒同士の意見共有

例として、防災分野の課題「人々の防災意識を高めるにはどうすればいいか」の取組みを紹介する。



この取組みを通して、生徒の提出したレポートの解答は、共有した内容を活用した、より具体的な内容が見られるようになった。「自分で考えること」や「自分の言葉で表現すること」に苦手意識をもつ生徒にとっても、他の生徒の意見を参考にすることで、課題に取り組みやすかったようである。

③上位科目（物理、化学、生物、地学）の新教育課程版レポート作成

新教育課程に対応したレポート内に設定した、学びを深めるための探究的な問いの一部を紹介する。

**物理**

生徒個々が学びたいことを学べるように、自由学習という課題を設定した。以下の3点のような学習形態を想定し、生徒に案内していくが、教員が想像しないような方法で学びを深める生徒が現れることを期待している。また、提出された課題を掲示することで、生徒同士が刺激しあって学んでいくことも期待する。

- ① 学習内容の理解を深めるために、学習内容を自分なりにまとめる。
- ② 学習内容を定着させるために、問題演習を行う。
- ③ 疑問に思ったことや、もっと知りたいことなどを調べ、その内容をまとめる。

<b>深める 【7】 自由学習</b> <span style="float: right;">[思考・判断・表現][主体的に学習に取り組む態度]</span>	
レポート1の学習内容から、自分なりの『目標』を決めて学習に取り組みましょう。詳しくはスクーリングまたはマイページで配付するプリントを読んで取り組んでください。	
学習日時	月 日 ( ) 時 分 ~ 時 分
目標	.....
自由学習	.....

<b>評価基準</b>		
<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
①学習日時、目標、自由学習、振り返りをすべて記入している。 ②学習時間が30分～1時間程度になっている。 ③自由学習は記入欄の8割以上の記載がある。 ④人に見せることを意識している。	左記①～④のうち、3つを満たしている。	左記①～④のうち、満たしているのが2つ以下である。

【物理の探究的な問いと評価基準】

**化学**

指定された反応の具体例を答える課題において、生徒に評価基準を示すことで、教科書の学習範囲を超える探究的な学びを促す工夫をした。教科書を読んで学習を進めていく通常の課題と同様に取り組むことで、合格であるB評価になるが、A評価になるために教科書以外の書籍やインターネットを用いることで、学習が深まっていくことを期待する。

<b>深める 【8】 反応の種類について、以下の各問に答えなさい。</b> <span style="float: right;">[思考・判断・表現]</span>		
(1) 速い反応と遅い反応の <u>化学反応の具体例</u> について、以下の評価基準を踏まえたうえで、それぞれ1つずつ挙げなさい。		
〈評価基準〉		
<b>A</b>	<b>B</b>	<b>C</b>
少なくとも片方において、教科書・レポートに無い具体例を書くことができている。	教科書・レポートからそれぞれ具体例を探して書くことができている。	具体例を挙げるができない。

【化学の探究的な問いと評価基準】



## 生物

生物と地球環境の関わりを多方面（海洋、大気、地質、生態系）から認識する力を育むことを目的に、以下の課題を設定した。人間生活と結び付けて考えていくことを特に期待する。

**【3】生物多様性と地球環境の変化について、考えてみよう。**  
教科書p.16～19, 23参照【思考・判断・表現】

**深める** (3) 次の①②を答えなさい。教科書や資料をそのまま写すのではなく、自分の言葉で表現しましょう。箇条書き、複数回答可。評価基準をよく読んで解答しましょう。

①酸素を発生する光合成生物が地球環境に与えた影響にはどのようなものがあるか。  
②また、その影響が他の生物に与えた影響を説明しなさい。

(3)の評価基準(目標の達成度)

A	B	C
①と②を関連付けて、教科書や資料の写しではなく、自分の言葉で過不足なく、具体的に書いている。	①と②の事例について、正確に説明できている。	再提出 明らかに問いに対する答えになっていない。①と②に関連性がない。

### 【生物の探究的な問いと評価基準】

## 地学

科学的事実だけを正答とせず、自由な発想で楽しみながら学習を深めることを目的として、「もし○○だったら」という条件を設定した地球環境の想像を課題とした。自由に発想を広げつつも、科学的に論理立てて説明する力を身に付けさせていく。

**【3】生命の進化（教科書：p152～159）**  
【思考・判断・表現】

先カンブリア時代について、以下の各問に答えなさい。

**深める** (4) もし仮に地球上にシアノバクテリアが出現しなかった場合、その後の地球環境や生物は現在とどのように変わっていたと思うか。その根拠を示したうえで、あなたの考えを書きなさい。

評価基準

A	B	C (再提出)
<u>根拠を明確に示した上で</u> 、自分の考えを書けている。	根拠に不十分な点が見られるが、 <u>自分の考えを書けている</u> 。	未記入、または明らかに質問の答えになっていない。

### 【地学の探究的な問いと評価基準】

#### (3) 次年度の課題

生徒の学習が、スクーリングやレポートで完結するのではなく、生徒それぞれの興味・関心に応じて、生徒自身が学習を深めていく状態を目指している。そのため、次年度も引き続き、学習した内容をそのまま受け止めるのではなく、「なぜ」「どうして」と疑問をもつことを意識させたい。

今年度の実践はスクーリングの時間のみでの取組みであったため、成果が限定的になってしまった。次年度は、スクーリング内で収集した生徒の考えを、修悠館マイページやGoogle Classroomを通して、スクーリングに参加していない生徒とも共有し、活用できるようにすることで、すべての生徒が深めていけるICT理科学習環境を整えていく。

また、新しく作成した学習を深めるための問いは、生徒の取組み状況を観察し、生徒がより主体的に学習が深めていけるよう改善していく。

## 保健体育（保健）

### （1）今年度の取組み

#### ①主体的な学びを促すためのレポートの工夫 「評価基準」の活用

健康に過ごすためにどうしたら良いかと自身の生活を振り返ることを目的に、「日常生活に関連した問い」をレポートに導入した。そして評価基準によって、学習内容と日常生活を結びつけ、健康に対し主体的に問題意識を持つことを狙いとした。スクーリングにおいては、「日常生活に関連した問い」に対し様々なICTを用いて自身の意見をまとめること、更には他者の意見を知り相互理解を深めるために意見を述べてみるなど、ICTを用いて対話的な学びも実施した。

#### ②様々なICTツールを用いた他者との意見共有のための工夫

ICTツール	○実施の仕方と●効果
Google Classroom	○スクーリング内容の振り返り・見直し Classroomにスクーリングでの意見共有の結果をまとめて掲載 ●その日の振り返りと、欠席した生徒も内容を確認できる。
Google Forms	○アンケート形式による意見共有 ●即時的な意見共有が可能。グラフがあり、視覚的にもわかりやすい。
Google スライド	○スライドに各自が調べたものをまとめて共有 ●他者に伝えることを前提としたスライドづくりができる。
Google Jamboard	○付箋を使い、1つの画面上で視覚的にわかりやすく意見共有 ●他者と協力しながら意見をまとめることができる。
Mentimeter (意見共有アプリ：昨年度報告)	○質問に対する答えを画面上に表示して意見共有 ●参加した生徒の解答が1つの画面上にまとめられる。

どの国に住みたいですか？(どの国の医療制度が良い？)  
7件の回答

コピー

● フランス  
● イギリス  
● アメリカ

その国の医療制度のどこが良いですか？「○○国は～な所がいい！」など  
7件の回答

イギリスは保険料が無料なところいいと思います

昔年から健康な人には病がもしれないが、病があった時に自分の負担が小さくなるのが安心して生活できると思う。

フランスは日本と制度が似て、負担が減ること自体がかかっても安心して病院に行きやすい。かかりつけ医が決まってるのが通ったら他介だが、ぶっちゃけどこの病院に行くかあまり決めてないと思うので別に気にならないと思った。

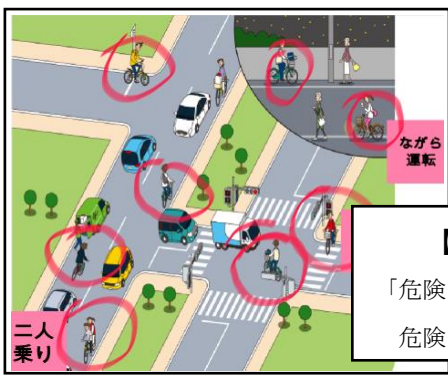
保険にさえ入っていれば他の国と比べて少しでも安く病院で治療を受けられるから良い

アメリカは車賃が少なくていい人にとっては保険料を払わずに、他にお金をまわせるから

フランスはイギリスやアメリカと違って、価格が安いので、安まった価格で済ませようと思います

フランスは国民全員が保険に入っている上に病院に行くまでもない

【Google Classroom/Google Forms】  
「世界の保険制度を比べて、どの国に住んでみたいか考えよう」



【Google Jamboard】  
「危険なところに印をつけ、どんな危険があるか付箋をつけよう」

【Google スライド】  
「興味のある職業についてまとめよう」

職業名：フォトグラファー

どんな仕事？  
→広告やファッション誌に掲載されるモデルを使った人物撮影や、スポーツ専門の撮影、自分の個展や写真集のために撮影をする人など、フォトグラファーと言っても様々な仕事があります。人によって給与は異なり、1500万円を超える人から200万円にも満たない人もいます。

どんな力(スキル・資格など)が必要？  
→自身のスキルが一番重要な仕事で、特に決まった資格は必要ありません。スタジオで働いたり、プロのフォトグラファーとして活動されている方のアシスタントに就くことでスキルを磨いていったり、SNSなどを使い自分の作品をアピールすることも大事になるそうです。

(2) 成果

①評価基準を用いたレポートによる主体的な学び

現在、私(家族)の生活習慣における課題は・・・

です。

改善方法は・・・

10字	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
20字	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
30字	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
40字	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
50字	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
60字	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60

【評価基準】

評価	A	B	C(再提出)
文章の内容	課題をあげ、 それに対する改善方法が <u>日常生活を例にあげて</u> 書けている。	課題をあげ、 それに対する改善方法が 書けている。	課題または 改善方法のどちらかが 書けていない。
書いた量	改善方法が40字以上	改善方法が20字以上	改善方法が20字に達して いない

評価基準を参考に、学習内容を日常生活と結びつけ、自分の考えをまとめようとする記述が多くみられた。

【実際の生徒の記述 (原文)】

左図「改善方法は・・・」

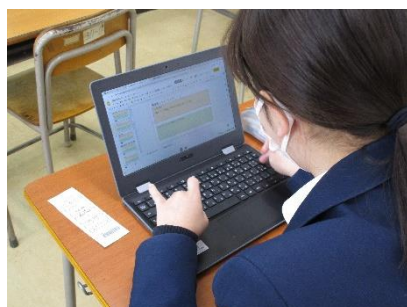
- ・ 体育の授業に出たり、出かける時は自転車とかに乗らず歩くなどして体力をつけることです。  
(課題：運動不足)
- ・ 普段私は、油っこい物や甘い物を食べすぎてしまうのでそれを少なくして野菜もしっかりと食べてバランスの良い食事をとりたいです。  
(課題：バランスの良い食事)
- ・ 私は眠りが浅いので適度な運動をして深く眠れるように日光にあたる等生活のリズムを正して寝る前に気持ちがおだやかになる工夫をしようと思います。(課題： 睡眠不足)

② ICTツールを用いたオンラインでの意見共有

目的に応じて ICT ツールを使い分けてスクーリングを実施したことで、様々な形で他者と意見共有することができた。対面での意見共有を苦手とする生徒が多い中、ICT ツールを用いたことで対話的な学びができたことは大きな成果である。年間を通して出席した生徒は、主体的に他者と意見共有をしようとする姿がみられた。



【スクーリングの様子】



【生徒の活動の様子】

ICT 機器の扱いが苦手な生徒も、スクーリングを通して操作方法を学び、参加したすべての生徒がオンライン上での意見共有をすることができた。操作を簡易化するなど、教員による場面設定も重要であると考えられる。

(3) 次年度に向けて

今年度は、レポートに評価基準を取り入れることで、日常生活と学習を結びつけ、自分の考えをまとめるといって一定の成果があった。また、目的に応じて ICT ツールを活用することで、オンラインで様々な形式での意見共有が実現した。それによって通信制のスクーリングでの対話的な学びの実践の第一歩となった。次年度はこれらを継続、発展させていきたい。

## 保健体育（体育）

### （1）今年度の取組み

#### ①主体的な学びを促すためのレポートの工夫 「評価基準の活用」

運動に苦手意識を持つ生徒や、運動経験が少ない生徒に、運動との向き合い方や運動の価値を考えさせるために、運動に対する自分自身の考え方をまとめるための問いをレポートに取り入れた。また、評価基準によって、日常的なかかわり方を考えるように促した。

#### ★評価基準

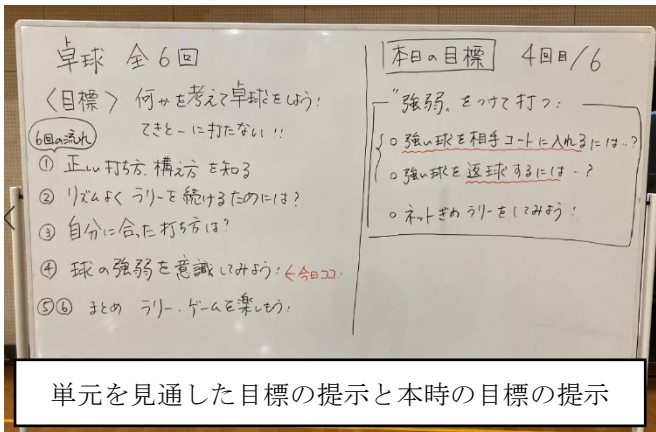
評価	A	B	C（再提出）
内容	①で4つすべて正解し、かつ②で自分に合うスポーツ文化へのかかわり方を4つの中から1つあげ、その理由に自分の考えを日常での具体的なかかわり方を踏まえて書いている。	②で自分に合うスポーツ文化へのかかわり方を4つの中から1つあげ、その理由に自分の考えを書いている。	②で自分に合うスポーツ文化へのかかわり方を4つの中からあげられていない。
量	②に書かれた文章が45字以上	②に書かれた文章が30字以上	②に書かれた文章が30字に達していない。

#### 【体育 I 1 通目】

「自分に合うスポーツ文化へのかかわり方をあげ、その理由を答えなさい」

という問いの評価基準

#### ②主体的な活動を促す「スモールステップの目標設定」



単元を見通した目標の提示と本時の目標の提示

高校入学前の様々な経験から、運動やスポーツに苦手意識を持っている生徒が多い。その理由の多くは「できない」「恥ずかしい」という思いがあるからであると考えられる（昨年度報告書）。

そのような生徒の実態がある中で、「できるかもしれない」「次回も参加してみたい」と一人でも多くの生徒が考え、主体的に取り組むことができるように見通しが立てやすいスモールステップの目標設定をしてスクーリングを展開した。

### （2）成果

#### ①評価基準を用いたレポートによる主体的な学び

運動やスポーツに苦手意識がある生徒が多い中で、スポーツに対する考えを自分なりにまとめようとする記述がみられた。特に注目したい点は、1通目のレポートにおいて、スポーツとのかかわり方を考える際に、「する」以外のかかわり方に着目した生徒の記述である。運動やスポーツに苦手意識があっても、「する」以外の方法で、今後どのようにスポーツと向き合っていきたいかを前向きに考える記述がみられたのは大きな成果である。

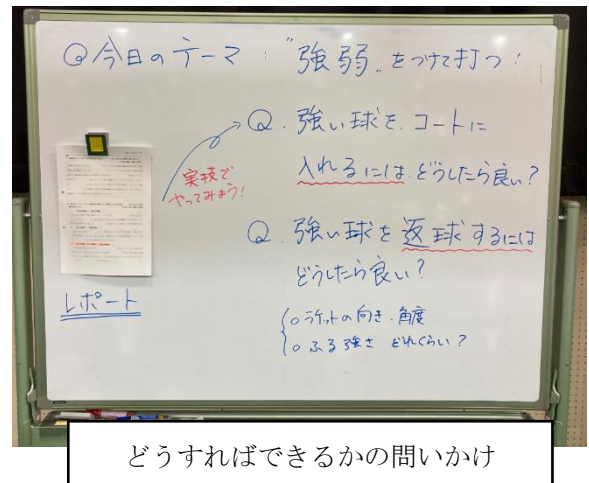
#### ②自分に合うスポーツ文化へのかかわり方を①の語群から1つあげ、その理由を書きなさい。

自分に合うスポーツ文化へのかかわり方は・・・スポーツを（知る。）ことです。													
そのように考える理由は・・・													
自分	が	気	に	な	っ	た	ス	ポ	-	ツ	を	ま	ず
は	知	っ	て	、	実	際	に	身	体	を	動	か	じ
か	ら	ス	ポ	-	ツ	を	知	る	事	で	す	。	好
き	な	選	手	な	ど	の	フ	ォ	-	ーム	を	真	似
し	て	。	身	体	を	動	か	し	たり	、	選	手	達
が	ど	の	よ	う	に	ス	ポ	-	ツ	を	楽	し	ん
で	い	る	か	、	テ	レ	ビ	や	ネ	ッ	ト	で	調
べ	る	。											

【体育 I 1 通目 生徒の記述】

②体育スクーリングへの継続的な参加

前述の通り、運動に苦手意識がある生徒が多いので、単位修得に必要な出席回数を越えてスクーリングに参加する生徒は少なかった。しかし、今年度は、どの講座においてもスクーリングに継続的に参加する生徒がみられた。生徒の実態は常に変化するため、様々な要因の結果であるが、今年度の取組みも一定の成果があったと捉えている。見通しの立てやすい目標設定や、どうすればうまく動くことができるかという問いかけは生徒の主体的な活動を引き出す可能性のあるアプローチの仕方として今後も検討していきたい。



どうすればできるかの問いかけ

(3) 次年度に向けて

①スクーリングについて

運動に苦手意識を持った生徒も評価基準を用いたレポートでの学習を通し、運動とのかかわり方について、自分の考えをまとめることができた。また、スモールステップの目標設定や教員からの問いかけによって運動の楽しさに気づくことのできた生徒も一定数いた。次年度はこうした取組みを継続、発展させ、より多くの生徒の「主体的・対話的で深い学び」を促したい。

②レポートについて

今年度のレポートでは、「運動とのかかわり方」について自分の考えをまとめるという、いわば自分自身との対話的な学びを目指した。次年度のレポートでは、自分自身の運動や、他者の運動を観察し、分析する問いを設定する。内省的な学びに加え、観察や意見共有による他者との対話的な学びにも挑戦していく。  
次年度は、今年度以上にスクーリングとレポートを連動させ、「主体的・対話的で深い学び」の実践を目指していきたいと考えている。

**深める** 3 運動のフィードバックに関する問いに対し、あなたの考えを書きなさい。  
※「評価基準」を参考に記述すること。(P.164、165)【思・判・表】

問い: 自分や周りの人の運動を観察し、「良いところ」や「改善点」を発見(フィードバック)しよう!

「評価基準」

A	B	C
運動場面を観察し、その運動の良いところと改善点の両方を合計90字以上で具体的に書けている。	運動場面を観察し、その運動の良いところか改善点のどちらかを合計45字以上で書けている。	運動を観察した結果が書けていない。

(1) 誰の運動を観察しましたか。(例: 自分/友人/家族/先生/スポーツ選手など)

( )

(2) どんな運動を観察しましたか。(例: サッカーのシュートするところ/縄跳びを跳ぶところ)

( )

(3) どのように観察しましたか。(一つに☑しましょう。その他の場合、観察方法を書きましょう。)

レ	実際に自分が運動し、感覚などを観察した。(内在的フィードバック)
レ	自分や周りの人が運動しているところや、映像をみて、観察した。(外在的フィードバック)
レ	その他 ( )

(4) 発見した「良いところ」や「改善点」を具体的に書きなさい。

	15
	30
	45

## 芸術科

### (1) 今年度の取組み

令和3年度研究を受けて、新教育課程による学習となり、レポート課題においては、評価基準（目標の達成度）が本格的に導入され、芸術科としては鑑賞の部分において用いられる。生徒の思考力・判断力・表現力の育成のために制作作品の素材の知識や作られた時代背景など鑑賞活動での学びを表現活動に生かしていく。短時間でのスクーリングだが前後の学びを意識した教材の作成、発問、生徒一人ひとりに合わせた指導方法を検討していくことで、生徒自身が達成感を得られ、主体的に学習に取り組めるようにしていきたい。この取組みについて報告していく。

#### ① レポートの評価基準による取組み

＜**工芸科**＞昨年度、制作の進捗状況などを自己評価するために評価基準を使用した。今年度は新教育課程によりレポートの感想や鑑賞に評価基準を取り入れた。実技課題「ハンカチの型染め」では、制作工程や素材についてICT、プリントワークや実物を用いて学習した。評価基準では、制作過程での感想やハンカチの完成作品の感想、制作体験を通しての工夫や苦労した事、素材や学習したことを感じながら書けたことで、普通の感想に付加してA評価とした。

目標 型紙のカット、糊置きを4行以上書ける。【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】

評価基準 (目標の達成度)	A	B	C
分量	4行以上書ける。	4行以上書ける。	3行以下しか書けない。
内容	カッターの使い方や糊置き体験を通して工夫したところや苦労したところを詳しく感想を書くことができた。	カッターの使い方や糊置き体験を通して感想を書くことができた。	カッターの使い方や糊置き体験を通して感想を書くことができていない。

【工芸レポート4 評価基準】

目標 素材や完成品について感想を4行以上書ける。【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】

評価基準 (目標の達成度)	A	B	C
分量	4行以上書ける。	4行以上書ける。	3行以下しか書けない。
内容	ハンカチの素材について布づくりについて感じたことや作品、染色全体を通して感想を書くことができた。	ハンカチ染色を完成した感想を書くことができた。	ハンカチ染色を完成した感想を書くことができていない。

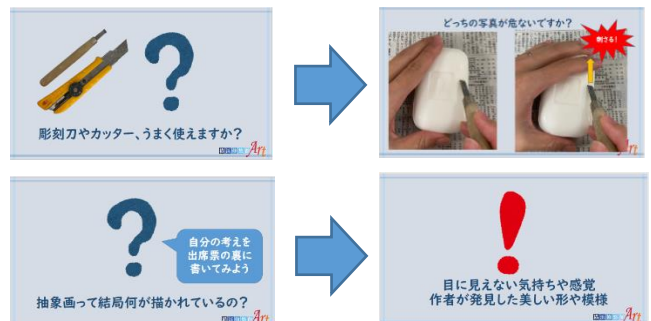
【工芸レポート5 評価基準】

＜**書道科**＞自身の作品の自己評価において、必ずアピール点と反省点のどちらも記入するよう評価基準に示している。自身の作品の良いところ、課題点を見つけることで「主体的・対話的で深い学び」の向上を目指した。

＜**音楽科**＞日本語、ドイツ語の歌唱や、リコーダー、箏等の器楽演奏による感想を中心に、今年度は新教育課程に則り、レポートによる評価基準を取り入れ、扱う曲目により作曲家や音楽史、演奏方法や演奏技術などを学習し、評価基準には、具体的に自身の考え、歌唱・演奏による体験や工夫した点を具体的に記述出来るような工夫をした。

#### ② ICT機器の活用

＜**美術科**＞昨年度より PowerPoint を用いて教材を作成・活用し「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けたスクーリング改善に取り組んでいる。今年度はスクーリング内で提示する課題の導入や説明スライドに問いを設定した。スライドで提示することで視覚的に問いが伝わりやすい。本校では、コミュニケーションに課題を抱えた生徒が多く在籍しているために、直接対話をおこなう活動が困難である。スライドに表示された問いに対して生徒が思考することで、自身と対話する、主体的に学ぶ姿勢を育てることを目指した。



【美術 PowerPoint】



【AV 機器、PC 等のツールを活用し、高音質の音楽が聞けるようになった】

＜音楽科＞特に鑑賞曲を従来のCDによるものから、DVDや YouTube 等を含めた音と映像のツールをより多く活用した。また、今年度はCD、DVD機器やICTを用いた音源を、音楽室設置の大きいスピーカーから流すことが出来るような配線にしたことにより、今までより、遥かに高音質の音を聞くことが出来るようになった。スクーリング開始前にも、その日のスクーリング内容に即した映像・音楽を視聴する工夫をしている。

③ 思考力・判断力・表現力の育成

＜書道科＞昨年度より、主に鑑賞の部分に評価基準を取り入れることで、「思考力・判断力・表現力」の育成を図っている。教科書に掲載されている作品の中から印象に残った作品を選び、印象に残った理由と、その作品から感じ取ったことを自分の言葉で記入していくという課題である。作品のよさや美しさに根拠を持って鑑賞することで、作品における見方・考え方を広げ、「思考力・判断力・表現力」の育成を目指した。

【5】教科書 P.122、123 の漢字仮名交じりの書を鑑賞し、印象に残ったものについて紹介しましょう。＜思・判・表＞

評価項目	A	B	C
	分量	・指示に従い、すべて書いている。	・指示に従い、すべて書いている。
内容 (目標の達成度)	・選んだ理由について、字形や構成などから具体的に書くことができている。 ・感じたことを自分の言葉で具体的に書くことができている。	・選んだ理由について、書くことができていない。 ・感じたことが書けている。	・選んだ理由と特徴について、どちらかのみ書けている。もしくは、両方書けていない。

【書道 I レポート 6 評価基準】

(2) 成果

① レポートの評価基準による取組み

＜工芸科＞「ハンカチの型染め」の制作にあたり、評価基準では、感想により評価の判断をした。制作工程、素材の学習はICT、教科書、プリントを用いて学習し進捗状況に対する自己評価では、レポートへの評価基準をたよりにして、感想を自分なりの言葉で深く表現しているレポートを多くみることができた。

型紙作り、糊づけ—感想—

① 型紙作りで、カッターをどんな角度で持て手まどりに  
② に置けばいいのかを教わったのでそれらのことを思い  
③ 出したがらゆるように注意しました。また糊づけのこど  
④ ど、糊をゆくりと強くゆるゆる元に戻りました。このような  
⑤ 日本の文化に触れて、興味深くてとても楽しかったです。

染色の完成 —感想—

① 普段は布の全体しか見ていないけれど、よく見ると細い糸が重なってできている。あたりのこと  
② が改めて驚きました。細い糸を織る布にするという行為を昔の人は自分たちでやっていた、このハンカチ  
③ ひとつにもたくさん時間がかかると感じました。染めの行程は、そんなに難しいとは思っていません  
④ でしたが、糊を洗い流す時に、職人さんはコップで一枚一枚丁寧に洗っているんだなと物づくり大  
⑤ 変さも感じました。今の時代、自分の生活に必要なものを自分自身でつくるのがあまりないから、こよこよ物づくりを  
教員記入欄 <講評> やってほしいなと思います。

【生徒の感想】

**ハンカチ型染**  
※お通目にはさんで提出

バーコードシール

素材の特色  
綿糸は、柔らかく丈夫です。染めの際には、生糸を織ってからの染め（型染め）で、糊・糊液の「厚み」が糸の表面、裏面に染み込み、染め込みます。糊の厚みは、染め込みの深さを決めます。糊の厚みは、糊の乾燥によって変わります。

糸について  
私たちの身の回りの糸は、天然繊維と化学繊維が大別されます。天然繊維は原料により、異なる種類の繊維、異なる厚さの糸が織られており、化学繊維は、石油や石炭などから化学的に合成、加工によってつくられたものです。

今回染めるハンカチは、(天然繊維・化学繊維)どちらかに○をつけて、触った感じがわかるかな？

( ) できています。

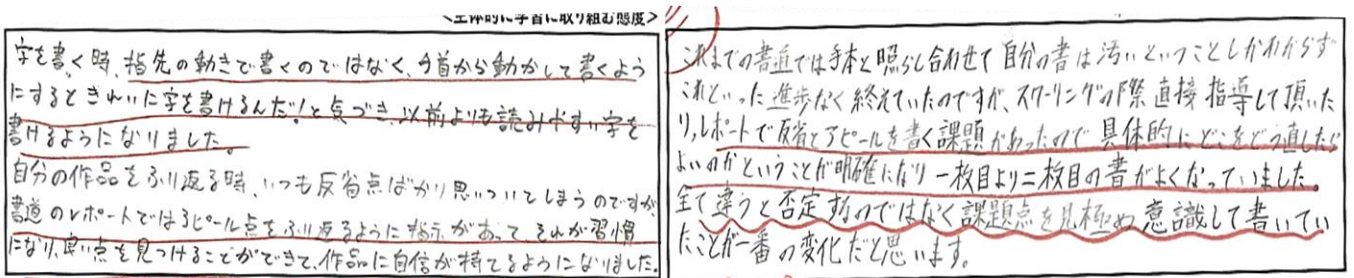
糊について  
糊液は、糊と糊液の二つの材料で構成されています。糊液は、糊と糊液の二つの材料で構成されています。糊液は、糊と糊液の二つの材料で構成されています。

【制作の注意】

- ・シリアスと言う、化学染料で染めています。ゆでながら染めるのでゆでに注意してください。
- ・染液が固まらないようにする。
- ・流水で糊を洗い落とします。糊の残ったところをよく確認してください。(糊が残れば色は落ちません)

【工芸補助プリント】

<書道科>自身の作品の自己評価において、必ずアピール点と反省点のどちらも記入するよう評価基準に示している。その結果、作品制作への意欲があがり「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、作品制作に対し意欲が向上した生徒が多くみられた。



【書道 I レポートのまとめ】

また、架け橋教室に通う生徒においては、添削を繰り返し評価基準の活用方法を理解することで、B評価からA評価に相当する内容を明確に書けるようになった。

①作品名	九成宮醜泉銘	②作者名	歐陽詢	
③選んだ理由、④執筆して気づいた作品の特徴				
私以前から欧陽詢さんの九成宮醜泉銘が好きで、以前も書いたことがあって、欧陽詢さんの楷書は文字が縦長で、胴体を引き締めた字形が、整然として際がありません。点画の揃し方や空間の取り方を精密に工夫しています。一画一画丁寧に書くことができます。				
評価項目	分量	A	B	C
		・指示に従い、すべて書けている。	・指示に従い、すべて書けている。	・指示に従って、書けていない。
評価基準 (目標の達成度)	内容	・選んだ理由について、書きのよさを踏まえながら、書くことができています。	・選んだ理由について、書くことができています。特徴について、教科書の言葉を用いて書くことができています。	・選んだ理由と特徴について、どちらかのみ書いている。もしくは、両方書けていない。

教科書の言葉を用いて上手に記述できている。  
次回からは実際に臨書してみたい感じ。  
これ(筆の使い方や字の形)について考えたい。  
それを書くことでB→Aにしたい!!

【書道レポート2の記述 B評価】

*教科書 P.80, P.81 「平仮名の筆体」について			
できるような	点画は「と」や「あ」のよう	内運	
動という動きを使う文字を書く時、回転前の乾折で、筆をしっかりと整えて突き	ばおを利かせて回転に入ること		
です。できなかった点は、「ぬ」の字を書く時、しっか			
り筆を立てて丁寧に書けなかったこと。			

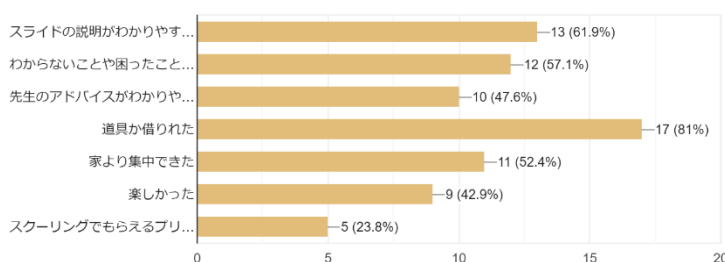
*教科書 P.86 蓬萊切「おほぞらに…」について			
できるような	点画は「そら」の二文字の連続をきか		
い書けなかったこと	です。できなかった点は、「け」や「ね」		
のような文字の起筆です。起筆を強く書くことができ			
なかった。あと太く線を引くとき、筆先で書くのが、太			
い原因で線が太くなりました。			

評価項目	分量	A	B	C
		・100文字以上書けている。	・100文字以上書けている。	・100文字以上書けていない。
評価基準 (目標の達成度)	内容	・反省点とアピール点の両方を書くことができています。	・反省点とアピール点の両方を書くことができています。	・反省点、アピール点のどちらかのみ書けている。もしくは、両方書けていない。
		・字形・筆遣いの特徴に関する文言が書かれている。		

【書道レポート5の記述 A評価】

② ICT機器の活用

<美術科>スクーリング終了後、生徒に「スクーリングに参加してよかった理由」についてアンケートをとったところ、「スライドがわかりやすかった」が2位で、61.9%の生徒がそのように感じていた(表1参照)。



【表1「スクーリングに参加してよかった理由」】

また、コミュニケーションに課題を抱えた生徒が対面での意見交換ができない状況において「対話的で深い学び」を促すため、スライドに設置した問いに生徒が挙手を

する、生徒の意見を教員が読み上げるなどの活動を行った。直接生徒同士の対話はなかったが、「スクーリング中に、自分のアイデアや考えを教員や他の誰かに伝えたり、誰かのアイデアや考えを聞いたりする機会がありましたか?」という質問に対し 52%の生徒が

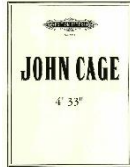


「あった」と答えた。

以上の点からスライドを用いたスクーリングが生徒のスクーリングへの出席を促し、また問いの設定が生徒の「対話的で深い学び」を促すことにつながったと考える。

<音楽科> DVDや YouTube 等を含めた音と映像のツールをより多く活用したことで、生徒の抱くイメージや演奏表現にも幅が広がり、レポート課題にも取り組みやすくなった。

近代・現代の曲	
曲名	4分33秒
作曲家	ジョン・ケージ
生没年	1912～1992年
演奏者	ジョエル・ホップヘルク



【映像で紹介】

【パワーポイントで示した楽譜と奏者の紹介】

琴を弾くことができたのが、とても良かったです。  
中学生の時に音楽の授業で琴を弾く時間はあったのですが、人数が多かった。  
琴の数も少なかつたので、本当に少ししか触れられませんでした。  
もともとピアノが大好きだったので、それくらいを一曲演奏することができると嬉しかったです。  
また、ハンドベルで演奏できたのも楽しかったです。  
なかなかハンドベルに触れる機会もなくて、今回の授業で初めて持りました。  
私はハンドベルのかわいらしい音が好きなので、とても楽しかったです。  
そして、ジョン・ケージ作曲の「4分33秒」の楽譜を見ることができたのが、すごく印象に残っています。小さい頃に、テレビで何かでこの曲を知り、この曲はとらわぬのか、  
この曲名はこういうことなのかと気になって、その時期があったくらいなので、まさか  
楽譜を直接見ることができると思ってもいなかったのです。本当に嬉しかったです。  
1年間、ありがとうございました。

【生徒の感想より】

短時間でしかが手ほどき、  
出来た後、予て機会をついて演奏に  
いきなり。

③ 思考力・判断力・表現力の育成

<書道科> 主に鑑賞の部分に評価基準を取り入れることで、作品を鑑賞し、書き手の意図に基づいた表現の工夫を理解しようとする力を身につけることができた(図1参照)。また、その力を自身の作品制作に反映することで、自分の意図に基づいた表現を目指し、イメージや工夫点を具体的に書く力も身に付けることができた(図2参照)と考える。作品における見方・考え方が広がり「思考力・判断力・表現力」の育成につながった生徒が多くみられた。

作者名	森田安次書 宮沢賢治・風の又三郎
選んだ理由と感じたこと ※あわせて100字以上書くこと。	
同じ言葉が繰り返されていくことの衝撃と、傾けて表現するということが印象的だった。墨の量が均一で、これによって文の中でも強調させたいところがはっきりと、情景が見えるように傾けて書いていくところ。書き手の思いがまことに書かれた、一定の構成に捕われていく表現が良。	

【図1 書き手の意図に基づいた表現の工夫の鑑賞】

3で選んだイメージを表現するために墨の量や構成などからどんな工夫をしますか。
(例) 明るさを表現するために、余白を広く取り、紙面の白さを目立たせる。 トとしての美しい在り方を表現する為に、筆先をしっかりと立て、さっぱりとしたまじり合いのあるものにする。墨は少く、特に間隙をそろえることに意識する。

【図2 自分の意図に基づいた表現を目指したイメージや工夫点】

作者名	青木 香流
選んだ理由と感じたこと ※あわせて100字以上書くこと。	
余白を大きくと、ている所と、字のあすれ具合が好きだ、たのびました。実際に、余白が大きいことと空のイメージが湧きやすく、つばめの軽やかに空へ入り込んでいる様子が浮かびました。また、つばめの字が太いことで存在感があるのもいいなと思いました。	

3で選んだイメージを表現するために墨の量や構成などからどんな工夫をしますか。
(例) 明るさを表現するために、余白を広く取り、紙面の白さを目立たせる。 水の流れを急激にして、運筆に緩急をつけながら最後の一文を印象づけるために最初の二文とはなして書く。

(3) 次年度に向けて

芸術科では、主に鑑賞に対して評価基準を用いて、生徒の思考・判断・表現、または言語能力を育んでいる。また、通信制としての「主体的・対話的で深い学び」に生徒がしっかりと取り組んでいけるよう科目ごとにICT、補助プリント等を工夫してきた。次年度はこれらの活動を継続・改良しつつ、評価基準を鑑賞のみならず、演奏や制作活動でも活用できないか検討していく。

鑑賞と演奏・制作活動を関連させるとともに、奏でる、作る、書くといった活動を通し、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育て生活と社会を創造していく態度を養っていききたい。また、課題設定、教材研究を積極的に行い、1人でも多くの生徒の達成感に繋げられるよう取り組んでいく。

## 外国語科

### (1) 今年度の取組み

昨年度、英語科ではICT機器の活用と通信制における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、BYODを使いインターネットサイトを通しての生徒参加型の授業を多く取り入れた。今年度は、ICT機器を利用し自宅での「主体的・対話的で深い学び」をより充実させるべくGoogle Classroomを通して追加課題に取り組ませることを試みた。

英語コミュニケーションIのスクーリングにおいて、題材についての動画を見せるなどすることにより興味・関心を惹きつけるように工夫をした。スクーリング後、下記のようにレポートごと(Lessonごと)に東京書籍データCDの題材背景資料をGoogle Classroomにアップロードした。LessonについてのGoogle Formsを用意し意見を集約することで、主体的・対話的で深い学びを実現しようとした。

[Google Classroom]

[題材背景資料]



東京書籍 データCDより

### (2) 成果

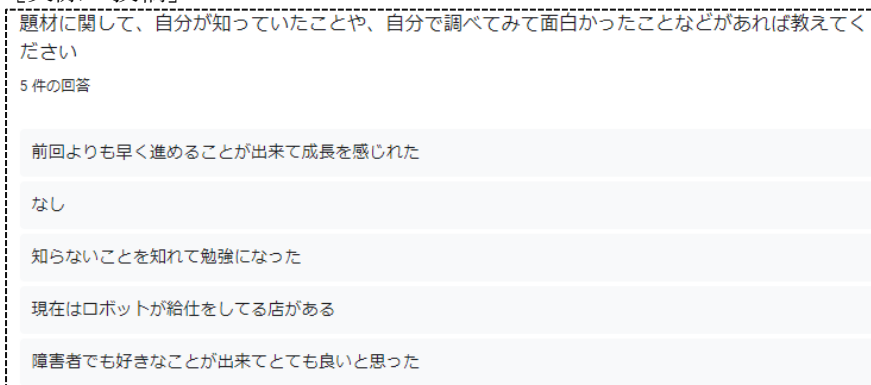
結論から述べると、今年度の取組みは不十分なまま終わってしまったと言える。理由としては以下のようなことが考えられる。

#### 1. 本校独自規格のマイページとの使い分けが不十分であった。

英語科ではレポートを進めることに困ったら、マイページに載せているITコンテンツを使うことを推奨していた。そのためGoogle Classroomを活用する習慣が根付かなかったと考えられる。

#### 2. 感想・調べたことを書くための手立てが少なかった。

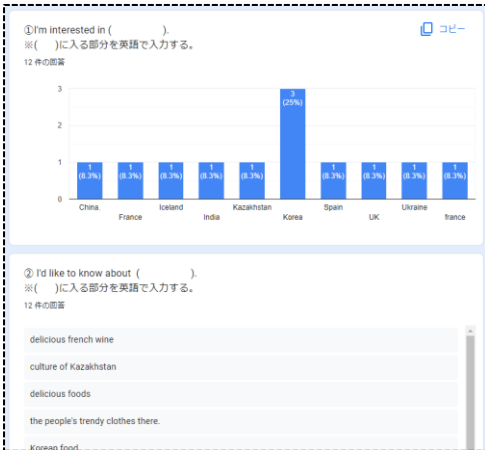
[実際の投稿]



短文が多く、深い学びが実現したとは言い難い結果になってしまった。「どんなことを」「どのように」書くのかをきちんと説明しきれなかったため、「何を書けばいいかわからなかった。」というような生徒もいた。

一方で、スクーリングに参加している生徒に対しての「主体的・対話的で深い学び」はより良いものができた。英語で自分自身の意見や考えを書くことができる、という自信と達成感を生徒が得られることを目指し、スクーリング中にICTを活用して英作文を集約し、スクリーンに映し出すことで生徒の意見を共有した。その結果、多くの生徒が好意的な反応を示し、より深い学びに繋がったと言えるだろう。

[意見の集約]



[反応]

レポートが1通終わる度にとっていたアンケートでは、「ライティングの問題が楽しくかけるので、やりがいを感じます。」「思い通りに英作文が書けるようになってきた。」という回答があった。また、他者と意見を共有することについて、レポート6回分のアンケートの回答者の平均21.3人のうち、「他の人の考えに興味を持った、他の人の考えを知ることができて楽しかった」等、好意的に回答した生徒は19.3人(90.6%)となった。間接的ではあっても、他者と意見を共有することを楽しみ、他者の意見に興味を持った生徒が多くいたことがわかった。

スクーリング中では、評価基準の確認やどのように英作文をするかの手立てを、生徒の特性に合わせて短文かつ明確に示した。また、机間指導をして解答を確認し、個別に声をかけたことで生徒たちは安心して意見を書き込んでいた。

[取り組む英作文の説明]

[10]教科書129ページのActivity Step4の例を参考にして、「あなたが海外の文化や社会を理解するためにできること」について英語で書きましょう。また、完成した各英文の意味も書きましょう。 [思・判・表]

※Tool Box を使っても構いません。  
 下の評価基準を参考に、  
 \*下線部①には、興味がある国を表す単語を入れてください。  
 \*下線部②には、知りたいことを表す英文を入れてください。  
 \*下線部③には、手段を表す英文を入れてください。  
 ただし、下の【例】と同じ語句を使わないこと。  
 \*さらに、完成した英文を声に出して読んでみましょう。

【例】  
 I'm interested in ①Vietnam. I'd like to know about ②the people's lifestyle there, so I want to ③search for information on websites.

[評価基準の確認]

評価基準 [目標の到達度]	A	B	C
	(ア)(イ)の条件を2つとも満たしている。	(ア)(イ)の条件をどちらか一つ満たしている。	(ア)(イ)の条件を一つも満たしていない。
(ア) 「あなたが海外の文化や社会を理解するためにできること」について、Tool Box 以外の単語を自分で調べて使うことで、自分の考えを表現している。			
(イ) 正しい英語表現(単語・語句・文法等)が使えており、意思疎通において支障ない英語で表現している。			

教科書、辞書、スマホなどを使って調べよう!

[英作文を書くための手立て①]

出発点! アイディアメモ

	ワールドカップを見た	ハリウッド映画を見た	外国のご飯を食べた
① 最近のできごと			
① 興味ある国	ドイツ	アメリカ	?
② 知りたいこと	ファッション	料理	?
③ 手段	ドラマや映画を見る	本や雑誌を読む	?

[英作文を書くための手立て②]

I'm interested in ① 興味ある国名 \_\_\_\_\_.

意味( )

I'd like to know about ② 【名詞】 から始める。 \_\_\_\_\_ there.

意味( )

So I want to ③ 【動詞】 から始める。 \_\_\_\_\_.

意味( )

(3) 次年度に向けて

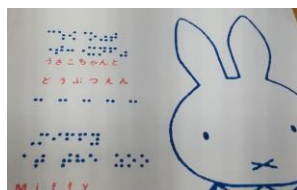
自宅での「主体的・対話的で深い学び」をより充実させることを目指す際にも、スクーリングでの成功例を活かしてきめ細やかな指導を心掛けるように次年度以降改善していきたい。

## 家庭科

### (1) 今年度の取組み

- ・手話など、本校生徒に有効と感じられる実習を精査していく。調理実習はコロナ感染防止のため3年間連続で中止となり代替問題で対応していたが、この機会に被服実習への転換を検討したい。
- ・昨年度の他校種教育視察で得た学びをスクーリングに入れ込んでいく。平塚盲学校、ろう学校で得たものが大きかったので、今年度は新たにレポートの内容として初の盲の分野の学習を入れた。点字打ち器を1人1台使用し、“点字を自分で打つ”という貴重な体験をさせるとともに、これをきっかけに視覚障害のある方への理解を深めさせたい。
- ・実習課題をスムーズに、積極的に取組めるような支援を考える。

### 《スクーリング準備における連携先》



○神奈川県ライトセンター〒241-8585

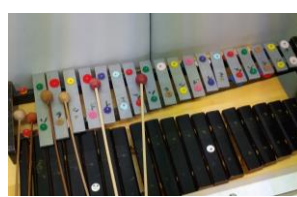
横浜市旭区二俣川1-80-2

電話045-364-0023(代表)

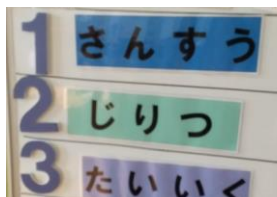
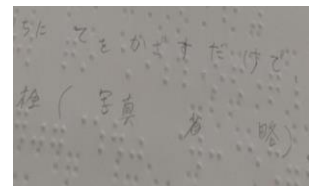
[mail@kanagawalc.org](mailto:mail@kanagawalc.org)

(c)lightcentre1999-2019

Last updated: 05/31/2022 16:03:12



【視覚障害のある方を支援する道具、点字図書館、こどもの遊具、運動器具、生活用品などを視察。】



○神奈川県立平塚盲学校

〒254-0047 平塚市追分10-1 電話番号：(0463)31-0948

【設備、教材、教科指導などを視察。「生活と福祉」の学びに取り入れていく。】

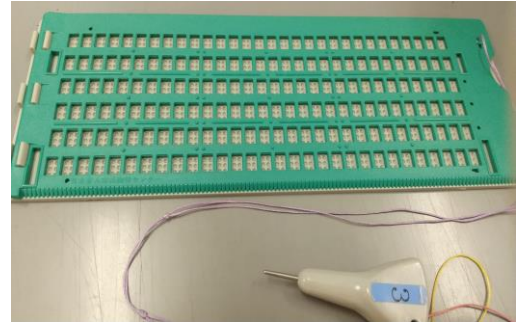
(2) 成果

- ・ケリーパッド作りはどのような生徒でも完成させることができ、覚えておくと今後に役立つので引き続き採用していく。



【ベッド上での洗髪介護を想像しながら作成中】

- ・点字学習は点字の反転を理解させるために“打つ時に使用する一覧”“読む時に使用する一覧”を両面で印刷。各自一覧を手元に置きながら点字を作成した。



↑名前を点字にした



- ・障害者のスポーツ(ブラインドピンポン)について。スクーリング時間内で体験まで実施できないので、卓球部が体験して作成した動画を活用。

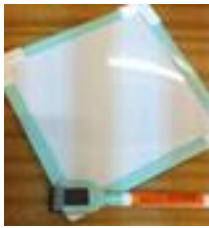
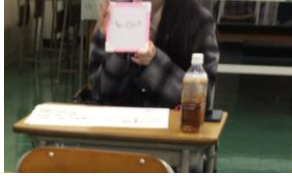


鈴入りの

ブラインドピンポン用の球→

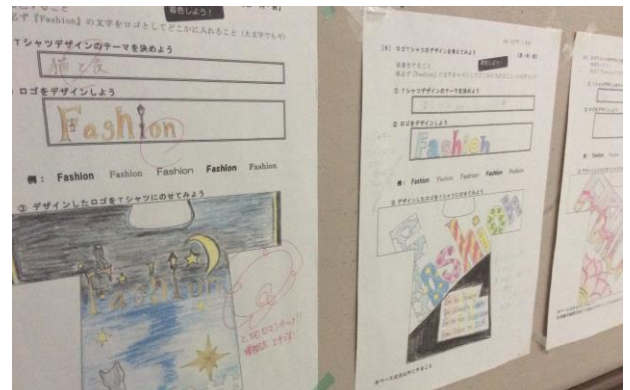


- ・今年度は一人1枚のミニホワイトボードも購入。スクーリングで発言することが苦手な生徒でも、《点字当てクイズ》だとホワイトボードに答えを書いて参加することができる。



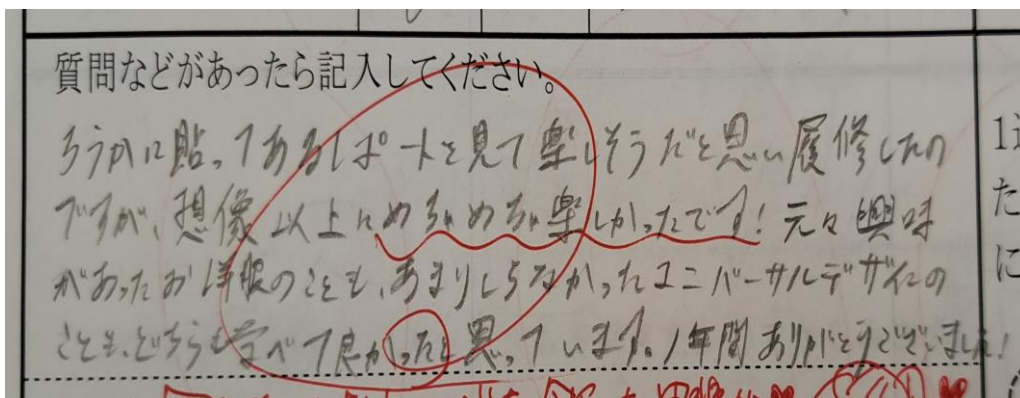
「たくさん書かなくちゃ」「正しいことを書かなくちゃ」と思わせ  
ない圧迫感のないミニサイズが適している。

- ・被服室前の掲示板に、優秀作品を掲示。次の課題の取組みのコツが分かりやすかったようで、参考にするために廊下で足を止める生徒が見受けられた。



生徒に許可を取り、添削済のコメント付きのものを掲示。どのようなポイントでどのような評価を受けるのか示した。まだ課題に取り組んでいない生徒達にとって、力を入れるべき部分が伝わった様子。

生徒のレポート取組みの様子

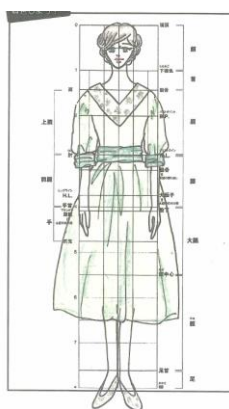


掲示板を見て、目的意識を持って履修した生徒。積極的に参加し毎回充実のレポートを創り上げた。



自宅で視覚障害の体験に  
取り組む生徒(生活と福祉)

スクーリングに出席できなかった生徒でも、掲示板をヒントに作品を仕上げる事ができた例。



(くらしとデザイン)



(3) 次年度に向けて

家庭基礎、家庭総合のスクーリングで被服実習を“ボタン付け”、“並縫い”の実習に統一することにする。今後の人生で実用的な技術であることと、調理実習よりも普遍的に実施可能であることから共通課題として採用したい。代替問題や取り組みのフォローなど、新しい課題を検討していく。調理実習は家庭実施となるが、思考を深められるようなレポートや代替問題を考えていく。

## 情報科

### (1) 今年度の取組み

昨年度までは、スクーリングで Microsoft の Word、Excel、PowerPoint を使用していたため、時間内に終わらなかった場合は、再度登校して続きを行う必要があった。今年度はそれぞれ、Google ドキュメント、Google スプレッドシート、Google スライドに切り替え、Google ドライブに保存することで、続きを自宅などで行うことができるようにした。

また、Google Forms を用いたレポート内容の確認問題を Google Classroom で配信し、レポート提出前の確認やテスト対策に活用できるようにした。

視聴報告についても、対象の動画へのリンクと視聴報告の様式を Classroom で配信しており、計画的・継続的な活用を可能としている。

また、Google Forms を用いたレポート内容の確認問題も設置し、レポート提出前の確認やテスト対策に用いられている。

The image shows two screenshots of a Google Form. The left screenshot shows a question titled '203' with a '送信' (Submit) button. The right screenshot shows the confirmation screen after submission, with a list of items checked or unchecked, and a red 'X' indicating an error for '学歴' (Education).

#### [確認問題①]

Google Forms を用いたチェックボックス式の問題

#### [確認問題②]

解答送信後の画面。正解であれば右に✓が入り、不正解であれば右に×が入る。

### (2) 成果と課題

Google ドライブの活用により、実習の続きを個人の端末や、貸し出し用 Chromebook などで行うことができるようになり、スクーリングの実習回に出席できずにレポートの進みが止まってしまう事例が少なくなった。それでも、実習課題に詰まる生徒もいるので、マイページ等で解説のコンテンツを増やす予定である。



(3) 次年度への取組み

情報科では、令和5年度より新教育課程の科目が導入され、必修科目「情報Ⅰ」を開講する。また、学校設定科目「くらしと情報」は、学校設定教科「くらし」の科目であるが、情報科の教員が担当する。

上記2科目については、令和5年度使用のレポートを、以下の点に注意して作成している。

① 記述形式の問題の増加

本校のレポートは、通常は1年(継続の場合は2年)使うことになる。情報に関する内容は日々変化しており、選択肢等を固定してしまうと、新しい内容に対応できなくなることがある。そのため、新しい話題についても対応できるように記述式の問題を多く配置している。

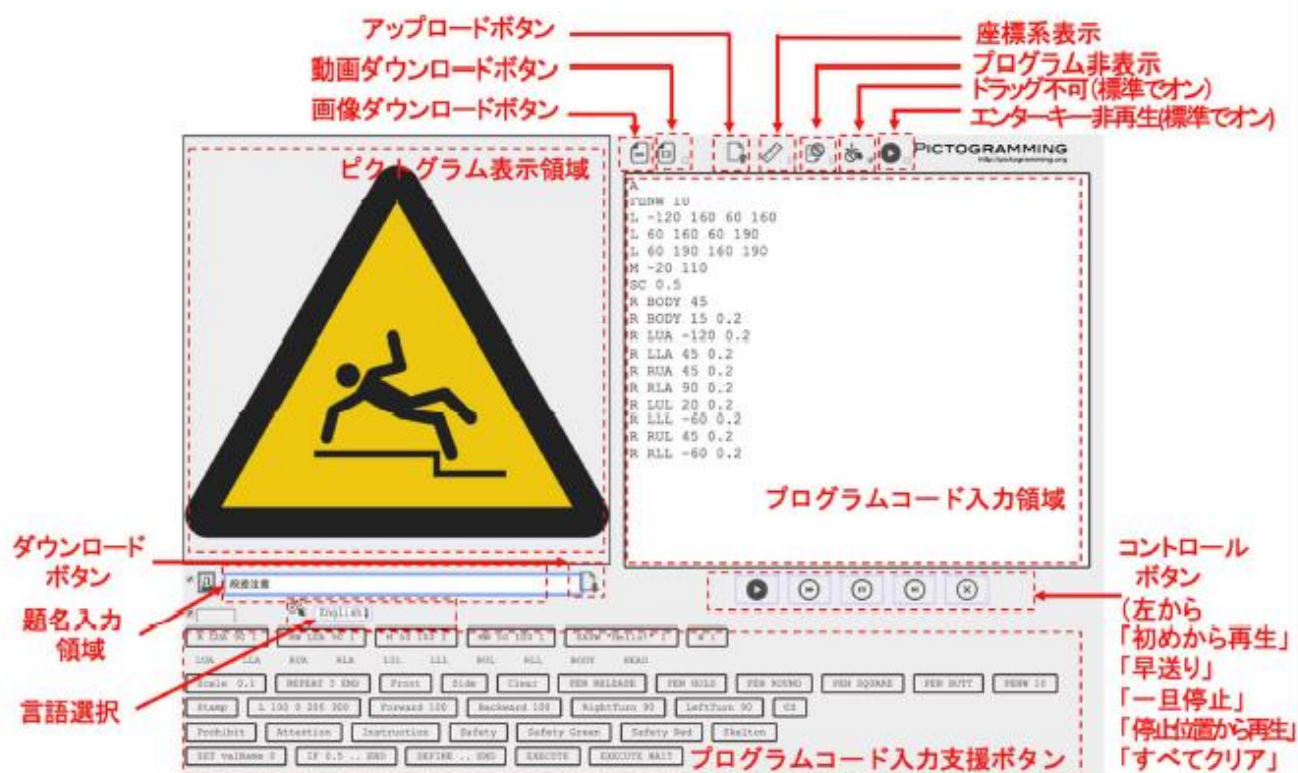
(1) 情報社会に必要な「情報モラル」について、意識していること、↓  
 大切だと思うことなどについて、キーワードを挙げたうえで記述してください。↓  
 キーワードの例：SNS、歩きスマホ、個人情報、プライバシー、コピー、など↓  
 (教科書図解編6～7ページ、【参考】実習編5ページ) ↓

キーワード↓	↓
意識していること、大切だと思うことなど↓	↓

記述式問題の増加に伴い、評価方法の明示をレポート1通目から行っている。令和4年度の生徒を観察する中で、丁寧にレポート記述させる習慣づけが必要と感じており、早い段階で誤字・脱字を減らす、丁寧な文章を書く習慣を心がけさせるよう評価基準と採点コメントを通して伝えていく。

評価	思考・判断・表現 【5】(2)	知識・技能 【5】(1)
A	ピクトグラムで表現している内容を文章で誤字・脱字なく表現できている、かつ、具体的な活用方法を紹介(説明)ができています。	「禁止」「注意」「指示」「安全」「反転」のいずれかのマークを使用し、かつメッセージ性が伝わる人型の形をしている。
B	作品の意図は伝わるが、次のいずれかに該当する <ul style="list-style-type: none"> <li>● 誤字・脱字が複数存在する</li> <li>● 具体的な活用方法の記述がない</li> <li>● 文章が感想文になっている。</li> </ul>	人型の形をしている。または、メッセージ性が伝わるが不要なパーツ(図形)が残っている。
C	次のいずれかに該当する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 作品の意図が伝わらない。</li> <li>● 多岐にわたる解釈ができる。</li> <li>● 50文字以下の説明文章である。</li> </ul>	人型の形になっていない。または作成が完了したと判断できない状態になっている。

[ピクトグラミング参考資料]



ドラッグ開始時のマウスの座標	マウス操作	操作
人型ピクトグラムの表示領域内	左クリック + ドラッグ	人型ピクトグラムの対応する部位を回転
(人型ピクトグラムの描画可能点付近を除く)	右クリック + ドラッグ	人型ピクトグラムの平行移動
人型ピクトグラムの表示領域外	左クリック + ドラッグ	線分の描画
	右クリック + ドラッグ	楕円の描画
指定なし	長押し	人型ピクトグラムの向いている方向の変更 (正面と側面)
人型ピクトグラムの描画可能点付近	クリックのみ	描画可能点におけるペンの持ち・放し

参考 URL : [https://pictogramming.org/?page\\_id=53](https://pictogramming.org/?page_id=53)



## ② PC操作に困難がある生徒への対応

身体の障がいによりPCを扱うことが難しい生徒や、基本的なPCスキルが身につけていない生徒など、本校には様々な事情を抱える生徒が在籍している。そのような生徒に対応するため、実習問題に対しても、PCを使わない代替方法（手書きなど）による対応が可能な問題を作成している。

深める
【5】情報の表現と伝達【実習】
【思考判断表現】
【知識技能】


(1) 【実習】次のサイトでピクトグラムを作ります。完成後、画像ファイルとして保存しGoogleスライド(※)に貼り付けたうえでA4用紙片面1枚に印刷してレポート本ページに添付すること。

(教科書図解編 34 ページ)

【ピクトグラミング】 <https://pictogramming.org/editor/>

【実際のソースコード例】  
タイトル: 段差注意  
注意


【5】(1)【代替版】  
次の例を参考にピクトグラムを手作業で作ってください。



例1: 無線ありません。



例2: 歩きスマホ禁止



例3: 忘れ物注意

担当承認印 or サイン

[実習課題の例]

PCを用いた実習課題(上)とPCを使用せず手書きによる代替の実習課題(下)。

代替の課題を使用する際には、事前に申請する。

## ③ さまざまなアプリケーションの体験

令和4年度までの「社会と情報」「情報の科学」では、文書作成・表計算・プレゼンテーションに関するアプリケーションの使用にとどまった。新教育課程で小・中学校を過ごした生徒は、前述のアプリケーションを経験していることが予想され、令和5年度からの「情報I」と「くらしと情報」では、それ以外のアプリケーションも扱う課題を用意している。



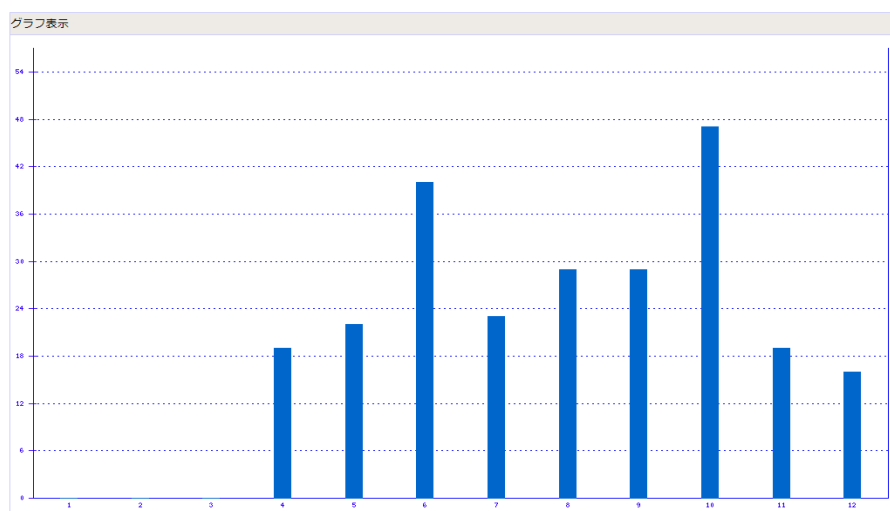
## 横浜修悠館高校 電子図書館

### (1) 電子図書館の利用状況(今年度の成果)

令和4年1月4日(火)電子図書館が開設された。学校ホームページや通信紙などに案内を出し、希望者が登録している。

令和5年1月時点で、コンテンツ数(図書館でいう蔵書数)は300点、電子図書館への利用登録者は205名(うち職員71名)である。令和4年4月～12月までの貸出回数は244点、閲覧(試し読み)数は585点であった。ログイン数はのべ628回(うち職員280回)であった。

#### 【貸出数】



月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
貸出回数	0	0	0	19	22	40	23	29	29	47	19	16	244

←前期スクーリング→

←後期スクーリング→

### (2) 課題

生徒全体への利用登録を呼び掛けるものの、登録が一括ではないため、興味を持った個人のみにとどまっている状態である。前期は5月、後期は9月にスクーリングが始まるため、その直後の利用が多い。電子図書館開設の情報は学校ホームページに掲載していたが、1～3月はスクーリングがない期間なので、多くの生徒がその存在を知るのには新年度以降になってしまった。

また、[登録→ログイン→(閲覧→)貸出]の手順を踏まなければならないので、登録しても電子図書館の入口に入らない生徒も一定数いる。ログインしても、読みたいコンテンツがなければ貸出には至らない。

まずは登録を促し、その後も利用に繋がるような仕掛けの必要を痛切に感じている。

### (3) 次年度に向けて

電子図書館の情報を広く届けるために、履修登録日など生徒がまとまって登校するタイミングの利用での広報活動を検討する。また、一括登録も視野に入れながら、登録後にログインし、活用できるような手立てを考えたい。図書委員会と連携しながらイベントを企画したり、コンテンツの種類を豊富にしたりしていくことで、生徒の利用を高められるよう努めていく。

## 2班 横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及

### 1 全体概要

横浜修悠館高校がこれまで15年かけて構築してきた個別最適な学びを実現するための、外部の教育的人材を活用した協働的な学びの仕組み「学びのコミュニティ」について、事業2年目である本年度は、昨年度の研究から得られた改善普及のための課題に対して、解決に向けた取組みを実践するとともに、より具体的な課題とできるよう、更なる検証を行った。

「学びのコミュニティ」プログラム

【トライ教室】小中学校の学びなおし 補習教室

【架け橋教室】外国につながるのある生徒の学習相談・生活支援

【キャリア・ポート（自校通級・他校通級）】高校通級指導

【キャリア活動C】進路体験活動

「トライ教室」では、昨年度の研究で得られた課題から、生徒に対して活動日時や活動場所等の周知を充実させるとともに、本年度は、実際に生徒の学習支援を行っているボランティアのスタッフ（YSKサポーター）の方々にもアンケートを行い、昨年度とは視点を変えて、効果的な運営方法等の検討を行った。

「架け橋教室」では、昨年度の研究では「利用に至ったきっかけ」や「利用してみて成果があったか」等を生徒へのアンケートで調査したが、本年度は「学校生活で困っていること」や「架け橋教室への要望」等、より具体的な活動内容の検討が行えるようなアンケートを行った。また、実際に生徒の学習支援を行っている多文化教育コーディネーターにもアンケートを行い、より効果的な運営方法等の検討を行った。

「キャリア・ポート」では、昨年度の研究で得られた課題から、受講を考えている生徒・保護者の見学や体験の機会を設けるとともに、生徒・保護者のニーズに応じた新たな活動内容の検討や、新たな見学・体験先の開拓を行った。

「キャリア活動C」では、昨年度の研究で得られた課題から、生徒の変容がより具体的に読み取れるワークシートを導入し、その成果を検証した。

## 2 各研究の成果と課題

### トライ教室

#### (1) プログラムの概要

トライ教室とは、動画コンテンツやスクーリングだけでは思うように学習を進めることが難しい生徒を対象としたレポートの完成、または中学校までの学習の学びなおしのための本校独自の支援体制である。トライ教室はスクーリングがある月、水、木の週3回、5・6限の2時間開講されている。学習支援には本校職員に加え、YSK（横浜修悠館）サポーターと呼ばれる教員経験者を中心とするボランティアが携わっている。



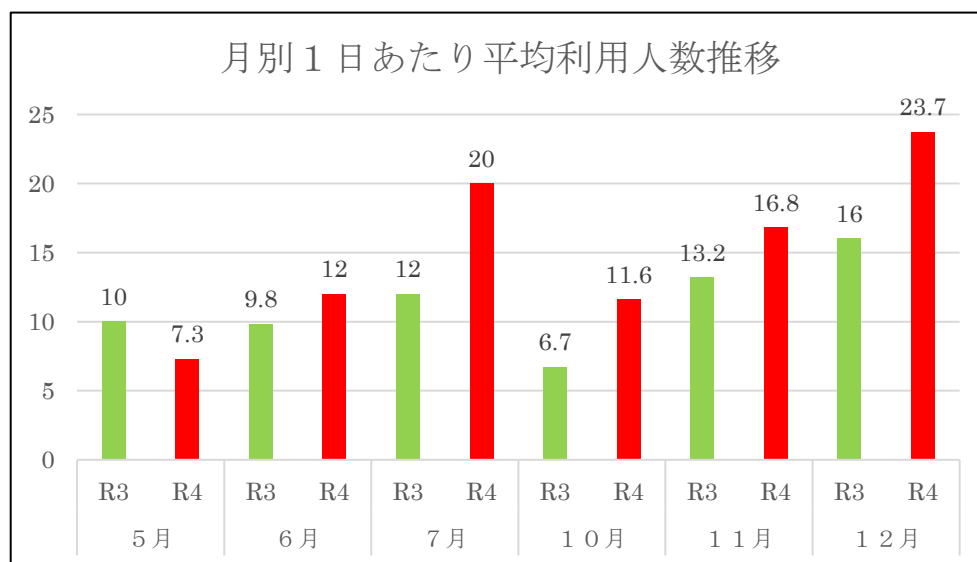
【マンツーマンでレポート完成をサポート】



【落ち着いて取組めるよう環境整備】

#### (2) 今年度の取組み

今年度の実施日は前期が5月から7月の24日、後期が9月から12月の21日で合計45日開講した。参加生徒は合計158名、延べ689人で月別の平均利用人数は以下の図の通りである。



今年度の取組みとして、各クラスのホームルームや本校通信紙での周知を増やした効果もあり、平均利用者が5月を除き毎月増加している。

また、YSKサポーターも本年度は多くの方に参加していただき、合わせて14名の方にご協力頂いた。生徒の利用回数が増えた中で生徒対応が滞りなくできたのはYSKサポーターの協力があったからこそである。

### (3) 成果

12月上旬に、YSKサポーターの方々に「本校のトライ教室利用生徒に対して求められるニーズ」「トライ教室を継続して利用している生徒に見られる変化」「成果や良かった点、課題と感じた点や要望・感想」「その他」についてアンケート調査を行った。14名中9名の方から回答を頂くことができた。

#### ○本校のトライ教室利用生徒に対して求められるニーズについて

##### ○本校のトライ教室利用生徒に対して求められるニーズ

トライ教室に参加する生徒は、レポート完成を目指している点で共通しています。しかし一方で個々の生徒の学習に対する取組方や態度、状況は大きく異なっています。

自分が困っていることや思っていることをうまく言葉で表現できない生徒、基本的な知識・技能が備わっていない生徒、学習面以外で、困難さを抱えている生徒などの様子が教室に関わる中で見受けられました。トライ教室は、一期一会であり継続した学習支援は難しく、その上さらに短い時間で個々の生徒の学習状況を見極め、その子に適した支援を行うことが求められていると感じています。

事例はいくつかありますが例えば、問題文をしっかりと読んで教科書を見ながら回答できる生徒には、時折進捗状況を確認しながら本人の力を認めつつ躓いた時に解決するためのヒントを提示するようにしました。この場合1問に費やす時間がやや長くても耐えることができます。一方、レポート作成に慣れていない生徒は問題に対して苦手意識が強いためか、サポートしながらも1問解くのに時間がかかると（説明が長いなど）理解や意欲等が落ちてしまうようです。このような場合、1問に時間をかけるよりも要点を伝え問題が解けていくという感覚を持てるように心がけています。いずれの生徒の場合も、次回またトライ教室へ来ようと思う気持ちにさせることが必要と考えます。

- ・「次回またトライ教室へ来ようと思う気持ちにさせる」こと

トライ教室利用生徒に対して求められるニーズは、課題に対して共に粘り強く聞いてあげることと他愛のない話しをしながら沃山コミュニケーションを取ることだと思いました。

- ・共に取組み、コミュニケーションを取ること

★ニーズ 一人ひとりの学力に柔軟に対応できる支援です。私は週に一度の参加のため、継続して同じ生徒を支援することが難しく、毎回異なる生徒と時間を過ごしました。また、生徒の中には今日中に取り組んでいるレポートを提出したい、という希望がある方もいました。そのため、限られた時間内で、学力をアセスメントし、効果的かつ自主的に学習することを支援する、という挑戦的な課題を前向きに取り組む姿勢が支援者に求めらると思っております。

- ・一人ひとり状況が違う生徒に対して柔軟に対応していくこと

・修徳館高校のトライ教室が利用生徒によって求められているものは「挑戦への後押し」だと考えています。「後押し」というのは「助か」と言い換えてもよく、様々の事情を抱えながら通信制の高校を強いで学ぼうとする意欲、また、出席カウントにも下らないトライ教室に来ようとする心持ち自体が、ひとつの大きな「挑戦」だと思つたので、その心持ちを まず汲みと、さらにその生徒が どこで何を求めているのかを 読みとると、 そしてできるだけその求めに応じることが「後押し」だと あと思ひます。

・「生徒たちの挑戦」の手助け・後押し

○トライ教室を継続して利用している生徒に見られる変化について

○トライ教室を継続して利用している生徒に見られた変化  
次のことに気づきました。

- ・自分の考えていることを素直に話してくる。嫌なことは嫌という。
- ・次回完成させたいレポートをトライ終了時に告げるようになった。
- ・わからない言葉や文章の意味をよく聞いてくる。
- ・レポートで問われていることに関連した話題を取り上げ会話をする。

・トライ教室の回数を重ねることで、YSKサポーターとコミュニケーションを取れるようになった

★ 変化 担当した生徒が異なつたためわかりません。一回の支援の中で感じた変化としては、わかる ようになると 楽しい(数学) という声聞くことができました。密に誰かと学習に向かう、という経験が そのような気持ちになることが 本望です。

・わかるようになることが楽しい

・ 前期と後期で来る学生がかなり入れかわつていた。  
来なくなった生徒の動向が気になつたりする。

・前期利用していた生徒が後期は見かけなくなった



○成果や良かった点、課題と感じた点や要望・感想

★良かった点 先生方、サポートの皆さんの雰囲気も明るく、トライ教室の雰囲気も明るく、温かな感じがありました。

★課題(?) 生徒のニーズとサポーターが提供できる能力とのマッチングが割合率的にできていると思います。例えば、サポーターが対応可/不可の教科を示すで、ケンもわかるかとはいえ、「何にも対応」が基本とも思うので、(うなぎのよう)できる限り多様な能力をもつサポーターがいるとよいのでは (Zoomが使えるならば、遠隔でも支援できるね...)



- ・生徒の要望 (主に教科) と対応できるサポーターとのマッチング

学び直したい、  
ゆめからみ箇所を聞きたい、

教科別に机・椅子が近いと  
教えやすいかと思います。

個別学習に対応できるので、明るくゆとりとしたその教室で生徒の行きたい場にするべく寄り添って携わりたく思います。

※ レポートの解答が揃っていると助かるのですが...  
ご検討の程、よろしくお願ひ致します。

- ・教科ごとに席を配置する
- ・レポートの解答の用意は必須

しかし、やはりレポートは専門の先生に指導していただいた方が  
良いので、同時にレポート完成講座が開かれている5校時の  
時間帯にはなるべく生徒はそちらに行ってもらうように指示  
すべきと思ひました。レポートの教室がほとんど生徒のいない状態  
のためにトライ教室で他教科の先生にレポートを教わっている  
生徒がいるのはおかしいことであると感ひしました。

- ・同時に行われているレポート完成講座の利用

1. 日曜トライ教室を行うことを提案します。

日曜コースの生徒はトライを受けたくてもむずかしいので

日曜日にも1ヶ月1回位トライ教室を設けたらどうか。

前期3回、後期3回。

2. トライ教室出席率の高い生徒に単位を与えたらどうか。

出席率90%以上3単位, 80%以上2単位, 70%以上1単位。

- ・トライ教室の日曜開室
- ・トライ教室の単位化

・学校案内パンフレットのトライ教室の説明には「学習が遅れからの人のための場」とあり、「遅れから」の定義は難しく、例えは、大学受験のための学習と目的とする生徒や、高校のカリキュラムの応用の勉強をしたい生徒などの程度、受け入れ対応するかは課題だと思っております。成果としては、私自身も生徒とともに「たこさんのことを学ぶことができた点です。感謝いたします。

- ・「学びなおし」「レポート完成」「大学受験のため」目的別トライ教室利用生徒をどこまで受け入れるか

・従前のアンケートに書きまじりか、トライ教室の充実はあじ意味。研修館のキラーコンテンツのヒットだと思っております。様々な事業<sup>1</sup>により、活動だと思っております。次年度以降も予算がつかうか、かきお事業計画申請に下す。よろしく願いました(笑)

- ・トライ教室の持続的な開室

YSKサポーターのアンケートからは、相当の思い入れをもって取組んで頂いている事を伺うことができる。また、トライ教室でのみ本校生徒と接しているにも拘らず、それぞれの生徒の特徴を把握し対応していることがよくわかる。

また、本年度神奈川県教員採用試験を受験する方にもYSKサポーターとして参加していただき、支援教育の現場体験を積んでいただいたことは、サポーターにとっても生徒にとっても、意義ある経験となった。

#### (4) 次年度に向けて

トライ教室の持続可能な運営方法を構築していく必要がある。今年度は全生徒に発送する通信紙（「横浜修悠館通信」）にトライ教室の案内を入れる予定であったが、前期段階で想定以上の生徒の利用があり、運営グループ内の要望から通信紙での文言だけに留まった。来年度、さらに利用生徒数が増えた場合にどのように対応していくかが課題である。今年度は、利用生徒が使用教室の制限人数を超えた際には別室を開いて対応した。数学など要望の多い教科については次年度も同様の対応を行うか、教員・サポーターの確保も含めて考えていく必要がある。

また、今年度は多くのYSKサポーターに支えて頂いたので継続的に支援していただけるよう働きかけていき、増加する利用生徒に対応していきたい。

そして、アンケートにもあった前期にトライ教室を利用していたが後期に利用しなくなった生徒に対して、単位修得ができていないのであれば担任を通して理由を探り、単位修得へ向けて対応策を探っていく。



【サポーター1人で複数人教えることも】



【レポート締切前は机がいっぱい】



【トライ教室の看板】



【一人で黙々と頑張る生徒も】

## 架け橋教室

### (1) プログラムの概要

架け橋教室とは、外国につながりを持つ生徒の学習支援、および居場所づくりを目的とした支援体制である。外国につながりを持つ生徒は、学習言語としての日本語が十分に身につけていないため、学習が滞ることが多い。また、将来への展望が描けない、友人関係をうまく築けないなどの不安から、いつの間にか学校から足が遠のくことも少なくない。架け橋教室では、そうした生徒に対し、教員や学習支援員の個別指導を通じて組織的に学習支援を行っている。学習支援員は主に教員経験者で、この教室の副次的な効果として生徒同士の関わり合いが深まり、おだやかな人間関係を築く学びのコミュニティとなっている。

### (2) 今年度の取組み

架け橋教室では火・水・木の 11:00～14:00 に校内の一教室を使って学習支援を行っている(スクーリングのない期間も不定期で継続的に開室)。令和4年度、本校に在籍する外国につながる生徒は約 120 人で、そのうち利用実績のあった生徒数は 30 名、利用率は約 25%である(ただし、架け橋教室の利用は必ずしも外国につながる生徒に限っているものではないので、厳密な割合ではない)。令和4年度の各月の総利用件数は以下の表の通りである。架け橋教室では主に、「日本語」の学習、教員や多文化教育コーディネーターを含む複数の学習支援員による学習補助、学校生活全般の相談等を行っている。



【活動の様子】

### (3) 成果

今年度の利用件数の推移は以下の通りである。今年度、架け橋教室に利用実績のあった生徒に対して、「困っていること」「架け橋教室を利用してよかったこと」を、架け橋教室への要望としてアンケート調査(記述式)した。なお、回答を得られたのは利用実績のあった 30 名のうち、10 名であった。(昨年度の報告書には、利用に至ったきっかけと、利用してみて成果があったかについてアンケートしたので、それについては昨年度の報告書を参照。また、利用実績のあった生徒の単位修得率の分布についても、記載してある。)

≪令和4年度利用件数推移(網掛けの月はスクーリングのある月)≫

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
R 4	利用件数	0	35	50	43	5	16	60	56	69	14	9
	実施日数	0	10	14	11	4	7	12	12	10	4	5
R 3 (参考)	利用件数	6	74	87	75	5	15	29	43	37	4	4
	実施日数	1	8	14	14	1	4	8	12	10	3	2

《架け橋教室利用生徒アンケートの回答（特になし以外の回答を掲載）》

質問① 学校生活で困っていること

1から4までスクリーニングはしていないからレポート書くのは楽な気がした。  
↑  
「答の(は)かたがた」の意味とのこと。

←来日してからの年数が浅い生徒。(約3年)

最初はレポートの出し方、視聴報告などが分からな所があった。  
自己管理が苦手だったので、レポートの期限や期に合わなかったり、出席回数も足りなかったりした。レポートの住所を毎回書くのが大変だった。  
家が遠くて、来るのが大変だった。

はじめはわからないことばかりだった。先にこの学校に入学していた人にやり方を教えてもらったり、先生にきいたりした。  
文字を読んだり書いたりすることが苦手だから、正直たいへんだった。

←書字が困難なため聞き取りで代筆。

いや、もうめちゃくちゃですこの学校に来て本当に良かったです!

勉強

1.勉強が難しくあまりついていけなかったです。

質問② 架け橋教室を利用してよかったこと

レポートを早く終わらせるようにした。  
友達の事も2人か3人づりました。  
ここで静かにレポート書けるようになった。  
先生たちからいろいろと、ことを教えてもらったんです。

←来日してからの年数が浅い生徒。(約3年)

レポートが集中して集中して進められた。(2時までには、終わらせたい気持ちで)  
友達ができる。  
部屋が暖かい。他の人がさわやかに  
先生に聞ける。人も優しい。

いろいろな生徒がいるとわかった。  
他のスクリーニングと違って、先生に質問しやすい。

←書字が困難なため聞き取りで代筆。

・わからないことがあったら、すぐに先生に聞けること。  
・集中してレポートを完成することができる。

集中してレポートができる。(静かだから)

自分は卒業(たぶん)レビンの大学行くのでこのシステムがめっちゃかたいです。

レポートがやりやすい

外国の友達がたくさんできた。

勉強をわけてもらったりので学校に行くのがたのしくなりました。

質問③ 架け橋について、利用して困った点、または「こうして欲しい」ということ

今後の架け橋教室について、どのようなことがあったら嬉しいですか。  
生徒がもと会いたい。僕と話せる人がほしい。

←来日してからの年数が浅い生徒。(約3年)

場所が広いので、有効に使う。黒板ももって使えばいいと思う。抱っこいぬいがあるのも先生を増やそう。聞きたい科目の先生を気軽にお願いしたい。

高校に対して思ったことですが、こういういろいろな生徒(自分みたいなも含めて)が入学して勉強できる場所があること。もっとPRしてほしい。

←書字が困難なため聞き取りで代筆。

空いている時間で、問題集をみんなでやること。スクリーンがない日、T.E.など(運)

キョウダがよい。

回数を増やして英会話をわけてほしい。

先生が増えたら嬉しい。

10時～やってほしい。

今後にも利用したいと思っています。

《利用件数の推移およびアンケート結果から読み取れること》

利用件数の推移を見ると、昨年度は前期の利用が多く、後期にかけてやや減少している。それに対し、今年度は、後期になるにつれてゆるやかに増加している。今年度は、8組(外国につながるのがある生徒が多く在籍するクラス)で、教室に架け橋教室の掲示を行い(右図)、SHRでの紹介を継続的に行った。また、学習が進んでいない生徒に対する声掛けを、担任及び多文化教育コーディネーターを通じて積極的に行った。後期に向かって増加した理由について、「前期に利用した生徒の多くが架け橋教室に定着して継続的に来ていた」「後期から学習を再開した生徒の利用が少しあった」「徐々に生徒から生徒への紹介がみられたこと」などが関係していると感じる。アンケート結果を見ると、利用者の多くが継続的に来るようになったのは、開室時間が決まっていることで集中して学習ができる点、すぐに質問ができる点、そして友達ができる点があるようである。個別最適化された学習の場としての役割と、人間関係を構築するコミュニティの中での協働的な学びの場としての役割が一体化して継続的な学習の定着につながったと言える。実際に英語を得意とする生徒が、苦手な生徒に教えている場面も見られた。また、これまでは生徒が生徒を連れてきたことで騒がしくなったりトラブルにつながったりということが危惧されていたが、実際には後期以降に利用し始めた生徒も集中して学習に取り組み、アンケート結果からも静かな空間が保たれていると生徒が感じているのは、大きな収穫であった。

か はしきょうしつ  
**架け橋教室**

★対象★  
 ○おもに外国につながるをもつ生徒を対象とした学習支援の場です。  
 ○レポート学習を進めるのに不安がある人  
 ○コミュニケーションの場が欲しい人

火・水・木 11:00~14:00 社会学習室で開室しています。  
 (場所は時期により変更することあり。)

利用希望の方は、深田まで!

アンケート結果から、利用して良かったこととして、落ち着いた環境でレポートに取り組めたことと、友人（外国の友人を含む）ができたことを挙げている生徒が多くいた。実際に、多文化教育コーディネーターやサポーターに教えてもらうだけでなく、お互いに解き方や考え方、分からない日本語などについて学び合ったり、会話の入りとしてお互いのつながる国について紹介し合ってみたりしている様子が見られたことから、学びのコミュニティとして架け橋教室が機能しているといえる。

一方、要望として挙げてきたことは、開室日数、開室時間、サポーターを増やしてほしいという意見や、参加する生徒をもっと増やしてほしい、ということなどであった。開室日数については、昨年度まで平日すべての曜日で開室していたが、職員や利用生徒数の変化を鑑みて、令和4年度からは1日減らした経緯があった。しかし、今年度の利用状況とアンケート結果を踏まえると、開室日数やそこを担当するサポーターの確保について、再度検討をする必要があると感じた。

#### 《多文化教育コーディネーターが感じた成果と課題》

本校には来日1年未満の、日本語初期指導を必要とする生徒はほとんどいないが、レポートや教科書、スクーリングでの説明を理解するのに必要な日本語力が身につけていない生徒が在籍している。

成果としては、毎回来て学習を続けた生徒が複数いたことが挙げられる。そうした生徒の共通点は、入学（編入）以前に支援者や外部での相談を通じて本校のシステムが説明されていたこと、また、卒業を強く意識していたことがある。こうした学習意欲がある生徒に居場所が確保されているメリットは大きい。また、管理職や校内巡回の職員が架け橋教室に立ち寄り、通りがかりに教室を覗いて手を振ってくれる職員の存在が、生徒にとっては大きな励みになった。

課題としては、まず、個別の対応が欠かせないため、長く待たせてしまい、対応しきれなかったことがある。また、外国につながるのある生徒を8組に集中させ、架け橋教室と連携して支援をしているが、このことは、架け橋教室のサポーターや、日本語およびキャリアJ（外国につながるのある生徒のためのキャリア支援を目的とした講座）の担当者が生徒を把握しやすい一方、担任の負担が大きい。また、レポートの補完以外に、個々の生徒に必要な日本語力の不足を補うため、自己紹介や、週末または学校生活での出来事などを対話形式で話すような、体系的な日本語の学習機会があってもよい。ただし、このような取り組みは、集団で過ごす空間を避ける生徒が出てくることにもつながるので、課題も多くある。

#### （4）次年度に向けて

次年度に向けた具体的な検討事項として、まず、開室日数、開室時間、サポーターの確保について担当職員の間で見直していくことが挙げられる。また、昨年度の課題として挙げた、生徒の継続的な利用につなげていくために、利用者数が増えても、ある程度静かに安心して学習できる環境を維持していくための丁寧な指導も重要となる（今年度の利用者が増えた時期に、騒がしくなるのをよく思わない生徒が少し見受けられた）。また、外国につながる生徒は長期休みに母国に帰る生徒も多く、そこで日本語学習が途切れないようにするための仕組みを考えている。具体的には、架け橋教室のGoogle Classroomを立ち上げ、その中で帰国中の生徒と日本語担当職員をオンライン通話でつなぎ会話する機会を設ける。これにより、長期休み中に学校が遠のかないようにできればよいと考えている（すでにオンライン環境については整備済み）。

生徒の様子や参加数、アンケート結果から、おもに外国につながる生徒が学習する上で架け橋教室のような仕組みがあることでコミュニティが成立し、それが学習習慣の定着につながっていくことがはっきりと読み取れた。次年度は、成果や実際の生徒の声を広報や研究発表等を活用してもっと広めていきたい。

## キャリア・ポート

### (1) プログラムの概要

キャリア・ポートは、横浜修悠館高校における通級による指導の講座の名称である。この名称は、生徒にとってこの講座が、自立した生活を送るための準備をし、将来に向けて旅立つ場所になって欲しいという本校教員の願いから決められた。

講座の内容は、通級による指導の目的である、生徒個々の実態に応じ学習や生活上の困難を克服することを目指した活動を行っているが、本校では特に、以下の3点を重視している。

- ・生徒が安心できる環境を整え、安心して過ごせる居場所となること。
- ・小集団でのチーム・ティーチングを行い、コミュニケーション力を養うこと。
- ・将来の自立と社会参加を目標に、「働くこと」をテーマにした活動を行うこと。

これらの活動を、月曜日の1校時と木曜日の4校時は自校の生徒のみで活動しており（自校通級）、日曜日は隔週で4・5校時に自校の生徒（自校通級）と他校の生徒（他校通級）が合同で活動している。各時間において、生徒個々の実態に応じて4～7人の小集団に分けて活動を行い、各小集団に2～5名の教員が指導を行っている。

毎年4月には通級担当教員のスタートアップ研修が開催される。今年度の講座の内容としては、校内外での職業インタビューやインターンシップなどを取り入れることで社会につながる意識を養い、農作業などの身体活動を通して他者とかがわる活動を取り入れることで個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指していることを共通理解した。



【4月 キャリア・ポート教員担当研修会】



【7月 職業インタビュー】



【9月 インターンシップ】



【10月 農作業】



対象生徒：月曜1限出席により生活リズムを整え、計画的に学校生活を送ることを目標とする生徒

(2) 今年度の取組み

通級による指導（キャリア・ポート）月曜1限

回	日付	単元	内容	ポイント	
★	4月	個人面談	通級指導を始めるにあたって	生徒の興味関心、体験希望の有無等	
1	5/9 (月)	キャリア・ポートとは?	顔合わせ、オリエンテーション 講座のテーマ、進め方、予定確認	居場所作り、見通し、生徒の様子観察	健・人・心
2	5/16 (月)	私と仕事	身の回りの仕事	見たこと、気づいたこと、考えたことの 発言、働く意義	心・人・コ
3	5/23 (月)	いろいろな仕事	職業インタビュー事前学習	仕事の特徴、場の状況、ロールプレイ	心・人・コ
★	5/23 (月)	作業体験	サツマイモ苗植え	役割の理解と協力、作業手順、安全な作 業	人・コ・身
★	5/30 (月)	校外学習	職業インタビュー (横浜市泉消防署)	あいさつ、聞く、話す、メモ (相手の立場、場の状況に応じた行動)	心・人・コ
4	6/6 (月)	いろいろな仕事	職業インタビュー事後学習	見たこと、気づいたこと、考えたことの 発言、機器の操作、パワーポイント	人・コ・身
5	6/13 (月)	いろいろな仕事 「働く」	仕事について考える 職場体験事前学習①	◎得意〇できそう△苦手×無理な仕事、 従業員心得(ビデオ)視聴	心・人・コ
★	6/13 (月)	作業体験	ジャガイモ収穫	役割の理解と協力、作業手順、安全な作 業	人・コ・身
6	6/20 (月)	「働く」	職場のルールとマナー 職場体験事前学習②	スーパーマーケットでの勤務、心構え 交通機関の利用、当日の確認	コ・人・環
★	6/27 (月)	職場体験	スーパーマーケットで販売業務 (品出し・接客等)	指示理解、正確な作業、状況理解、 身だしなみ、接客用語、報連相	心・人・身
7	7/4 (月)	職場体験事後学習	職場体験事後学習①	振り返り、パワーポイント作成	人・コ・身
8	7/11 (月)	「働く」	職場体験事後学習② スケジュール管理	職業観、自己理解、優先順位、折り合 い、見通し	健・人・コ
9	7/25 (月)	前期のまとめ 夏の計画	振り返り スケジュール管理	発言、達成感、自己理解	心・人・コ
★	8/8 (月)	特別セミナー	金融トラブル コミュニケーション講座	お金の安全、自立訓練、外部講師	心・人・コ
★	8/22 (月)	社会体験	埋蔵文化財センター (まが玉作り)	公共施設、交通機関の利用、余暇・生涯 学習	心・コ・身
10	9/26 (月)	夏の振り返り	体験(インターンシップ等)発表	発言、聞き方、後期の見通しと生活リズム	健・人・コ
11	10/3 (月)	文化祭に参加しよう①	昨年の発表視聴 ビデオ撮影	発表内容を考える、話し方、伝え方	心・人・コ
12	10/17 (月)	コミュニケーション	今日の一言 電話連絡	テーマに沿って話す、人の考えを聞く 遅刻しそうな時の連絡	心・人・コ
13	10/24 (月)	文化祭に参加しよう②	文化祭ビデオ視聴	振り返り、自己理解、他者理解	心・人・コ
14	10/31 (月)	「働く」	DVD(遅刻をしたときは…) 職場のルールとマナー	謝る、報連相、職場の人間関係	心・人・コ
15	11/7 (月)	コミュニケーション 安全	ヒヤリハット、KYT、 職場の安全	場の状況、気づき、発言	人・コ・環
16	11/21 (月)	コミュニケーション 安全	ヒヤリハット、KYT、 潜在的な危険	意見交換、安全意識	心・人・コ
★	11/19 (土)	校外体験学習	就労移行支援事業所 (見学とビジネス講座)	就労移行支援プログラム体験 軽作業(仕分け、PC入力等)、公共交 通利用	心・人・身
17	11/28 (月)	私とキャリア・ポート	校外体験事後学習 体験を伝える	各自の感想 パワーポイント資料作成	人・コ・身
18	12/5 (月)	発表しよう	年間振り返り、発表会準備	できたこと、わかったこと、自己理解 グループ内で発表	心・人・コ
★	12/18 (日)	発表会(合同)	パワーポイントでプレゼンテ ーション	場面にふさわしい表現方法、達成感、自 己肯定感、仲間の発表	人・心・コ
☆	8/2~	職場実習	県機関(事務補助業務 3日間)	個別体験と巡回指導 (見学、事前面接、事前事後指導)	生徒A
☆	9/12~	福祉事業所体験	就労移行支援事業所(3日間)	個別体験と巡回指導 (見学、事前面接、事前事後指導)	生徒B

- ★体験活動等(校内・外)
- ★特別講座(校内)

健：健康の保持      心：心理的な安定      人：人間関係の形成      環：環境の把握  
身：身体の動き      コ：コミュニケーション

対象生徒：終了後開始するトライ教室と連携し、  
学習習慣の定着を目標とする生徒

通級による指導（キャリア・ポート）木曜 4限

回	日付	単元	内容	ポイント	
★	4月	個人面談	通級指導を始めるにあたって	生徒の興味関心、体験希望の有無等	
1	5/12 (木)	オリエンテーション	講座のテーマ、進め方、予定確認	居場所作り、見通し、スケジュール管理	健・人・心
2	5/19 (木)	オンライン・ミーティング練習	ZOOM会議の練習（教室で）	機器の操作（PC、スマートフォン）、体験	人・コ・心
★	5/19 (木)	校内体験	さつまいも植え体験	作業手順理解、道具の使用、安全について	健・身・コ
3	5/26 (木)	さまざまな作業	ファイル・名札作成 自己紹介シート オンラインミーティング準備	作業手順理解、道具の使用、生徒の様子確認	環・身・コ
★	5/2 (木)	オンライン・ミーティング	自己紹介、クイズ	機器の操作、伝えたいこと、話し方、聞き方	心・コ・身
4	6/9 (木)	じゃがいも王に俺はなる！2022	さまざまな角度からじゃがいもについて学習、芋ほり体操	興味関心、聞き方、発言	健・身・コ
★	6/9 (木)	校内作業体験	じゃがいも収穫体験	作業手順理解、道具の使用、安全について	健・身・コ
5	6/16 (木)	職業インタビュー事前学習①	インタビューのやり方（ロールプレイング） 事業所について調べる	調べる、聞き方、発言	環・コ・人
6	6/23 (木)	職業インタビュー事前学習②	チームに分かれて打ち合わせ（質問内容、担当決め）	聞き方、発言	環・コ・人
★	6/30 (木)	職業インタビュー	近隣の事業所を巡る	話し方、聞き方	環・コ・身
7	7/7 (木)	職業インタビュー振り返り	チームごとにスライド作成（パワーポイント）	聞き方、発言	環・心・人
8	7/14 (木)	仕事について考える	苦手なこと、やりたい仕事	自己理解	心・環・コ
9	7/21 (木)	校外作業体験に向けて	しおり作成（やること、気を付けること）	作業手順理解、機器の操作（PC、スマートフォン）	心・コ・人
★	7/3 (水)	校外作業体験	就労移行支援事業所体験	施設の理解、コミュニケーション 機器の操作（PC）、作業手順理解	環・人・コ
★	8/8 (月)	金融セミナー／コミュニケーション講座（合同）	金融トラブルについて コミュニケーションについて	聞き方、質問、自己理解	環・人・コ
★	8/22 (月)	校外体験学習	まが玉作り体験	作業手順理解、道具の使用	環・コ・身
10	9/29 (木)	夏の振り返り	夏の思い出発表	後期の見通しと生活リズム、発言、聞き方	健・人・心
11	10/6 (木)	文化祭用動画撮影	「わたしの好きな・得意な・紹介したい○○」について撮影	機器の操作、伝えたいこと	人・コ・身
12	10/13 (木)	基本的な生活習慣について①	職業準備性ピラミッド スライドを使って考えたことを入力	機器の操作、聞き方	人・コ・身
13	10/27 (木)	基本的な生活習慣について②	睡眠・入浴・手洗い・歯磨き・服装、芋ほり体操	自己理解、聞き方	心・身・コ
★	10/27 (木)	校内作業体験	さつまいも収穫体験	作業手順理解、道具の使用、安全について	健・身・コ
★	11/10 (木)	校内作業体験	落花生収穫体験	作業手順理解、道具の使用、安全について	健・身・コ
14	11/10 (木)	コミュニケーション	落花生試食、筋肉体操 「はあっていうゲーム」	発言、聞き方、コミュニケーション	コ・人・身
15	11/17 (木)	話し方のコツ	「はあっていうゲーム」 話し方、聞き方のコツ、筋肉体操	発言、聞き方、コミュニケーション	コ・人・身
★	11/19 (土)	校外作業体験	就労移行支援事業所体験	施設の理解、コミュニケーション 作業手順理解、機器の操作	環・人・コ
16	12/1 (木)	イベント振り返り 1年間の振り返り	校外作業体験の振り返り ファイル整理、筋肉体操	発言、聞き方、コミュニケーション	心・コ・身
17	12/8 (木)	発表会準備	スライド作り、筋肉体操	発言、聞き方、機器の操作（PC）	人・コ・身
18	12/15 (木)	発表会準備 1年間のまとめ	スライド作り、発表練習、筋肉体操	伝えるための話し方、他者との相互的やりとり、機器の操作（PC）	人・コ・身
★	12/18 (日)	発表会（合同）	プレゼンテーション	場面にふさわしい表現方法、達成感、自己肯定感	環・心・コ
☆	8/2～	事業所体験	神奈川県教育委員会（3日間）	個別体験と巡回指導 （見学、事前面接、事前事後指導）	生徒C
☆	8/19～	事業所体験	金沢文庫（3日間）	個別体験と巡回指導 （見学、事前面接、事前事後指導）	生徒D

★体験活動等（校内・外）

★特別講座（校内）

健：健康の保持

心：心理的な安定

人：人間関係の形成

環：環境の把握

身：身体の動き

コ：コミュニケーション

対象生徒：卒業予定年次ではないコミュニケーション力の育成に重きを置く生徒（他校生含む）

通級による指導（キャリア・ポート）隔週日曜4・5限 グループ1

回	日付	単元	内容	ポイント	
★	4月	個人面談	通級指導を始めるにあたって	生徒の興味関心、体験希望の有無等	
1	5/8 ④	キャリア・ポートとは？	顔合わせ、オリエンテーション講座のテーマ、進め方、予定確認	居場所作り、見通し、生徒の様子観察	人・心・環
2	5/8 ⑤	コミュニケーション	オンライン・ミーティング	機器の操作、指示理解、生徒の様子観察	健・人・身
3	5/22 ④	キャリアって何だろう	キャリア・ポートで学ぶこと	身につけたいこと、経験したいこと、努力したいこと、自立活動	心・人・コ
4	5/22 ⑤	コミュニケーション	自己紹介	自分について、伝える、話し方 仲間のこと、聞く	心・人・コ
5	6/5 ④	コミュニケーション	言語的・非言語的コミュニケーション	声、表情、相手の立場、場の状況	心・人・コ
6	6/5 ⑤	作業体験（校内）	ジャガイモ収穫	役割の理解と協力、作業手順、安全な作業	心・人・コ
7	6/19 ④	コミュニケーション	ビジネスマナー（挨拶、お辞儀）	他者との関わり方、良好な関係、ロールプレイ	心・人・コ
8	6/19 ⑤	作業体験（校内）	PC入力（タイピング練習）	指示理解、分からない時の質問、対処	人・身・コ
9	7/3 ④	職場のルールとマナー	あいさつ、返事、身だしなみ等	DVD視聴、場に応じた対応、意見交換	心・人・コ
10	7/3 ⑤	職場のルールとマナー	インターネットで身だしなみ調べ	インターネットで調べる、パワーポイント資料作り、スライドで発表	健・人・コ
11	7/17 ④	前期まとめ	振り返り、夏の計画	伝える、聞く、考える、相手・場の状況	健・人・コ
12	7/17 ⑤	企業見学事前学習	企業研究、会社訪問	日程確認、交通経路、身だしなみ、諸注意	心・人・コ
★	8/8 (月)	特別セミナー	金融トラブル コミュニケーション講座	お金の安全、自立訓練、外部講師	健・心・人
★	8/22 (月)	社会体験	埋蔵文化財センター (まが玉作り)	公共施設、交通機関の利用、余暇・生涯学習	心・コ・身
★	8/24 (水)	企業見学	特例子会社見学と職業講話	実際の職場の様子、企業が求めること	健・人・コ
13	9/25 ④	夏の振り返り	夏の出来事を発表する	少人数グループで発言、聞き方 生活リズム、後期の見通し	健・人・心
14	9/25 ⑤	職場見学事後学習	体験の感想、発表	気づいたこと、感想、働くために	人・心・コ
15	10/9 ④	文化祭発表準備	自己表現	自分の思いをわかりやすく伝える 相手の気持ちを考える、PCの操作	心・人・コ
16	10/9 ⑤	コミュニケーション	クッション言葉	職場での会話、その場に適した行動・発言 困った時の対処	人・環・コ
17	10/30 ④	コミュニケーション	文化祭ビデオ視聴 上手に頼む	さまざまな考え方、感じ方	心・人・コ
★	10/30 ⑤	作業体験（校内）	サツマイモ収穫	作業手順理解、道具の使用、安全、協力	心・人・身
19	11/13 ④	校外学習事前学習 余暇	モルック	就労移行支援とは？、当日の確認 ルールや手順の理解、質問の仕方	心・人・身
20	11/13 ⑤	余暇	モルック	集団参加、チームワーク、仲間と楽しむ	健・人・コ
★	11/19 (土)	施設見学と体験	ビジネス講座と事務作業体験	就労移行支援プログラム体験、軽作業（仕分け、PC入力等）、公共交通利用	心・人・身
21	11/27 ④	コミュニケーション	上手に断る	適切な行動、意思の伝達、場の状況理解 言葉遣い、表情	心・人・コ
22	11/27 ⑤	安全について	職場の安全ヒヤリハット、KYT	場の状況、気づき、発言、意見交換、安全意識	健・人・環
23	12/11 ④	1年間の振り返り	年間振り返り、発表（講座内小集団）	できたこと、わかったこと、自己理解 グループ内で発表	心・人・コ
24	12/11 ⑤	発表会の準備	発表会準備、パワーポイント	発表の仕方、気づいたこと、伝えたいこと、 スライド資料作成	心・人・身
★	12/18 (日)	発表会（合同）	パワーポイントでプレゼンテーション	場面にふさわしい表現方法、達成感、自己肯定感	人・心・コ
☆	8/2～	事業所体験	神奈川県教育委員会（3日間）	個別体験と巡回指導 （見学、事前面接、事前事後指導）	生徒E

★体験活動等（校内・外）

★特別講座（校内）

健：健康の保持

心：心理的な安定

人：人間関係の形成

環：環境の把握

身：身体の動き

コ：コミュニケーション

対象生徒：コミュニケーション力の育成に重きを置く  
生徒（卒業予定者含む）

通級による指導（キャリア・ポート）隔週日曜4・5限 グループ2

回	日付	単元	内容	ポイント	
★	4月	個人面談	通級指導を始めるにあたって	生徒の興味関心、体験希望の有無等	
1	5/8 ④	キャリア・ポートとは？①	顔合わせ、オリエンテーション 講座のテーマ、進め方、予定確認	居場所作り、見通し、生徒の様子観察	健・人・心
2	5/8 ⑤	オンライン・ミーティング	オンラインにつないでみる	居場所作り、見通し、生徒の様子観察 オンライン会議のマナー	健・人・心
3	5/22 ④	キャリア・ポートとは？②	講座のテーマ、進め方、自己理解	見通し、自己理解、身につけたいこと、経験 したいこと、努力したいこと	心・人・コ
4	5/22 ⑤	名刺交換	自分のことを書いてみよう 自己紹介をする、他者の紹介を聞く	自己表現、適切な伝え方	健・心・コ
5	6/5 ④	おすすめの「じゃがし」	複数のお菓子を比較しまとめる 比較したものを発表する	情報収集、分析、適切な伝え方	心・人・コ
6	6/5 ⑤	校内体験	じゃがいも収穫体験	作業手順理解、道具の使用、安全について	健・身・コ
7	6/19 ④	コグトレ「聞く力」	ソーシャルスキルトレーニング	健康管理、日常生活管理、対人スキル	健・心・人
8	6/19 ⑤	電話予約をしてみよう	電話予約のロールプレイング （歯医者、旅行会社）	適切な伝え方、情報の記録（メモの取り方）	心・環・コ
9	7/3 ④	コグトレ「聞く力」	ソーシャルスキルトレーニング	健康管理、日常生活管理、対人スキル	健・心・人
10	7/3 ⑤	職業インタビュー準備	インタビューに向けての準備 アポイント取り	適切な伝え方、情報の記録（メモの取り方）	人・環・コ
11	7/17 ④	コグトレ「聞く力」	ソーシャルスキルトレーニング	健康管理、日常生活管理、対人スキル	健・心・人
12	7/17 ⑤	前期のまとめ	前期の活動で印象に残っていること を発表する	自己肯定感、適切な伝え方	心・人・コ
★	8/8 （月）	特別セミナー	金融トラブル コミュニケーション講座	お金の安全、自立訓練、外部講師	健・心・人
★	8/22 （月）	社会体験	埋蔵文化財センター （まが玉作り）	公共施設、交通機関の利用、余暇・生涯学習	心・コ・身
13	9/25 ④	夏の体験の振り返り①	夏の体験でわかったことやできたこと を発表する	自己肯定感、適切な伝え方	心・人・コ
14	9/25 ⑤	クイズいいセン行きま SHOW	ゲームを通じて自己表現する	自己理解、適切な伝え方	心・人・コ
15	10/9 ④	文化祭に参加しよう①	キャリアポートの目標や達成状況を 振り返り、まとめる	自己表現、適切な伝え方	心・人・コ
16	10/9 ⑤	文化祭に参加しよう②	キャリアポートの目標や達成状況を 発表し、動画作成用に音声を録音する	場面にふさわしい表現方法、達成感、自己肯定感	心・人・コ
17	10/30 ④	アンガーマネジメント ゲーム	ゲームを通じて自己理解をする	自己理解、適切な伝え方	心・人・コ
18	10/30 ⑤	作業体験（校内）	サツマイモ収穫	作業手順理解、道具の使用、安全、協力	心・人・身
19	11/13 ④	モルック①	モルック競技のルールを確認する	ルール・手順の理解、意思の伝達、身体活動	身・人・コ
20	11/13 ⑤	モルック②	キャリア・ポートN①と合同でモ ルックを行う	小集団の話し合い、意思の伝達、身体活動	身・人・コ
★	11/19 （土）	施設見学と体験	ビジネス講座と事務作業体験	就労移行支援プログラム体験、軽作業（仕分け、PC入力等）、公共交通利用	心・人・身
21	11/27 ④	1年間の振り返り	1年間の活動の成果を振り返り発表 する	自己肯定感、自己表現	健・心・人
22	11/27 ⑤	発表会に向けて①	発表会のスライドを作成する	小集団の話し合い、意思の伝達	人・環・コ
23	12/11 ④	発表会に向けて②	発表会のスライドを作成する	小集団の話し合い、意思の伝達	人・環・コ
24	12/11 ⑤	発表会に向けて③	発表会のリハーサル	適切な伝え方、自己表現	人・環・コ
★	12/18 （日）	発表会（合同）	パワーポイントでプレゼンテーション	場面にふさわしい表現方法、達成感、自己肯定感	人・心・コ
☆	8/2～	事業所体験	神奈川県教育委員会（3日間）	個別体験と巡回指導 （見学、事前面接、事前事後指導）	生徒F、G

★体験活動等（校内・外）

★特別講座（校内）

健：健康の保持

心：心理的な安定

人：人間関係の形成

環：環境の把握

身：身体の動き

コ：コミュニケーション

(3) 活動の様子

講座風景



【各講座の始めに必ず記入するワークシート】

毎時間自分自身の状態の確認や振り返りの時間を確保している。

このワークシートをもとに自分のことを他者へ伝え、相手の話を聞く経験を積み重ねている。

**キャリア・ポート て**

月 日 ( 木 ) 天気 ( ) :  
( ) 組 氏名 [ ] :

**授業の前に**

1 この1週間を、どう過ごしましたか? -  
 ①余暇: 趣味やスポーツなどを楽しみました。 -  
 ②外出: 買い物や行楽などで、どこかへ出かけました。 -  
 ③仕事: アルバイトや、家の手伝いをしました。 -  
 ④学習: レポートや、ほかの勉強をしました。 -  
 ⑤その他 ( ) をしました。 -

2 あなたにとって 最近の話題は 何ですか? -  
 { }  
 { }

昨夜 寝た時刻 ( 時 分 ) ころ / 今朝 起きた時刻 ( 時 分 )  
 [ 体調: ◎ - ○ - △ - × 気分: ◎ - ○ - △ - × ] :

**振り返り**

今日の学び

体調を整えて、登校できた。 :	○ - △ - ×
遅れずに出席できた。 :	○ - △ - ×
あいさつ・返事・発表・質問ができた。 :	○ - △ - ×
集中して取り組むことができた。 :	○ - △ - ×
《反省・感想》 : - -	



【校内職業インタビュー】

人とのコミュニケーションを苦手とする生徒も多いため、アポイントメントの取り方や、インタビューの入り方などを事前に練習することで、自信をもってインタビューに臨むことができた。

キャリアポートN②  
令和4年 7月 3日 (日)

**職業インタビューをしよう**

これから体験するインターンシップでは、体験先の方の話を聞き取ること、自分の状況を伝えること、困ったら助けを求めることが大切になります。  
 「聞くこと」「伝えること」「助けを求めること」の練習として、自分自身でアポイントを取ってインタビューをしてみましょう。

インタビューしたい人  
 第1候補 ( ) 第2候補 ( )  
 第3候補 ( )

今後の流れ  
 活動1. インタビューのアポイントを取ろう  
 活動2. インタビューの内容を考えよう  
 活動3. いざ、インタビューへ!

**活動1. インタビューのアポイントを取ろう**

・失礼します、( ) 組の ( ) です。  
 ( ) 先生はいらっしゃいますか。  
 ~先生が来てくれたら~  
 ・( ) 組の ( ) です。  
 本日はお願いがあって来ました。  
 7月17日(日)の4,5時間目のキャリアポートにて、職業のインタビューを行うことになりました。私は ( ) 先生の仕事についてインタビューさせていただきたいのですが、可能でしょうか。

OK → ありがとうございます。  
 では、7月17日(日)の ( ) 時間目をお願いします。  
 どこで待ち合わせすればよいでしょうか。

NG → わかりました。お時間を取っていただきありがとうございました。

☆何が困ったことが出てきたら、一度ポートの教室に戻ってきましょう。  
 何に困っているのか伝え、解決のためのヒントをもらおう。



【挨拶・マナー学習 社会へ出ることへの意識付け】



【サツマイモ収穫 他者と協力する体験】

## 就労移行支援事業所見学・体験



【周りとは協力して行う作業】



【個人で行う作業】



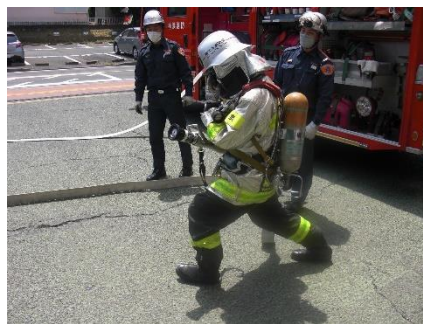
【PCを使ったデータ入力の作業】

新しい体験をすることで、自分にはどのような作業がっているのかを考えていきます。

## インターンシップ



【イトーヨーカドー】



【消防署】



【ビーンアシスト：ブックオフ】

実際の職場での体験だからこそ、良い緊張感があり、終了したときの達成感や自分自身の成長を感じることができました。

インターンシップや就労移行支援事業所への見学・体験前には、

仕事上のマナー 場所の確認 行き方や待ち合わせの時間の確認 体験先の内容を知る

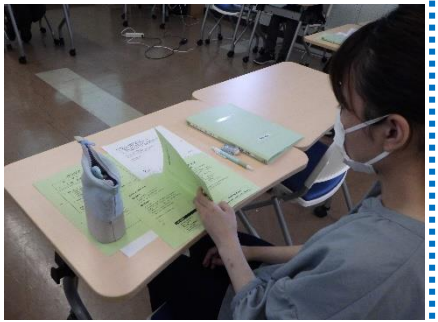
など、講座内で事前学習を行っている。



【働くことについて動画で学習】



【体験前の作戦会議】



【日時・集合場所の確認】



### 体験した仕事について

- ペットボトルの品出しや冷凍食品の品出し・追加でお菓子やグミ・飴などを指定された所へ持っていき入れる。



教員がスライドのベースを作成しておき、生徒自身が体験した内容や感じたことを入力していく。ベースがあることで生徒も入力しやすくなり、余裕ができてイラストやアニメーションを追加している生徒も見受けられた。

ペットの置き方について聞いているところです。



とても分かりやすい説明でした。


### 話を聞いて、体験してわかったこと

- 話を聞いて、少し大変そう？と思いましたが、体験して意外と楽しかったです。
- 商品一つ一つ足していくのも丁寧に置いて商品に傷やペットボトルだとしたら、泡が立たないように丁寧かつ迅速に置いていく事が大事なんだなと思いました。
- お客様への挨拶の仕方・対応能力の高さも少しの間でしたが分かりました。

吹き出しの中に、自分の言葉で入力していく。

### 職業体験 感想

・始めは緊張して作業は遅めだったけどお昼を食べ終わって後半から緊張が段々ほぐれてきて慣れてきたのか心なしか少し早くなってきた気がして意外に楽しんで体験が出来ました。



### どんな仕事が自分にあっていると思いますか。

- 品出しをする仕事に興味を持っています。
- 品出しの仕事をすることによってコミュニケーション能力、空間把握能力等が培われるのかな、と私は思っています。

事前学習→体験→まとめ→発表を通して、「体験前と体験後の気持ちの変化」や「できるようになったこと」、「自分に合っている仕事は何か」などをしっかりと考えることができるようになった。また、経験した内容を発表することで、人へ伝えること・話すことの経験を積むことで自信につなげていく。

(3) 成果（定性的評価について生徒の発表や感想からその変容を見取る）

令和4年度の取組みのまとめとして、12月18日（日）に全講座合同でキャリア・ポート発表会を実施した。人と話すことを苦手と思っていた生徒が、意欲的にコミュニケーションをとろうとしていることや、外部機関での見学・体験から、自立と社会参加へ向けた意識が醸成されていることがうかがえる内容であった。以下、発表会での生徒の発表内容を抜粋して紹介する。

【キャリア・ポート実践発表会での生徒の発表内容（抜粋）】

- ・印象に残っていることは、「頼み方、断り方」。自分から頼むのが苦手なタイミングを学べた。断るのは頼まれてしまうとなかなか断れないので、断るスキルを学ぶことができました。（受講2年目）
- ・印象に残っていることは、インターンシップで警察本部に行ったことです。鑑識体験をして犯人分析するまで大変だと思いました。飲酒による疑似体験では、ゴーグルを着用してボールを投げました。（受講1年目）
- ・横浜修悠館高校に通ってみて、そこまで大変ではなく、楽しく通えた。この講座で学んだことは、成人すると危険なことが多くなるので気をつけないと、と思いました。（他校通級1年目）
- ・キャリア・ポートは一人ではなく何人かで活動するので他の人の意見を聞くことで学ぶことが多くありました。一人ではわからないことが他の人の意見を聞くことで解決したり、自分から発信することで成長できることがあるのでとても良い活動だったと思います。（受講1年目）
- ・コミュニケーションの基礎を身に着ける上でいい経験になった。今後も同じようなことを続けていけば更に身につくものがある気がする。（受講1年目）
- ・印象に残ったことは司書さんへの職業インタビューです。自分はやりたいことがあっても、何かと理由をつけて、挑戦することを諦めていましたが、司書さんの話を聞いて、自分も、やりたいことや、今までやりたくても出来なかった事に、もっと挑戦していこうと思いました。（受講2年目）

発表時のスライド1（他校通級生徒）

これまでの自分との変化や成長を実感している。

他者とのかわりの中で、前向きな変化が出てきた。

1年間を通して、成長を感じ取れている。

私とキャリア・ポート（N）2022  
受講前は…  
新しい場所に行くこともあり緊張しました。学校のつくりもわからなかったのでも迷ったこともありました。

私とキャリア・ポート（N）2022  
最初のころは…  
自己紹介が一番緊張しました。みんなよく話せていたので感心しました。  
最近では…  
学校に来るのも楽しくなってきた最初より、学校に来るのも楽しくなってきたような気がします。

私とキャリア・ポート（N）2022  
できたこと うまくいったこと よかったこと…  
学校生活の中で一年生のころよりもコミュニケーション力がついたと思います。修悠館に通って人と話す機会も増えたと思います。人見知りもだいぶ減ったと思います。  
大変だったこと 困ったこと…など  
入館証を忘れたときと、電車を乗り間違えたときは少しばかり焦りました。

私とキャリア・ポート（N）2022  
感想（できたこと、わかったこと、よかったこと…）  
遠出するときは、基本、車が自転車なので、あまり電車に乗ることがないのですが修悠館に通うことによって、電車の乗り方についてもかかわる事が出来たので自分のためになったと思います。  
また、文章を書く力も身についたかなと感じました。この一年を通してだいぶ成長したかなと思います。



発表時スライド2 (受講2年目)

**私とキャリア・ポート 2022**

受講前は…  
ちゃんと他の人としゃべれるか不安


最初のころは…  
緊張してうまくしゃべれなかった

最近では…  
まだ緊張はあるけれど最初の頃よりはしゃべれるようになってきていると思います

**私とキャリア・ポート 2022**

印象に残っていること  
職場体験・スーパー

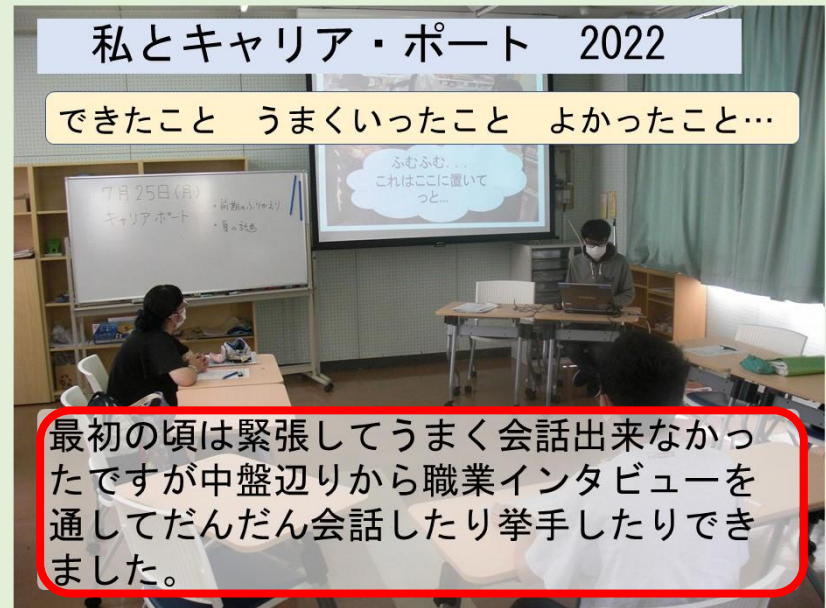
感想  
体験する前は品出しや接客、ちゃんと出来るかな?、と緊張  
↓  
体験中…午前中は緊張してどの場所にあるか分からなくて大変でした。午後は午前中の事を活かして出来て良かったと思いました。



**私とキャリア・ポート 2022**

できたこと うまくいったこと よかったこと…

最初の頃は緊張してうまく会話出来なかったですが中盤辺りから職業インタビューを通してだんだん会話したり挙手したりできました。



【話す経験を積むことで自信につながり積極的に】

発表時スライド3 (受講2年目)

キャリア・ポート2022 Best 3

**今年の感想ベスト3**

第1位 支援事業所見学・体験

第2位 職業体験で品出し体験  
「品出し中の接客マナー体験」

第3位 職業インタビューで貴重な体験

**私とキャリア・ポート 2022**

受講前は…  
人の前で発表とかの時声を出せるか不安と緊張でした。

最初のころは…  
みんなと上手くキャリアポートが出来るかドキドキと緊張でした。

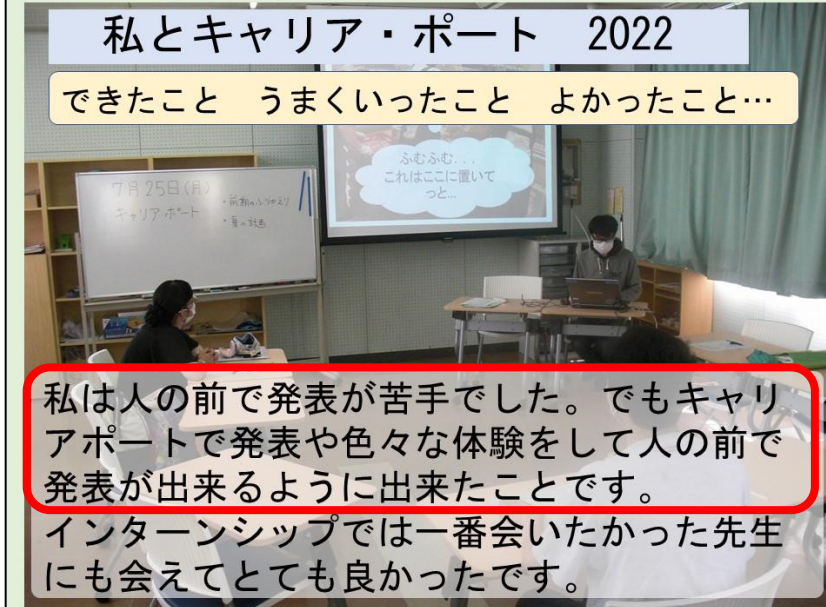
最近では…  
人の前で発表が出来て声も出る事ができたことです。

**私とキャリア・ポート 2022**

できたこと うまくいったこと よかったこと…

私は人の前で発表が苦手でした。でもキャリアポートで発表や色々な体験をして人の前で発表が出来るようになってきました。

インターンシップでは一番会いたかった先生にも会えてとても良かったです。



【体験の数だけできることも増えた】

(4) 次年度に向けて

昨年度同様、受講前の面談や、受講途中にも生徒との対話を丁寧に行っており、生徒個々の実態に応じた活動ができているため、生徒・保護者の満足度は非常に高いと感じている。

また、昨年度の課題にあった見学や体験の機会を設けたことで、実際の活動内容を知り次年度の参加を希望する生徒もいた。1年間継続して活動していくためには、生徒と保護者のニーズと、学校側の目的とのズレができるだけないようにしていくことが必要である。見学や体験は非常に有効な機会であるため、今後も継続していく必要がある。

そして、教員に対する研修は机上での情報共有や報告だけではなく、教員向けの見学や参加への機会を設定することが必要であると感じた。学校全体で関わる環境を整備していくことで、各担任が必要な生徒をピックアップしやすく、そして目的や必要性を伝えやすくなるのではないかと考える。

## キャリア活動 I C

### (1) プログラムの概要

キャリア活動 I Cは、湘南・横浜若者サポートステーションの関連施設である、K2 インターナショナルジャパン（以下、K2と略す。K2は、1988年より不登校・引きこもり・発達課題などの生きづらさを抱えた若者の自立就労支援サポートを継続している。）との連携講座であり、毎回外部講師としてK2の職員及びその関係者を迎えて、本校職員がサポートする形で運営している。校内での各種講座や校外での職場見学・職場実習・夏季インターンシップなどの機会を通じて、生徒たちに高校卒業後の自立と社会参加のための基礎力と自信をつけさせることを目的としている。対象生徒は、在籍2年目以降で、本校での基本的な学習習慣が身につけており、担任から見ても、社会に出る前の職業観の育成や、働くという経験が必要であると感じられる生徒。なお、対象生徒の手帳所持の有無は問わない。

### (2) 今年度の取組み

令和4年度の講座実施日と活動内容は以下の通りである。






スケジュール(火曜日 5時間目14:10~15:00)				
期	回	日にち	場所	内容
前期	1	5月10日	修悠館	オリエンテーション
	2	5月17日	修悠館	講座①:働く前の基礎講座①【言葉遣い】
	3	5月24日	修悠館	講座②:働く前の基礎講座②【印象アップ】
	4	5月31日	修悠館	講座③:自分の強み・長所について考える ※授業後、インターンシップ説明会
	5	6月14日	修悠館	職業人セミナー[1]
	6	6月21日	修悠館	職場見学事前学習
	7	6月28日 ※8週目	K2	<b>職場見学(半日)</b>
	8	7月5日	修悠館	職場見学事後学習
	9	7月12日	修悠館	講座④:一般職業適性検査(YG検査)の実施・前期まとめ
番外編		7月~9月	K2	夏のインターンシッププログラム(希望者)
		7月15日(金)AM	K2	AMインターン事前講座@K2ビル(インターンシップ希望者のみ)
		8月2日(火)13時~	修悠館	夏季特設スクーリング(GATB検査)(全員)
後期	10	9月27日	修悠館	講座⑤:仕事のルール、コミュニケーションとは? ※授業後 インターンシップ報告
	11	10月4日	修悠館	職場実習事前学習(職場下調べ等)
	12	10月5日	K2他	<b>職場実習(1日)</b>
	13	~10月31日		
	番外編		10月23日(日)	修悠館
	14	11月1日	修悠館	職場実習事後学習【お礼状】
	15	11月8日	修悠館	職業人セミナー[2]
	16	11月15日	修悠館	講座⑥:一人暮らしの生活コスト
	17	11月22日	修悠館	講座⑦:ハローワーク求人検索
	18	11月29日	修悠館	講座⑧:私の職業人人生&まとめ

今年度はコロナ禍が続く中ではあったものの、全ての講座を年度当初の計画通りに行うことができた。3年ぶりに外部からの客を入れた悠遊祭では、K2が出店した「うんめえもん市」という屋台の手伝いを本講座の受講生が行った。積極的にチラシ配りや呼び込みなどをする姿から、生徒の成長が感じられた。

(3) 成果






○気分メーターの導入






本講座を担当していて、例年、講座が進むにつれて生徒の積極性が増し、少しずつ自信がついていくように見受けられるが、生徒自身の実感はどのように変化していったのかが気になっていた。そこで、今年度は新たな取組みとして、毎回の授業レポートに、「気分メーター」と称して、生徒自身で講座の達成度を自己評価できる仕組みを導入した。

<small>きぶん きょう かつどう じこ ひょうか ひと かこ</small> <b>気分メーター(今日の活動を自己評価しよう) ※一つを○で囲んでください。</b>				
				
1.全然できていない	2.もう少し	3.ふつう	4.まあまあできた	5.よくできた
<b>◆なぜ、この自己評価にしましたか。</b>				

【文字だけでなく表情のマークをつけることで、生徒が自己評価をしやすくなるように工夫した。】

◆生徒の活用例

<small>きぶん きょう かつどう じこ ひょうか ひと かこ</small> <b>気分メーター(今日の活動を自己評価しよう) ※一つを○で囲んでください。</b>				
				
1.全然できていない	2.もう少し	3.ふつう	4.まあまあできた	5.よくできた
<b>◆なぜ、この自己評価にしましたか。</b>				
間違えることもあったけど、円滑に話し合いを進めることができたため。				

<small>きぶん きょう かつどう じこ ひょうか ひと かこ</small> <b>気分メーター(今日の活動を自己評価しよう) ※一つを○で囲んでください。</b>				
				
1.全然できていない	2.もう少し	3.ふつう	4.まあまあできた	5.よくできた
<b>◆なぜ、この自己評価にしましたか。</b>				
発表のときに声が裏返ってしまったり、意見を言えなかったから。				

【今回はなぜこの評価に至ったのか、自己の活動をしっかりと振り返ることができている。】

また、今年度の単位修得者7名の気分メーターの数値の変遷を見ると、前期平均3.56に対して、後期平均4.06と、前期から後期で0.5ポイント上昇していることが分かった。やはり、様々な活動を通して生徒たちが少しずつ自信を積み重ねていったことが、結果として数値に表れたのではないかと考えられる。

○今年度の活動の様子

令和4年度の主な活動を、写真と生徒の振り返りレポートの感想を交えながら紹介していく。なお、生徒の感想は原文表記を最大限尊重している。



【校内の講義はグループワーク・ペアワーク中心】



【印象アップ 美しい姿勢とは？】



【卒業生による職業人セミナー①】



【職場見学 名刺交換を学ぶ】



【ヨガ講師による職業人セミナー②】



【インターンシップ アロハキッチン】



【インターンシップ ぽによ+】



【インターンシップ にこまるソーシャルファーム】

#### ◆生徒の感想(抜粋)

- ・一番最初は前に立って緊張して声が小さくなってしまったことがありました。でもだんだん授業を受けるうちに自分なりに話せるようになりました。
- ・キャリアICを受ける前より積極的に人に話しかけられるようになったかなと思います。
- ・初めの頃のレポートはネガティブな内容が多い気がします。今日（※11月の最終回）のレポートは文字量も増えて気分メーターもニコニコしています😊
- ・社会人になったときのマナーや言葉遣いが自分の中では一番学びがあったと思います。
- ・今まで働くことの意義などがよくわからなかったのが、職場で実際に働いている人の体験談を聞いた、見学したりしたのがとても自分への励みになった。
- ・職業人セミナーがとても印象に残っている。なぜなら、自分と似たような境遇にあった人の話を聞いて、自分も頑張ろうと思えたから。
- ・一番印象に残っているのは職場実習です。理由は失敗してしまったことを直すためにはどうしていったらいいか、どうしていったら効率よく仕事を進められるかを考えて、自分なりに努力していたことで、少し成長できたなと思えたから。
- ・インターンシップや職場実習に行って「働く」ためには自分だけで考え込まないことが大切だと学んだ。分からないことがあるときは積極的に人に聞いていいのだと気づいた。
- ・社会に出て働くことで色々な経験をして、自分の世界を広げることができます。「働くこと」は自分の人生を豊かにするものだと知ることができました。

このように、生徒たちが1年間の活動を経て着実に成長していった様子が感想文に表れている。生徒たちは、この講座で学んだことを活かして、就職活動やアルバイト活動など、それぞれの次のステージへと進んでいく。その顔は、5月の初回授業時とは比べ物にならないくらいに晴れやかであることが多い。まさに本校の「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」が実現できていることの表れである。今後も、生徒たちが経験を積み重ね達成感と少しの自信を得て前向きな気持ちで社会へ踏み出していけるように、K2と連携してサポートを続けたい。

#### (4) 次年度に向けて

新着任者や若手の教員を中心に、本講座の内容をより理解してもらうことで、必要な生徒が確実に受講に結び付くよう働きかけをする。また、受講生徒のニーズに合うような体験先の拡充を図る。



## 中和田中学校に行ってきました！



文科事業5期/学校訪問  
小倉・山口・加藤さ



### 学校訪問の目的・視点

- 不登校生徒への支援
- ICT活用の状況
- 主体的な学びの形
- コロナ禍での学びの形の変化、生徒の変化

### Q コロナで生徒が変わったと感じることは？

A マスクをしているので、表情、感情を読み取ることに苦労している。教員としては授業のリアクションがつかみにくい。



## Q コロナ対応の学習形態は？



A

授業での大きな声での音読×

調理実習×

理科の実験×

グループで机をくっつけるグループワーク×

保護者の部活動試合、発表の観覧×

地域との連携がなくなったことで、**異年齢の方との交流の機会**がなくなってしまった。



## Q 不登校生徒への支援は？



特別支援教室

ハートフル  
スペース

家庭訪問  
学習支援  
事業

ハートフル  
フレンド

アットホーム  
スタディ

## Q コロナになってからの学校の変化



A 保健室の長時間滞在ができなくなった。帰るか、教室に戻るかの2択。

昼食時マスク

後遺症

小学校で保健室登校だった  
生徒の居場所問題



Q コロナになってから困ったことは？



A 担任が教室でお弁当を食べる時にも対面はNG。廊下で食べる担任もいる。昼食時の生徒観察ができなくなった。



特別支援教室



Q 不登校生徒への支援は？



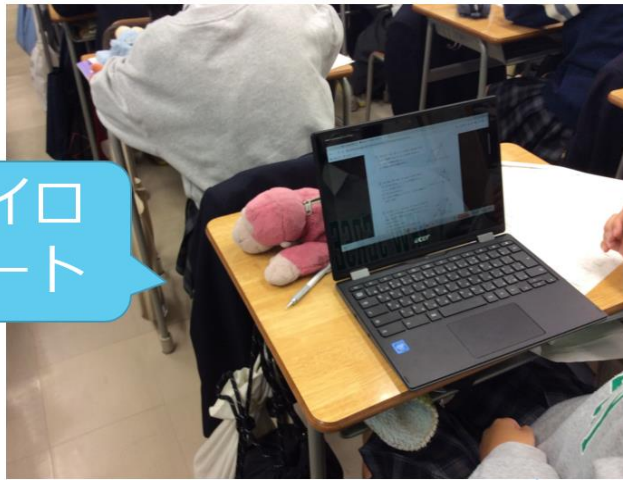
A 『お休みが**3日**続いたら**家庭訪問**をしよう』が中和田ルール。

あとは個別。

電話や、家庭訪問など、対面が基本。



中和田中学校では  
1人1台クロムブック



ロイロ  
ノート

社会『どのお祭りが〜だと思う？』  
フォームに入力して答えよう！



英語『好きな方で取り組みましょう』



教科書

デジタル  
教科書

## 数学『クロム使いたい人は使いましょう』

使う



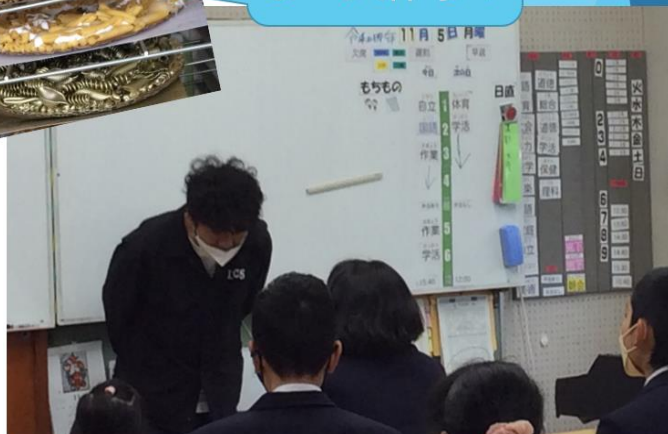
使わない

## 国語『考えをお隣さんと共有してみよう』

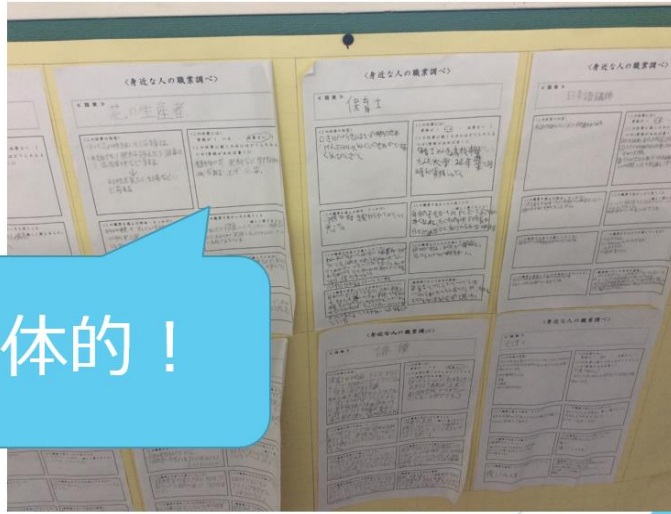


## 支援級

クリスマス  
リース作り！

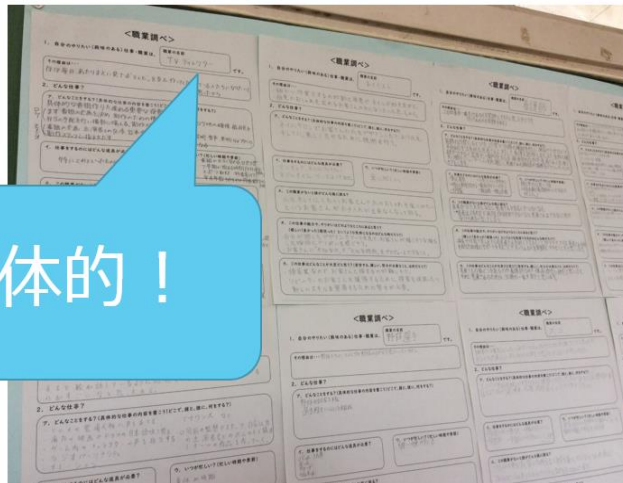


## キャリアに関する取り組み



具体的！

## キャリアに関する取り組み



具体的！

## 学校訪問を終えて次年度に活かしたいこと

■生徒は様々な状況の変化の中でも生き生きと活動していた。ICTを活用しながらも、生徒が自身にマッチする学習手段を選択できる環境が作られていた。教員にはさらに多様化する指導法の工夫が求められるとともに、高校での教育では、ICTに親しみを感じている生徒たちの学びをさらに強化していかなければならないと感じた。

# 早稲田大学 学校訪問

2022年 11月15日

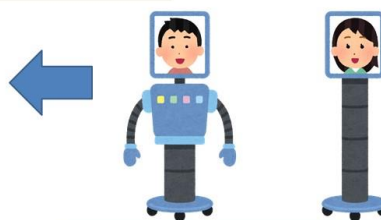
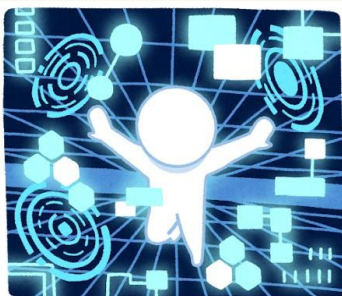
大城、真島、深田、橋本

○学校訪問の目的・視点

■ メタバース  
ICTを活用した学びの有効性を探る

○メタバースとは？

インターネット上に構築された仮想空間

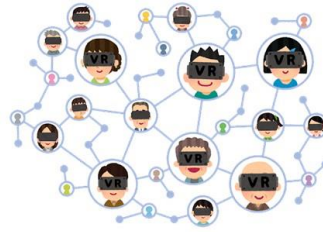


アバター（自分の分身）を作り  
仮想空間に入り込む。

### ○早稲田大学では

Virtual Reality：仮想現実  
専用ゴーグルをかけて仮想空間に没入するVR

メタバースとVRを組み合わせて使用。



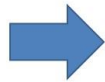
一人一人専用ゴーグルをかける。  
一人称視点で仮想空間に入り込むことができる。

入り込んだ仮想空間で他者と交流することができる。

### ○つまり

メタバースとVRを組み合わせて活用することで、

家にいながらも実際に学校に行っているかのような体験をすることができる。



コロナ禍で孤独を感じる学生への対応策

### ○総評

- ・体験学習ができるなど、通信制には向いている。
- ・コミュニケーションの最初の一步になるかも？

- ・導入が難しい。
- ・長時間の操作は難しい。
- ・のめりこみすぎると現実に戻ってこられない。



横浜修悠館で導入するためにはいくつかの課題の解決が必要



今後スモールスタートしていくか要検討

文部科学省 「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」

【検討会議委員】

氏名	所属・職名
森田 裕介	早稲田大学人間科学学術院 教授
増田 謙太郎	東京学芸大学教職大学院 准教授
梶原 敦	横浜市こども青少年局 青少年部青少年育成課 課長
岩本 真実	K2インターナショナルグループ NPO法人ヒューマンフェローシップ 代表理事
永島 靖之	横浜市立中和田中学校 校長
奥田 恵理子	横浜修悠館高等学校保護者コミュニティ 代表委員
富田 雅子	神奈川県立総合教育センター教育相談部教育相談課 課長
増田 年克	神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課 課長
永末 福太郎	神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課 指導主事
巻田 洋平	神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課 指導主事

【校内委員】

氏名	職名		所属・職名
原口 瑞	校長		総括
田上 英輔	副校長		総務
磯貝 久彦	教頭		総務
柿澤 剛	事務長		会計事務総括
真島 徹也	教諭	研究主任	地理歴史・公民科（教育相談・学習支援グループ）
深田 幸宏	教諭	1 班班長	地理歴史・公民科（教育相談・学習支援グループ）
筏 有司	総括教諭	2 班班長	理科（経営企画・広報グループ）
吉見 志奈子	教諭	1 班	国語科（生徒活動支援グループ）
大澤 浩祐	教諭	1 班	地理歴史・公民科（学校運営グループ）
川瀬 聡太	教諭	1 班	数学科（学務グループ）
山口 純一郎	教諭	1 班	保健体育科（学校運営グループ）
大城 省吾	教諭	1 班	保健体育科（経営企画・広報グループ）
坂井 一郎	教諭	1 班	保健体育科（キャリア教育推進グループ）
金子 将之	教諭	1 班	芸術（工芸）科（キャリア教育推進グループ）
橋本 真人	教諭	1 班	外国語（英語）科（生徒活動支援グループ）
加藤 早紀	教諭	1 班	家庭科（生徒活動支援グループ）
中野 周平	教諭	1 班	理科・情報科（学務グループ）
竹田 昌平	教諭	2 班	数学科（教育相談・学習支援グループ）
小倉 奈津子	教諭	2 班	国語科（キャリア教育推進グループ）
結城 佳織	教諭	2 班	保健体育科（経営企画・広報グループ）



文部科学省「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」  
～通信制におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践と発信及び  
横浜修悠館高校の協働的な「学びのコミュニティ」の改善普及～

令和4年度 報告書

令和5年3月発行

発行者 神奈川県立横浜修悠館高等学校

編集者 文部科学省「多様性に応じた新時代の学び充実支援事業」

調査研究校内委員会

印刷・製本 山口印刷所